



ANNUAL REPORT

2016年度 (平成28年度)

vol.3



SAISEIKAI

OTARU
HOSPITAL



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

北海道済生会小樽病院

平成28年度年報 目次

巻頭言	1	事務部	65
理念・基本方針・沿革・施設概要・組織図	3	・総括	65
I 年間主要行事		・総務課	66
2016年度 年間行事	6	・経理課	68
年度表彰	10	・施設用度課	69
・永年勤続	10	・医事課	70
・平成28年度接遇優秀者	10	・医療クラーク課	72
II 診療実績		・健康診断課	74
外来患者数	11	・地域医療支援課	75
紹介率・逆紹介率	14	・情報システム課	76
診療科別救急患者数	14	各委員会・診療チーム	78
入院	15	・NST委員会	78
手術	18	・院内感染予防対策委員会	80
学生受け入れ	19	・医療安全管理対策委員会	81
・診療部	19	・褥瘡対策委員会	84
・医療技術部	20	・クリニカルパス委員会	85
・看護部	21	・患者サービス検討委員会	86
III 部門報告		・広報委員会	87
診療部	22	・内分泌・糖尿病診療センター	88
・総括	22	・緩和ケアチーム	89
・内科	23	IV 教育・研究報告	
・循環器内科	24	済生会屋根瓦研修	92
・神経内科	25	地域研修	93
・外科	27	認定看護管理者教育課程セカンドレベル教育課程	94
・整形外科	28	認知症支援ナース育成研修	96
・泌尿器科	29	アドバンス・マネジメント研修Ⅰ	96
医療技術部	30	事務職員交流制度	97
・総括	30	論文発表	98
・薬剤室	31	著書	98
・臨床検査室	34	学会・研究発表	99
・放射線室	37	講義	103
・リハビリテーション室	39	講演	104
・栄養管理室	41	座長	106
・臨床工学室	43	認定資格	107
看護部	45	V 職員福利厚生会	
・総括	45	総括	110
・3A病棟	48	部活動	111
・3B病棟	50	・野球部	111
・4A病棟	52	・フットサル部	112
・4B病棟	54	・写真部	113
・5B病棟	56	・駅伝部	114
・外来看護課	58	院内保育所「なでしこキッズクラブ」	115
・透析センター	60	売店・食堂	117
・手術センター	62	あとがき	118
・看護部教育	63	編集後記	119



平成28年度 年報発刊にあたり

病院長 和田 卓郎

2016年3月に長年済生会小樽病院に貢献された近藤真章病院長が退任されました。近藤先生は1982年に整形外科医長として入職されました。当初、一人医長だった整形外科診療科を、現在の医師7人体制にまで育て上げました。同時に小樽市医師会の救急担当理事として、小樽市の救急医療のシステム作りに尽力されました。その功績が認められ、救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞されております。

病院長に就任された2008年からは、病院の新築移転に心血を注ぎました。済生会小樽病院は大正13年に小樽市手宮に診療所を開設し、昭和27年に病院診療を開始しました。建物の老朽化・狭隘化が進み、2013年8月に現在の小樽築港に新病院を建設し、移転しました。新築移転のコンセプトは地域の基幹病院として常に最新の医療サービスを提供する。同時に将来の変化に柔軟に対応できる永続性のある病院です。入院基本料7対1の急性期病棟では強みを持つ診療科に特化を進めました。地域包括ケア病棟を開設し、回復期リハビリテーション病棟とともに急性期から回復期まで切れ目のない一貫した医療を提供する体制をより強化しました。

プライベートでは学生時代に始められたテニスは相当な腕前で、小樽テニス協会会長を務めておられます。お酒をこよなく愛し、その温和な人柄から誰からも慕われる院長でした。退任後は名誉院長として引き続き、当院の運営に指導していただいております。

済生会小樽病院の年報をお届けするのは、本年度で3刊目になります。まだまだ内容は未熟で不備な点もあるかと思えます。ぜひご一読いただき、ご批判、ご指導をいただけますと幸いです。

近藤真章先生 病院長退任

平成29年3月31日をもちまして、近藤真章先生が病院長を退任されました。

昭和57年12月に当院に着任されてから34年4か月間の長きに渡り勤務され、その間、平成10年7月に副院長、平成20年2月病院長に就任されました。平成25年8月には、耐震問題や老朽化・狭隘化によってハード面に問題が出てきた小樽市手宮地区にあった病院を、小樽市築港地区に新築移転。その後も、居宅介護事業所や地域包括支援センターの併設、平成28年6月に日本医療機能評価機構3rdG:Ver1.1の認定など、数々の偉業を成し遂げられました。病院長退任後の平成29年4月に名誉院長に就任され、現在も変わらぬ笑顔で院内を明るくしています。

近藤先生、お疲れ様でした。そして、これからもよろしく願いいたします。



大橋看護部長と小樽病院なでしこ花畑をバックに

<学 歴>

昭和46年 3月 札幌医科大学卒業

<職 歴>

昭和46年 4月 札幌医科大学整形外科医局入局
昭和53年 2月 函館厚生院五稜郭病院勤務
昭和57年12月 済生会小樽病院 整形外科医長
平成10年 7月 済生会小樽病院 副院長
平成20年 2月 済生会小樽病院 病院長就任
平成29年 3月 済生会小樽病院 病院長退任
平成29年 4月 済生会小樽病院 名誉院長就任

<公 職>

平成 5年4月～平成19年3月 小樽市医師会 理事（救急担当）
平成19年4月～平成29年5月 小樽市医師会 副会長
平成29年6月～ 小樽市医師会 相談役
平成22年4月～ 学校法人共育の森学園 小樽看護専門学校長
平成23年4月～ 民事調停委員
平成25年6月～ 社会福祉法人小樽市社会福祉協議会 副会長

<受 賞>

平成18年 北海道社会貢献知事表彰（救急医療功労賞）
平成20年 厚生労働大臣表彰（救急医療功労賞）
平成28年 北海道社会貢献賞（国民健康保険事業功労者）



退任記念祝賀会

法人の理念

「施業救療の精神」
(分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉の手を差しのべる)

済生会小樽病院の理念

新たな地域医療の創造と社会貢献
患者中心、患者主体の医療
人を大切にする組織

基本運営方針

1. 急性期から回復期へ一貫した医療
2. 断らない医療
3. 地域包括ケアシステム構築
4. 無料低額診療事業の推進
5. 地域に必要な医療人の育成
6. 研究活動を支える環境整備
7. 医療・経営の可視化



すべてのいのちの虹になりたい

済生会は、明治天皇が医療によって生活困窮者を救済しようと明治44（1911）年に設立しました。100年以上にわたる活動をふまえ、今、次の三つの目標を掲げ、日本最大の社会福祉法人として全職員約59,000人が40都道府県で医療・保健・福祉活動を展開しています。

- 生活困窮者を 済（すく）う
- 医療で地域の 生（いのち）を守る、
- 医療と福祉、 会 を挙げて切れ目のないサービスを提供

病、老い、障害、境遇……悩むすべてのいのちの虹になりたい。
済生会はそう願って、いのちに寄り添い続けます。

病院の沿革

大正13年 7月	済生会小樽診療所開設「小樽市手宮1丁目6番地」
昭和27年12月	社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽北生病院開院 病床数22床5科(内科、小児科、外科、産婦人科、眼科)
昭和30年 1月	増床(62床 一般32床、結核30床)
昭和30年 9月	北海道済生会小樽北生病院附属 准看護婦養成所 併設
昭和32年 4月	病院の一部焼失
昭和32年 7月	病棟、管理棟増改築(33年棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階2139.56㎡ 増床(185床)
昭和36年 1月	整形外科開設
昭和40年11月	病棟、管理棟増改築(南棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階3023.65㎡
昭和41年 4月	皮膚・泌尿器科開設
昭和48年12月	乳児保育所併設
昭和51年 7月	増床(277床 一般140床、結核31床、老人106床) 耳鼻咽喉科開設
昭和55年 4月	人工透析開始(268床)
昭和56年 9月	結核病棟廃止(237床)
昭和58年 1月	増床(311床 一般131床、老人180床)
昭和59年 2月	病棟、管理棟増改築(北棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階塔屋付4252.45㎡
平成 2年10月	看護師宿舎増改築
平成 5年 6月	病棟、管理棟増改築(中央棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上5階塔屋付2803.59㎡
平成 6年 5月	麻酔科増設
平成10年10月	循環器内科開設 小児科廃止
平成13年12月	一部療養病床へ転換(289床 一般245床、療養44床)
平成14年 4月	MRI(1.5テスラ)導入
平成14年10月	社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院に名称変更
平成15年 3月	北海道済生会小樽病院附属 准看護師養成所 閉校
平成15年10月	体外衝撃波結石破碎装置導入
平成15年11月	皮膚科廃止
平成16年 4月	神経内科開設
平成17年 3月	産婦人科廃止、眼科廃止
平成18年 6月	院内全面禁煙開始
平成18年 9月	一般病床入院基本料10対1取得 マルチスライスCT(16列)導入
平成20年 7月	療養病床から回復期リハビリテーション病棟へ変更(44床から42床へ) 回復期リハビリテーション入院料2取得(42床)
平成21年 1月	回復期リハビリテーション入院料1取得
平成21年 7月	医療画像管理システム(PACS)導入
平成22年 9月	臨床研修病院(協力型)に指定
平成23年12月	新病院建築工事着工
平成24年 7月	MRIバージョンアップ
平成24年 9月	オーダーリングシステム運用開始
平成24年10月	マルチスライスCT(64列)に更新
平成25年 2月	一般病床入院基本料7:1取得
平成25年 8月	北海道小樽市築港10番1に移転。延17704.29㎡。許可病床数、一般258床(うち回復期リハビリ病床50床)。婦人科(女性診療科)新設。電子カルテ運用開始。
平成26年 4月	指定居宅介護支援事業所はまなす併設
平成26年10月	地域包括ケア病棟(53床)開設
平成27年 4月	地域ケアセンター併設・小樽市南部地域包括支援センター事業開始

病院概要

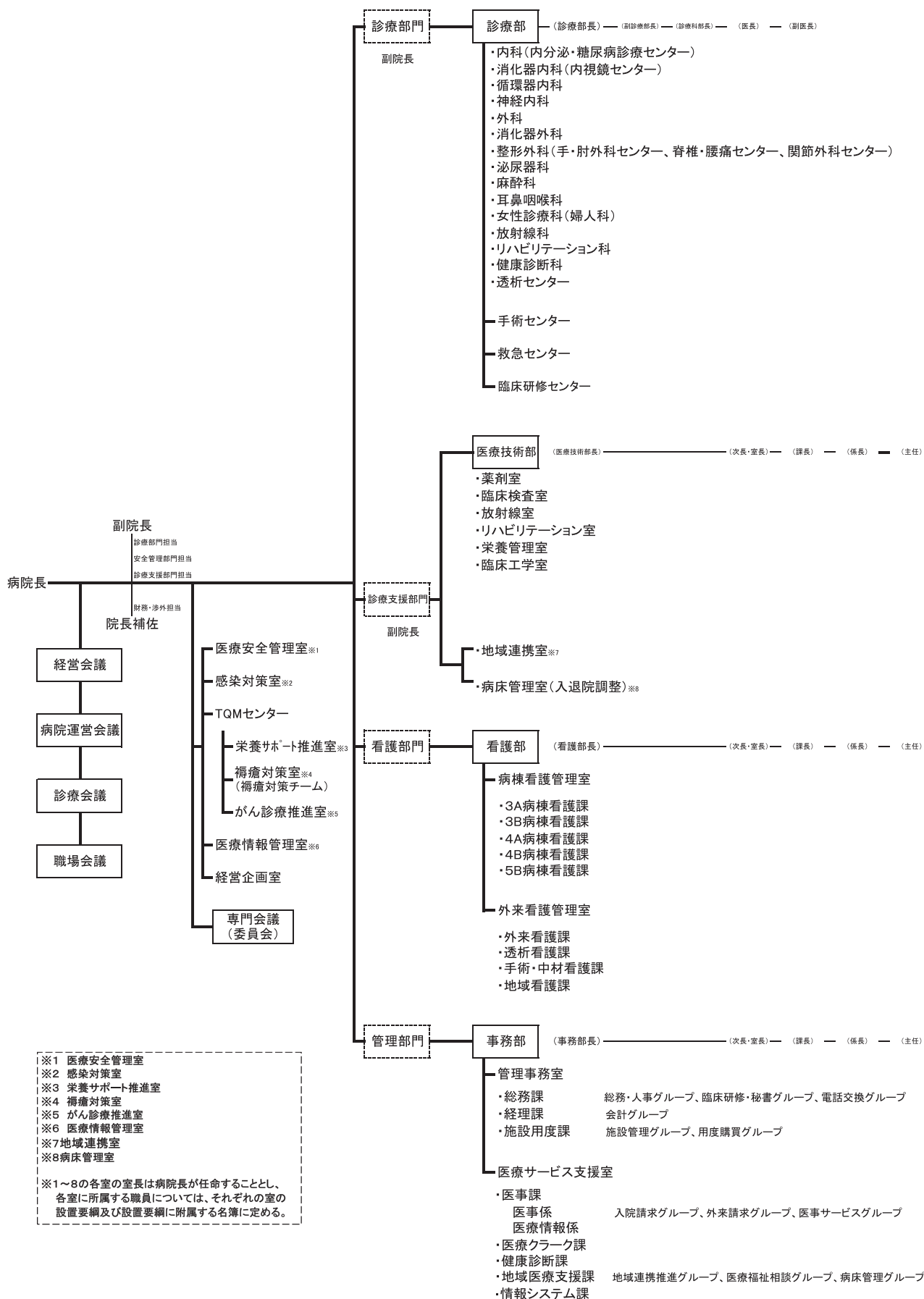
名 称	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院
所 在 地	〒047-0008 北海道小樽市築港10番1号
電 話 / FAX	電話番号：0134-25-4321 FAX番号：0134-25-2888
管 理 者	病院長 近藤 真章
病 院 種 別	一般病院
敷 地 面 積	19,147.41平方メートル
延 べ 床 面 積	17,704.29平方メートル (鉄筋コンクリート造、病院棟5階建て、エネルギー棟2階建て)
駐 車 ス ペ ー ス	147台
そ の 他 施 設	保育施設
許 可 病 床 数	一般病床 258床(包括ケア病棟53床、回復期リハビリテーション病床50床)
診 療 科 目	内科 消化器内科 循環器内科 神経内科 外科 消化器外科 整形外科 泌尿器科 婦人科 耳鼻咽喉科 放射線科 リハビリテーション科
外 来 診 療 時 間	【受付】 (午前の部) 8時50分～11時30分 (午後の部) 12時30分～16時30分 【診療時間】 (午前の部) 9時00分～12時30分 (午後の部) 13時30分～17時10分
面 会 時 間	【平日・土曜】 13時00分～20時00分 【日曜・祝日】 10時00分～20時00分

認定施設一覧

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本神経学会教育施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本手外科学会基幹研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設
- ・JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士認定規則 実地修練認定教育施設
- ・JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設

※病院概要については平成29年3月31日時点に掲載

組織図



※1 医療安全管理室
 ※2 感染対策室
 ※3 栄養サポート推進室
 ※4 褥瘡対策室
 ※5 がん診療推進室
 ※6 医療情報管理室
 ※7 地域連携室
 ※8 病床管理室

※1～8の各室の室長は病院長が任命することとし、各室に所属する職員については、それぞれの室の設置要綱及び設置要綱に附属する名簿に定める。

I 年間主要行事

2016年度 年間行事

4月	1日(金)	辞令交付式
	1日(金)～4日(月)	新採用者研修会
	11日(月)	糖尿病教室
	12日(火)	メタボリッククラブ
	18日(月)	集談会 やっぱりNSTって大事！より良い栄養療法を目指して
	19日(火)	病院運営会議
	21日(木)	医療安全セミナー 腓骨神経麻痺を起さないために
	25日(月)～5月26日(木)	地域包括型診療参加臨床実習(札幌医科大学学生2名)
	26日(火)	献血車来院 支部監査(平成27年度決算監査・業務監査)
5月	9日(月)～31日(火)	初期臨床研修地域医療(山形済生病院初期臨床研修医1名)
	9日(月)	糖尿病教室
	10日(火)	メタボリッククラブ
	11日(水)	ふれあい看護体験
	16日(月)	集談会 重症度、医療・看護必要度について
	20日(金)	緩和医療講演会 がん疼痛治療～神経障害性疼痛に困っていませんか？～ 講師：KKR札幌医療センター 緩和ケア科部長 瀧川千鶴子 様
	24日(火)	病院運営会議
	27日(金)	職員福利厚生会総会
	30日(月)～6月23日(木)	地域包括型診療参加臨床実習(札幌医科大学学生2名)
6月	1日(水)～29日(水)	初期臨床研修地域医療(山形済生病院初期臨床研修医1名)
	2日(木)	QCキックオフ発表会札幌大会出場チーム報告
	4日(土)	院内ロビーコンサート
	13日(月)	糖尿病教室
	14日(火)	病院運営会議
	20日(月)	集談会 災害看護 ①済生会熊本病院への救護派遣活動報告 ②もしも当院が被災地になったら
	24日(金)	NST地域連携懇話会 ①何が原因なの？食事にまつわるあるある話 ②やさしく解説！認知症の病態
	25日(土)	職員福利厚生会 新人歓迎会並びに春の宴
	27日(月)～7月21日(木)	地域包括型診療参加臨床実習(札幌医科大学学生1名)
7月	5日(火)	緩和ケア特別セミナー When the limits of medicine are reached, what is there left to say? 医学が限界に達した時、何を伝えるべきか？ 講師：スイスローザンヌ大学医学部精神医学教授 フリードリッヒ・スティーフェル 様
	8日(金)	参議院議員選挙 不在者投票
	9日(土)～10日(日)	E L N E C - J コアカリキュラム看護師教育プログラム
	11日(月)	糖尿病教室
	12日(火)	メタボリッククラブ
	19日(火)	病院運営会議
	19日(火)～29日(金)	初期臨床研修地域医療(済生会吹田病院初期臨床研修医1名)
	20日(水)	管理監督職研修
	27日(水)	DPC講演会 DPC対象病院へ向けての取り組み 講師：松阪市民病院 世古口勉 様
	30日(土)	職員福利厚生会 潮ねりこみ参加
8月	1日(月)	開院記念日
	2日(火)～26日(金)	初期臨床研修地域医療(山形済生病院初期臨床研修医1名)
	6日(土)	コメディカル体験ツアー
	8日(月)	糖尿病教室
	9日(火)	メタボリッククラブ
	15日(月)～26日(金)	初期臨床研修地域医療(済生会吹田病院初期臨床研修医1名)
	20日(土)	済生会 東北・北海道ブロック親善ソフトボール大会
	22日(月)	集談会 SARADを用いた認知症の画像診断

8月	24日(水)	市民公開健康セミナー 寝たきりを防いで健康に暮らすために 1 ①骨粗しょう症はなぜ治療するのか ②丈夫な骨は毎日の食事から
	26日(金)	BLS研修
9月	1日(木)～30日(金)	初期臨床研修地域医療(山形済生病院初期臨床研修医1名)
	12日(月)	糖尿病教室
	13日(火)	メタボリッククラブ
	16日(金)	職員研修 結核について 講師：小樽市保健所 垣本烈 様
	25日(日)	済生会健康フェスタ in 小樽
	28日(水)	看護師復職支援セミナー
	30日(金)	BLS研修
10月	7日(金)	防火訓練
	11日(火)	メタボリッククラブ
	17日(月)	糖尿病教室 集談会 肩こりについて
	18日(火)～20日(木) 25日(火)～27日(木)	NST実地修練
	19日(水)	市民公開健康セミナー 寝たきりを防いで健康に暮らすために 2 ①骨が折れる人・折れない人 ②転ばない身体づくり
	21日(金)	緩和ケア講演会 切除不能膀胱癌の化学療法 講師：札幌医科大学 消化器内科学講座 助教 本谷雅代 様
	28日(金)	BLS研修
	11月	5日(土)
14日(月)		糖尿病教室
18日(金)		市民公開健康セミナー 寝たきりを防いで健康に暮らすために 3 ①骨が折れないためにできること ②コツコツ続ける薬物療法 緩和ケア講演会 乳がんのトータルケア～最近の話題～ 講師：札幌医科大学 消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座 助教 島宏彰 様
21日(月)		集談会 がんリハビリテーションの目的 ～なぜがん患者にリハビリするのか～
22日(火)		第1回認知症ケアチーム研修会 ①認知症ケア加算について ②認知症の基礎知識
28日(月)		BLS研修
28日(月)～30日(水)		院内QC大会
12月		6日(火)
	12日(月)	糖尿病教室
	13日(火)	メタボリッククラブ
	15日(木)	永年勤続表彰式並びに福利厚生会忘年会
	17日(土)	保育所クリスマス発表会
	29日(木)	健康づくり研修会 ①健康診断を受けてよかった～特定検診・特定保健指導～ ②禁煙成功への道～あなたと、あなたの大切な人のために～
	30日(金)	仕事納め
	1月	6日(金)
17日(火)		病院運営会議
20日(金)		QC札幌大会 札幌コンベンションセンター 当院より3チーム参加
21日(土)		野球検診 小樽リトルシニア球団
27日(金)		BLS研修
2月		14日(火)
	15日(水)	小樽・後志整形外科手術手技研究会 橈骨遠位端骨折の最新知見－EBMと臨床－ 講師：岡山済生会総合病院 診療部長 今谷潤也 様
	20日(月)	集談会 手術室の医療機器トラブルについて
	21日(火)	病院運営会議
	25日(土)	BLS研修
	3月	4日(土)
13日(月)		糖尿病教室
14日(火)		メタボリッククラブ
16日(木)		院内感染対策予防研修会 講師：スリーエムジャパン株式会社 西山貴明 様

新採用者研修 4/1～4



災害支援ナース 熊本へ派遣 5/5～7



市内高校生ふれあい看護体験 5/11



日本医療評価機構認定 6/3



ロビーコンサート 6/4



スイスローザンヌ大学 スティーフェル教授
緩和ケア特別講演会 7/5



おたる潮まつり ねりこみ 7/30



高校生向けコメディカル体験ツアー 8/6



おたるワークステーション 8/12

市民公開健康セミナー 「寝たきりを防いで健康に暮らすために」 8/24・10/19・11/18



済生会健康フェスタin小樽 9/25



ボーリング大会 11/5



院内QC大会 11/28～30



野球検診



1/21・3/4



市内小学校へ出前健康教室 1/25



共和町スポーツセミナー 2/25

韓国医療視察団来院 3/24



年度表彰

●永年勤続

30年表彰	今野 晶子 土田 周子	看護課長 看護師
20年表彰	笹山 貴司 竹村 仁美	医療安全管理室課長 看護助手
10年表彰	千坂あかね 砂川 友紀 森地 有希 本城祐美子 小野 智子 坪田 朝美 髭内 朝美 福井谷裕子	看護主任 看護師 看護師 看護師 看護師 准看護師 理学療法士 介護福祉士



●平成28年度接遇優秀者

患者サービス検討委員会では接遇向上の為に年度接遇標語を設け、患者さん及び職員からの投票で接遇優秀者を決定しております。

患者サービス検討委員会平成28年度接遇標語

「気にしていますか 自分の言葉 感じてますか
相手の気持ち」
接遇優秀者表彰テーマ：嬉しかった気遣い、優しい言葉をかけてくれたあなたに1票

職員間投票 大賞 鎌田トヨ子（外来看護師）



投票者コメント

「いつも穏やかでニコニコしている。患者さんはもちろん、スタッフに対してもいつも優しい。患者さんもスタッフも声がかかりやすい」
「困っている時助けてくれる。きちんとした指摘もしてくれる」等

患者間投票 大賞 澤田 涼子（4B病棟看護師）

投票者コメント

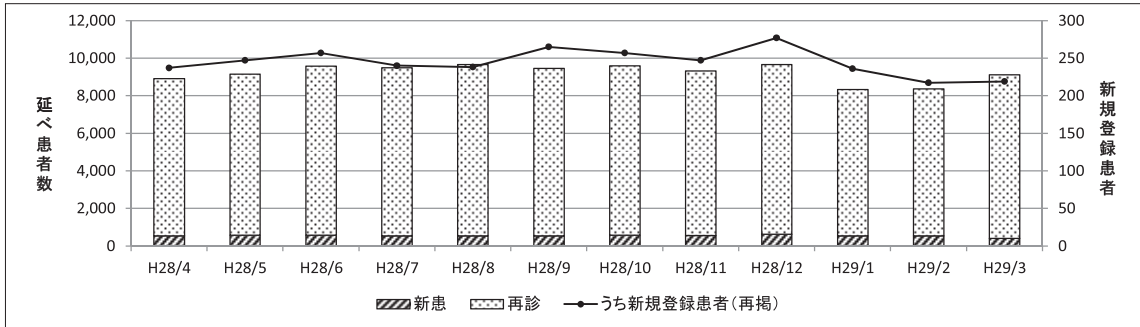
「薬の事で相談させてもらった際、まるで自分の家族のように暖かい態度で接して頂きました。一步近づいて話を聞き、笑顔での励ましに癒されました。感謝しています。」等

Ⅱ 診療実績

外来患者数

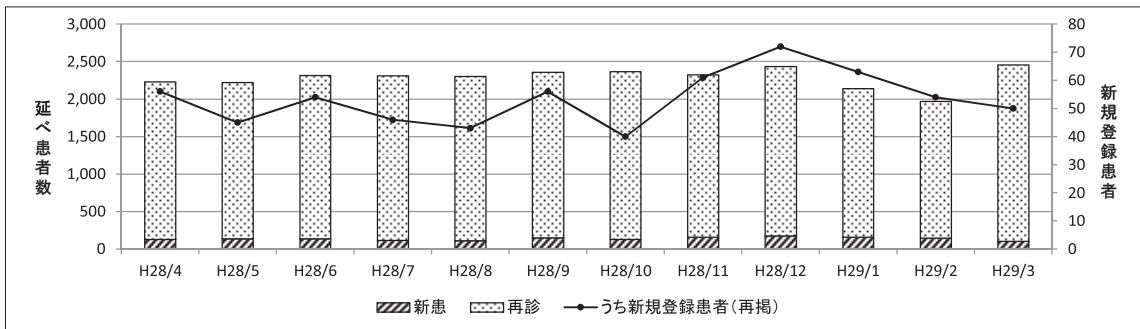
全体

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
再診	8,367	8,571	9,006	8,945	9,119	8,902	9,019	8,761	9,039	7,780	7,829	8,717	104,055
新患	537	582	574	551	537	553	577	563	623	548	546	412	6,603
うち新規登録患者(再掲)	237	247	257	240	238	265	257	247	277	236	217	219	2,937
延べ患者数	8,904	9,153	9,580	9,496	9,656	9,455	9,596	9,324	9,662	8,328	8,375	9,129	110,658



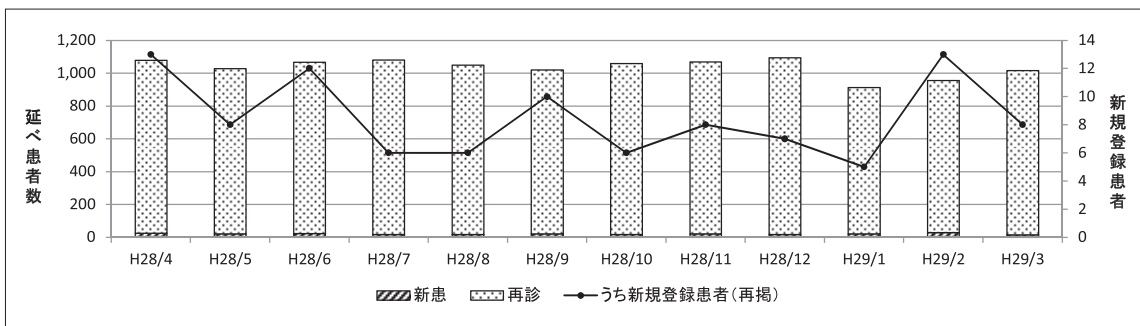
内科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
再診	2,098	2,084	2,180	2,194	2,191	2,207	2,238	2,163	2,257	1,979	1,825	2,352	25,768
新患	133	139	139	115	112	151	129	161	178	163	147	106	1,673
うち新規登録患者(再掲)	56	45	54	46	43	56	40	61	72	63	54	50	640
延べ患者数	2,231	2,223	2,319	2,309	2,303	2,358	2,367	2,324	2,435	2,142	1,972	2,458	27,441



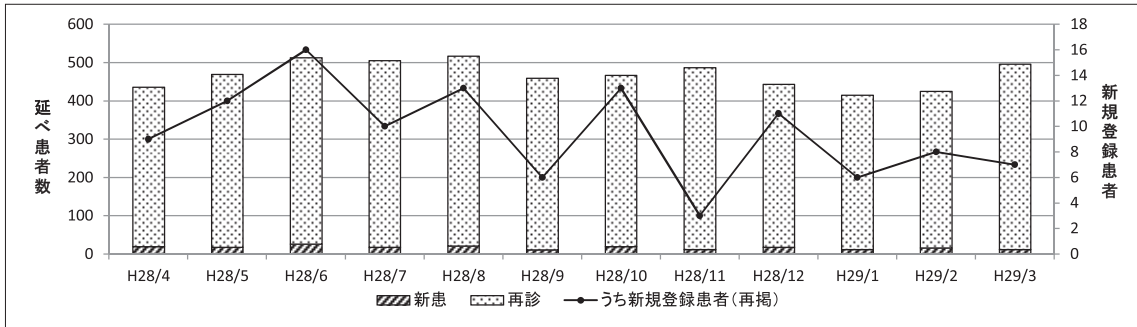
循環器内科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
再診	1,056	1,005	1,044	1,063	1,032	999	1,042	1,047	1,076	894	928	1,002	12,188
新患	24	22	23	18	18	20	17	22	18	20	28	15	245
うち新規登録患者(再掲)	13	8	12	6	6	10	6	8	7	5	13	8	102
延べ患者数	1,080	1,027	1,067	1,081	1,050	1,019	1,059	1,069	1,094	914	956	1,017	12,433



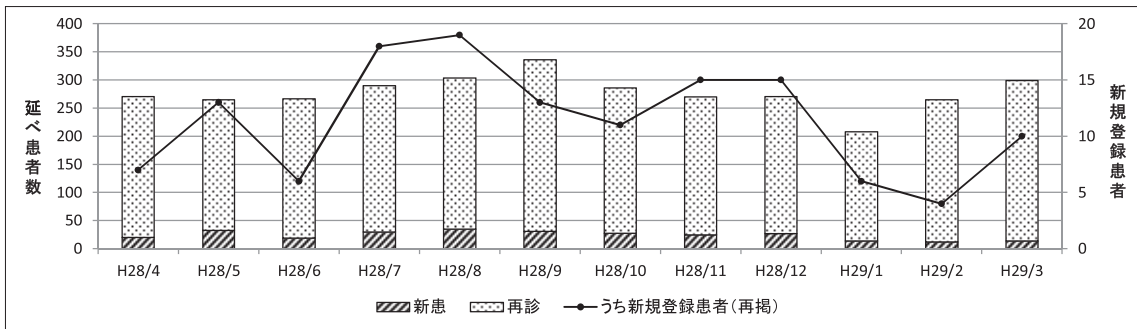
神経内科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
再診	416	451	487	487	496	448	448	475	425	403	409	484	5,429
新患	20	18	26	18	21	11	19	12	18	12	16	12	203
うち新規登録患者(再掲)	9	12	16	10	13	6	13	3	11	6	8	7	114
延べ患者数	436	469	513	505	517	459	467	487	443	415	425	496	5,632



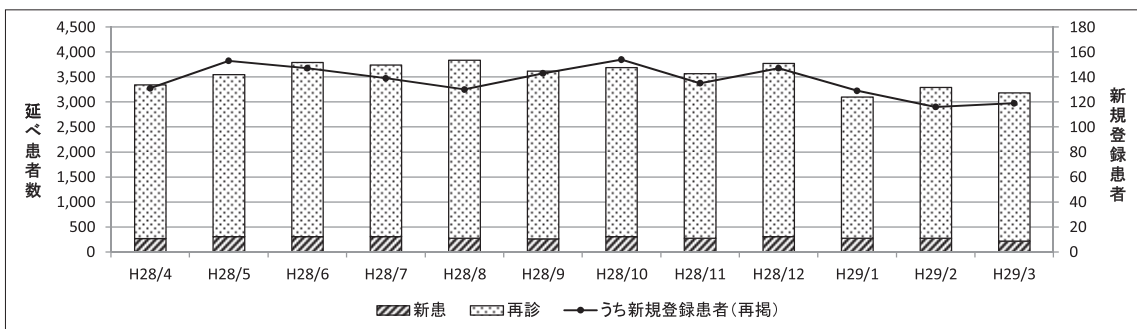
外科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
再診	251	232	248	260	269	305	258	245	244	194	253	285	3,044
新患	20	33	19	30	35	31	28	25	27	14	12	14	288
うち新規登録患者(再掲)	7	13	6	18	19	13	11	15	15	6	4	10	137
延べ患者数	271	265	267	290	304	336	286	270	271	208	265	299	3,332



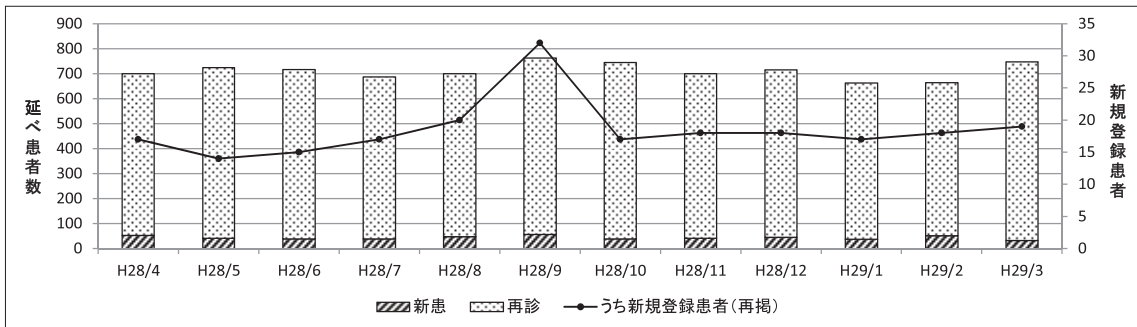
整形外科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
再診	3,074	3,236	3,489	3,436	3,568	3,356	3,384	3,287	3,467	2,824	3,012	2,965	39,098
新患	274	315	307	309	275	270	307	282	311	281	279	220	3,430
うち新規登録患者(再掲)	131	153	147	139	130	143	154	135	147	129	116	119	1,643
延べ患者数	3,348	3,551	3,796	3,745	3,843	3,626	3,691	3,569	3,778	3,105	3,291	3,185	42,528



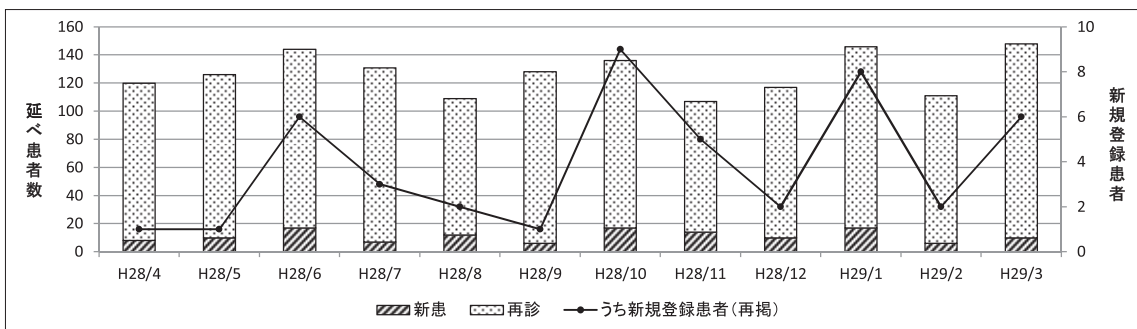
泌尿器科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
再診	646	682	678	647	651	706	706	659	671	626	612	716	8,000
新患	54	42	39	40	49	57	39	41	45	37	52	32	527
うち新規登録患者(再掲)	17	14	15	17	20	32	17	18	18	17	18	19	222
延べ患者数	700	724	717	687	700	763	745	700	716	663	664	748	8,527



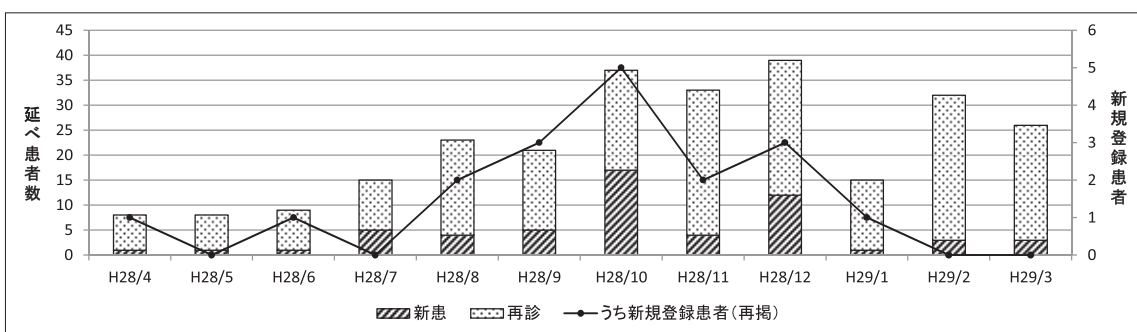
耳鼻咽喉科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
再診	112	116	127	124	97	122	119	93	107	129	105	138	1,389
新患	8	10	17	7	12	6	17	14	10	17	6	10	134
うち新規登録患者(再掲)	1	1	6	3	2	1	9	5	2	8	2	6	46
延べ患者数	120	126	144	131	109	128	136	107	117	146	111	148	1,523



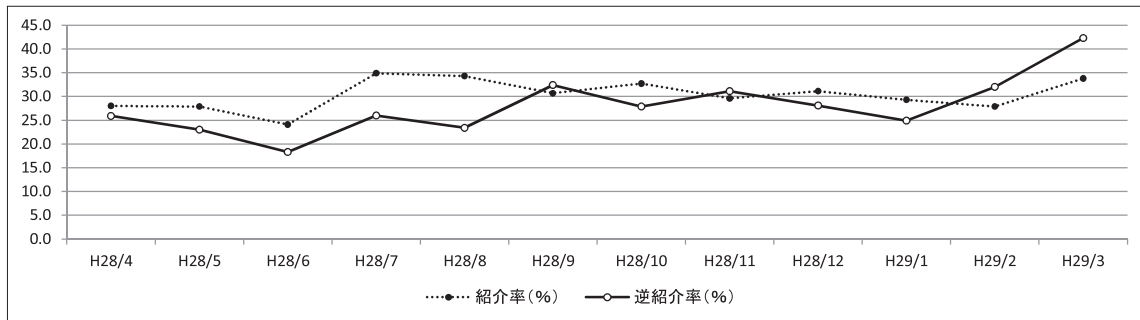
婦人科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
再診	7	7	8	10	19	16	20	29	27	14	29	23	209
新患	1	1	1	5	4	5	17	4	12	1	3	3	57
うち新規登録患者(再掲)	1	0	1	0	2	3	5	2	3	1	0	0	18
延べ患者数	8	8	9	15	23	21	37	33	39	15	32	26	266



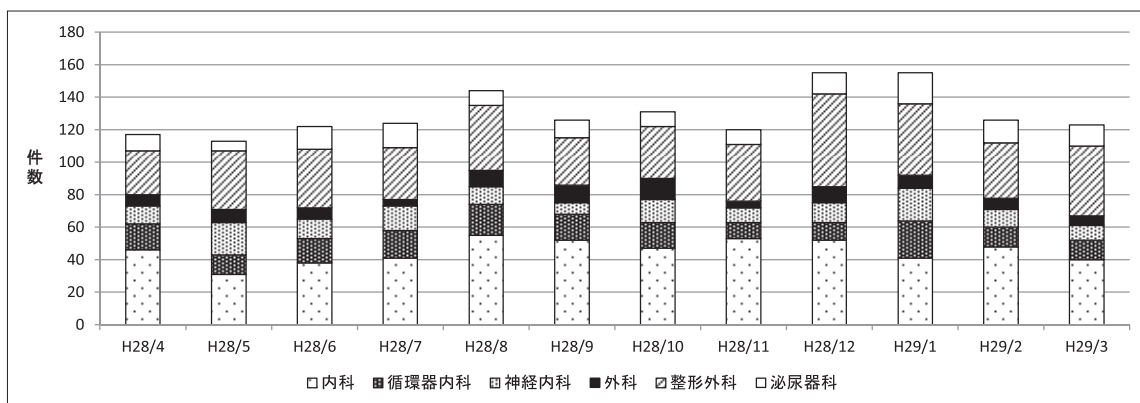
紹介率・逆紹介率

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
紹介率(%)	28.0	27.9	24.1	34.9	34.3	30.7	32.7	29.6	31.1	29.3	27.9	33.8	30.4
逆紹介率(%)	25.9	23.0	18.3	26.0	23.4	32.4	27.9	31.1	28.1	24.9	32.0	42.3	27.9



診療科別救急患者数

		H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
内科	外来	5	4	4	3	3	3	3	8	7	4	5	2	51
	入院	41	27	34	38	52	49	44	45	45	37	43	38	493
	合計	46	31	38	41	55	52	47	53	52	41	48	40	544
循環器内科	外来	1	2	2	1	3	1	2	1	2	5	3	0	23
	入院	15	10	13	16	16	15	14	9	9	18	9	12	156
	合計	16	12	15	17	19	16	16	10	11	23	12	12	179
神経内科	外来	1	2	2	2	1	0	2	0	2	1	0	0	13
	入院	10	18	10	13	10	7	12	9	10	19	11	9	138
	合計	11	20	12	15	11	7	14	9	12	20	11	9	151
外科	外来	0	1	1	0	1	0	1	2	0	0	1	2	9
	入院	7	7	6	4	9	11	12	2	10	8	6	4	86
	合計	7	8	7	4	10	11	13	4	10	8	7	6	95
整形外科	外来	5	6	4	6	7	8	1	5	10	9	10	7	78
	入院	22	30	32	26	33	21	31	30	47	35	24	36	367
	合計	27	36	36	32	40	29	32	35	57	44	34	43	445
泌尿器科	外来	1	3	0	6	1	2	0	2	1	7	2	3	28
	入院	9	3	14	9	8	9	9	7	12	12	12	10	114
	合計	10	6	14	15	9	11	9	9	13	19	14	13	142
総計	117	113	122	124	144	126	131	120	155	155	126	123	1556	



入院

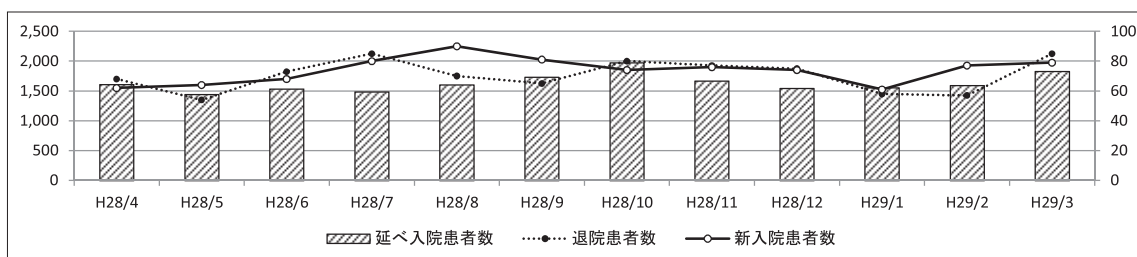
入院患者（病院全体）

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
延べ入院患者数	6,355	5,981	6,427	6,428	6,243	6,489	6,784	6,794	6,519	6,943	6,720	6,897	78,580
退院患者数	246	228	245	269	230	241	237	255	284	209	234	274	2,952
新入院患者数	231	238	257	242	261	236	253	240	264	251	236	242	2,951

診療科別入院患者数

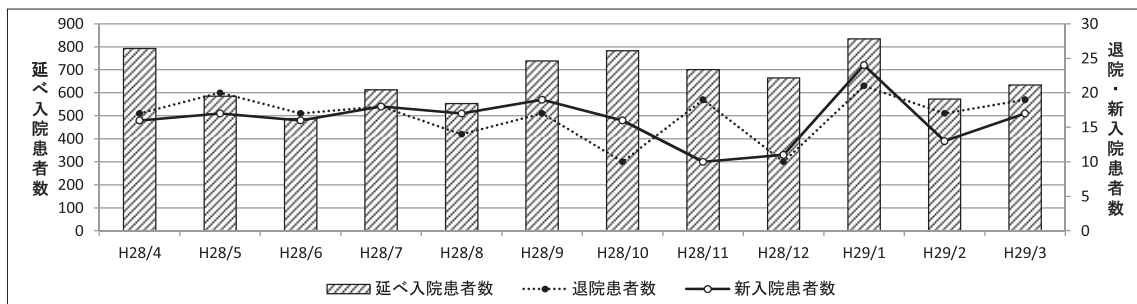
内科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
延べ入院患者数	1,613	1,444	1,537	1,489	1,606	1,733	1,977	1,671	1,543	1,558	1,595	1,829	19,595
退院患者数	68	54	73	85	70	65	80	77	75	58	57	85	847
新入院患者数	62	64	68	80	90	81	74	76	74	61	77	79	886



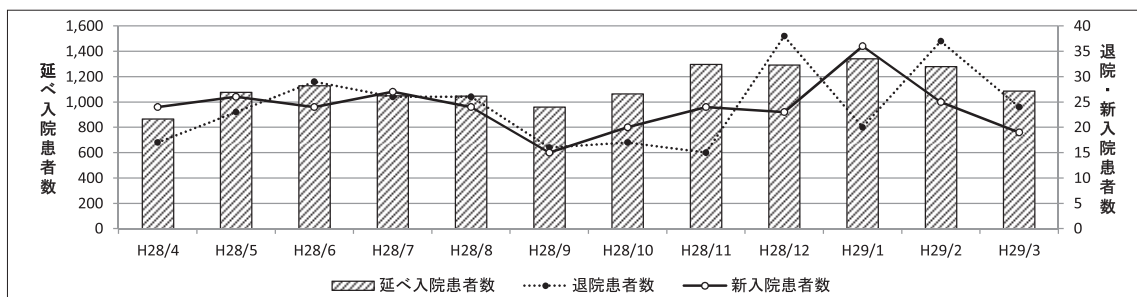
循環器内科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
延べ入院患者数	794	586	488	614	554	738	783	702	664	835	573	634	7,965
退院患者数	17	20	17	18	14	17	10	19	10	21	17	19	199
新入院患者数	16	17	16	18	17	19	16	10	11	24	13	17	194



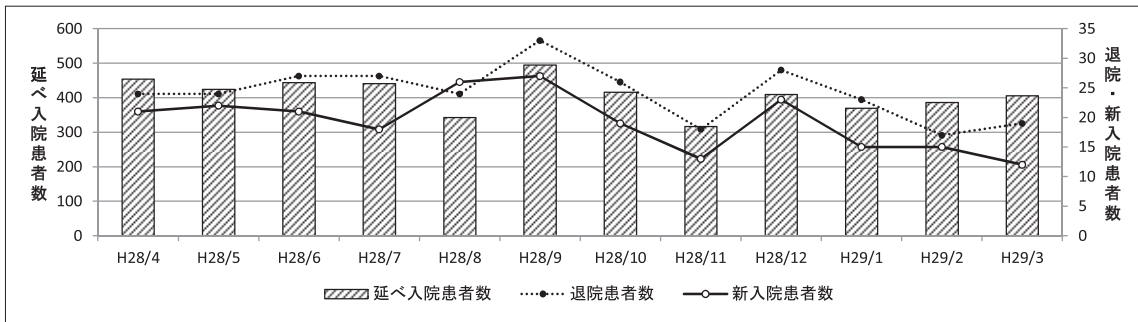
神経内科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
延べ入院患者数	865	1,078	1,129	1,051	1,047	960	1,064	1,298	1,294	1,343	1,280	1,087	13,496
退院患者数	17	23	29	26	26	16	17	15	38	20	37	24	288
新入院患者数	24	26	24	27	24	15	20	24	23	36	25	19	287



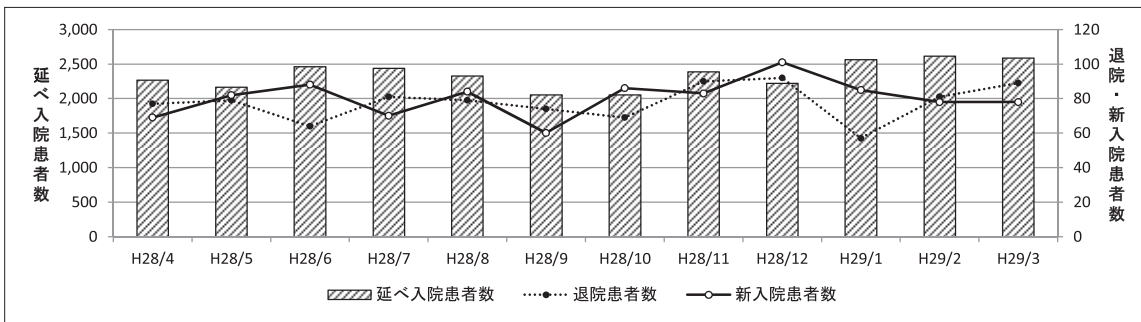
外科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
延べ入院患者数	455	425	444	442	343	495	417	317	410	370	387	406	4,911
退院患者数	24	24	27	27	24	33	26	18	28	23	17	19	290
新入院患者数	21	22	21	18	26	27	19	13	23	15	15	12	232



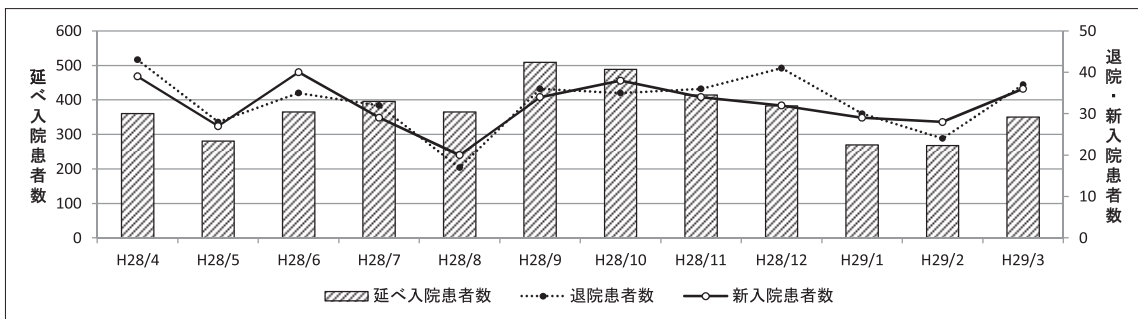
整形外科

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
延べ入院患者数	2,267	2,167	2,463	2,436	2,328	2,054	2,054	2,391	2,225	2,566	2,616	2,588	28,155
退院患者数	77	79	64	81	79	74	69	90	92	57	81	89	932
新入院患者数	69	82	88	70	84	60	86	83	101	85	78	78	964



泌尿器科

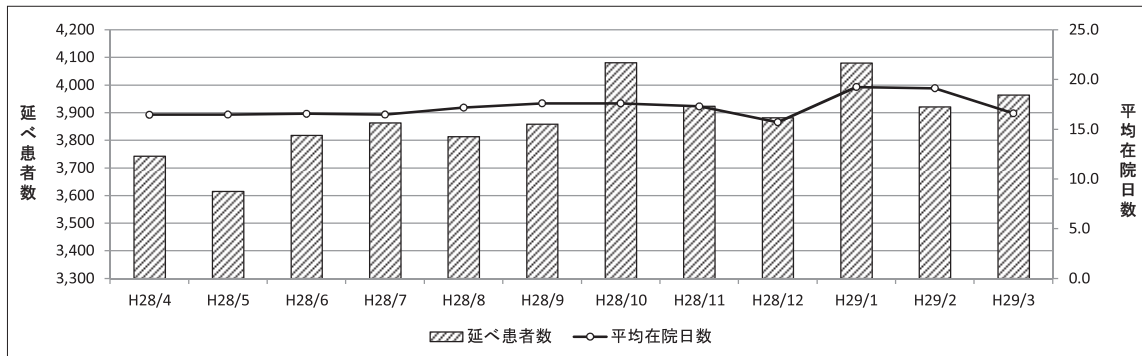
	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
延べ入院患者数	361	281	366	396	365	509	489	415	383	270	268	351	4,454
退院患者数	43	28	35	32	17	36	35	36	41	30	24	37	394
新入院患者数	39	27	40	29	20	34	38	34	32	29	28	36	386



病棟別入院患者数

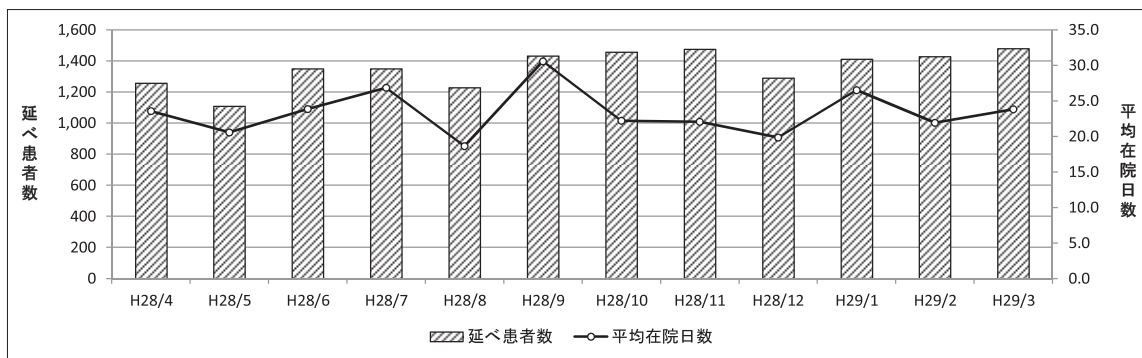
一般病棟入院患者数・平均在院日数

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
延べ患者数	3,743	3,615	3,818	3,864	3,813	3,859	4,082	3,924	3,882	4,080	3,921	3,964	46,565
1日平均患者数	124.8	116.6	127.3	124.6	123.0	128.6	131.7	130.8	125.2	131.6	140.0	127.9	127.7
平均在院日数	16.5	16.5	16.6	16.5	17.2	17.6	17.6	17.3	15.7	19.3	19.1	16.6	17.2



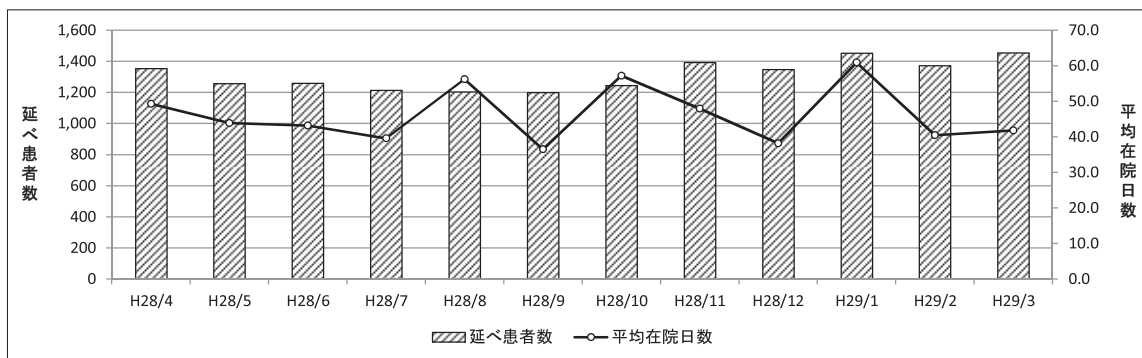
地域包括ケア病棟入院患者数・平均在院日数

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
延べ患者数	1,258	1,108	1,350	1,349	1,228	1,432	1,457	1,476	1,290	1,411	1,428	1,479	16,266
1日平均患者数	41.9	35.7	45.0	43.5	39.6	47.7	47.0	49.2	41.6	45.5	51.0	47.7	44.6
平均在院日数	23.6	20.6	23.9	26.8	18.6	30.6	22.2	22.1	19.8	26.5	21.9	23.8	23.4



回復期リハ病棟入院患者数・平均在院日数

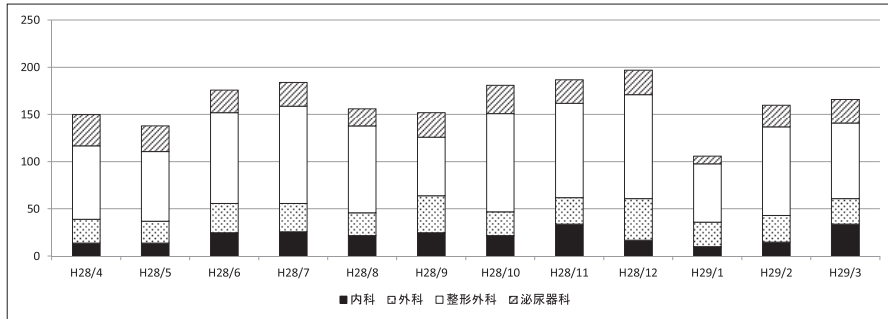
	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
延べ患者数	1,354	1,258	1,259	1,215	1,202	1,198	1,245	1,394	1,347	1,452	1,371	1,454	15,749
1日平均患者数	45.1	40.6	42.0	39.2	38.8	39.9	40.2	46.5	43.5	46.8	49.0	46.9	43.2
平均在院日数	49.3	43.9	43.2	39.6	56.2	36.5	57.2	48.0	38.2	60.9	40.5	41.8	46.3



手術

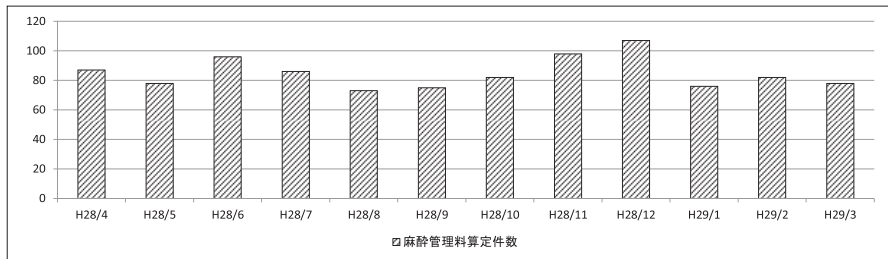
診療科別手術件数

		H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
内科	入院	11	14	21	24	21	20	19	29	15	10	14	29	227
	外来	3	0	4	2	1	5	3	5	2	0	1	5	31
	合計	14	14	25	26	22	25	22	34	17	10	15	34	258
外科	入院	17	16	21	22	13	22	11	19	31	14	19	16	221
	外来	8	7	10	8	11	17	14	9	13	12	9	11	129
	合計	25	23	31	30	24	39	25	28	44	26	28	27	350
整形外科	入院	62	59	78	77	78	49	86	82	90	43	72	52	828
	外来	16	15	18	26	14	13	18	18	20	19	22	28	227
	合計	78	74	96	103	92	62	104	100	110	62	94	80	1055
泌尿器科	入院	29	27	24	23	17	25	27	25	22	7	22	24	272
	外来	4	0	0	2	1	1	3	0	4	1	1	1	18
	合計	33	27	24	25	18	26	30	25	26	8	23	25	290
総計	150	138	176	184	156	152	181	187	197	106	160	166	1953	



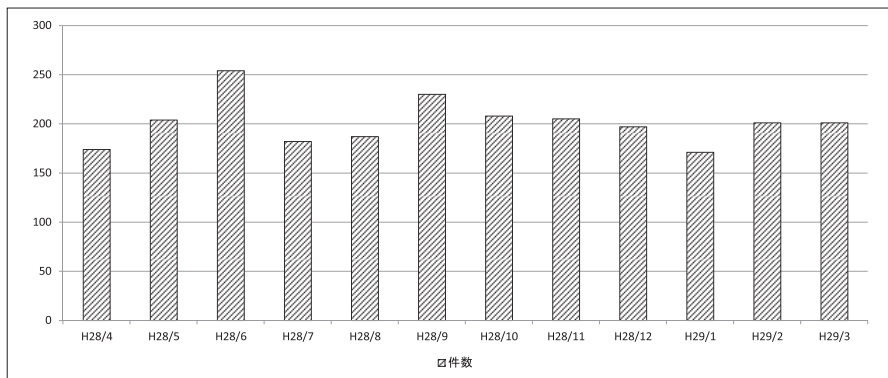
麻酔管理料算定件数

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
件数	87	78	96	86	73	75	82	98	107	76	82	78	1018



内視鏡検査件数

	H28/4	H28/5	H28/6	H28/7	H28/8	H28/9	H28/10	H28/11	H28/12	H29/1	H29/2	H29/3	計
件数	174	204	254	182	187	230	208	205	197	171	201	201	2414



学生受け入れ

■ 診療部

平成28年度 実習受け入れ実績

診療部では平成28年度、札幌医科大学より計133名の神経内科実習（選択・必須・必須クリニカルクラークシップ）の受け入れをしました。今後も受け入れを継続していきます。

養成職種	関連機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
医 師	札幌医科大学	6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	H28 4月13日	4
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	H28 5月18日	5
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	H28 6月15日	5
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	H28 6月29日	3
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	H28 8月 4日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 4月 6日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 4月20日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 5月11日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 5月25日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 6月 8日	4
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 6月22日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 7月 6日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 7月20日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 8月24日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 9月 7日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 9月28日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 10月12日	6
		5年	神経内科学分野（必須クリクラ）	H28 11月14日・16日・17日	1
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 11月24日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 12月 7日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H28 12月21日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H29 1月18日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H29 2月 1日	6
5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H29 2月15日	6		
5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	H29 3月 1日	5		

■ 医療技術部

医療技術部における平成28年度の実習受け入れ実績としては、5部署において計8校からの実習受け入れ依頼に応じ、8職種、62名の学生が当院で実習を行いました。今後も地域の基幹病院として積極的に教育機関からの実習受け入れを行うとともに、実習内容の質向上に努めます。

【薬剤室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
薬剤師	北海道薬科大学	6年	薬学実務実習	平成28年 5月 9日～平成28年 7月22日	2名
		5年	薬学実務実習	平成28年 9月 5日～平成28年11月18日	2名
		5年	薬学実務実習	平成29年 1月 9日～平成29年 3月24日	2名
		1年	早期体験実習	平成28年 7月13日～平成28年 7月13日	4名

【臨床検査室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
臨床検査技師	札幌医学技術福祉歯科専門学校	3年	臨床検査臨地実習	平成28年 5月 6日～平成28年 7月 8日	2名

【リハビリテーション室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
理学療法士	北海道医療大学	4年	総合臨床実習	平成28年 5月 9日～平成28年 7月 1日	2名
		1年	見学実習	平成28年 8月 1日～平成28年 8月 3日	2名
		3年	評価実習	平成29年 1月10日～平成29年 2月17日	1名
		1年	見学実習	平成29年 2月13日～平成29年 2月15日	1名
		2年	検査・測定実習	平成29年 2月20日～平成29年 3月 3日	2名
	北海道文教大学	4年	総合臨床実習	平成28年 6月20日～平成28年 7月29日	1名
		1年	臨床見学	平成28年 9月12日～平成28年 9月16日	1名
		2年	検査・測定実習	平成28年12月 5日～平成28年12月16日	2名
		3年	評価実習	平成29年 1月23日～平成29年 2月10日	1名
	札幌医学福祉歯科専門学校	3年	評価実習	平成28年 9月 5日～平成28年 9月29日	2名
		1年	臨床見学	平成28年10月24日～平成28年10月31日	1名
		2年	検査・測定実習	平成28年11月21日～平成28年12月 7日	2名
作業療法士	北海道文教大学	1年	見学実習	平成29年 2月20日～平成29年 2月24日	1名
		4年	総合臨床実習Ⅰ	平成28年 4月 4日～平成28年 5月27日	1名
		4年	総合臨床実習Ⅱ	平成28年 6月13日～平成28年 8月 5日	1名
		3年	評価実習	平成28年 8月29日～平成28年 9月16日	2名
	北海道医療大学	1年	臨床見学	平成28年 8月 1日～平成28年 8月 4日	2名
言語聴覚士	北海道医療大学	1年	見学実習	平成28年 8月17日～平成28年 8月18日	2名
	日本福祉教育専門学校	2年	総合臨床実習	平成28年10月31日～平成28年12月10日	1名

【栄養管理室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
管理栄養士	藤女子大学	4年	管理栄養士実務学習	平成28年 7月 4日～平成28年 7月 8日	1名
		3年	臨床栄養学実習Ⅲ	平成28年 9月26日～平成28年10月 7日	4名
		2年	病院見学実習	平成29年 3月16日～平成29年 3月16日	6名
		2年	病院見学実習	平成29年 3月27日～平成29年 3月27日	5名
	天使大学	3年	臨床栄養学実習Ⅱ	平成28年11月 7日～平成28年11月18日	2名
栄養士	光塩女子短期大学	2年	臨床栄養学実習	平成28年 8月21日～平成28年 9月 1日	2名

【臨床工学室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
臨床工学技士	北海道科学大学	3年	透析・医療機器管理	平成28年11月29日～平成28年12月 6日	2名

■ 看護部

平成28年度、北海道科学大学、小樽看護専門学校、小樽市医師会看護高等専修学校より臨地実習の受け入れを病棟、外来部門で行いました。専門職としての看護活動の基本が実践できるように学内で学んだ知識、技術、態度を臨床に応用できる知識へと高めるとともに、基本的な技術を習得するため今後も積極的に実習を受け入れ実習内容の質向上に努めていきます。

平成28年度実習受け入れ実績

養成職種	教育機関名	学年	学習目的	実習期間	人数
看護師	北海道科学大学	2年	基礎実習Ⅱ	平成28年 7月19日～ 8月10日	64名
		1年	基礎看護学実習Ⅰ	平成29年 1月31日～ 2月 5日	31名
看護師	小樽看護専門学校	3年	母性看護実習	平成28年 4月13日～ 9月28日	39名
		3年	看護の統合と実践実習	平成28年10月 3日～10月18日	23名
		2年	基礎看護実習	平成29年 2月20日～ 3月 3日	20名
准看護師	小樽医師会 看護高等専修学校	2年	基礎看護実習	平成28年 5月25日～ 6月15日	19名
		2年	成人・老年看護実習	平成28年 6月20日～12月 9日	41名

臨地実習指導者研修風景



Ⅲ 部門報告

診療部

■ 総 括

2016年の、済生会小樽病院診療部は、内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、外科、消化器外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、女性診療科、リハビリテーション科、健康診断科、放射線科の計13の科から構成されております。これらの13の科は、常勤医23名ならびに一か月あたり120名もの非常勤医により運営されています。常勤・非常勤を問わず、綿密な協力体制のもと日々当院の医療レベル向上を目指しつつ、真摯に診療を行っております。

一方で教育面におきましては、札幌医科大学のクリニカルクラークシップならびに5年生・6年生の臨床実習など、積極的な受け入れを行っております。また初期研修医の地域医療研修における協力型研修施設と

して、山形済生病院、済生会吹田病院などから研修医を受け入れております。

そして研究面では臨床研究・臨床治験などを受け入れ、学会発表・論文作成なども活発に行われております。このように多忙な中でも臨床・教育・研究が滞りなく行われるように、また快適な医局での時間が過ごせるように、良い環境づくりを目指しております。特に医局では、常勤医・非常勤医・研修医のいずれもが快適な環境となるように、水越医局長ならびに吉田秘書を中心に日々精進・努力しております。

診療部長 堀田 浩貴

内 科

【スタッフ】

- 舩谷治郎 副院長（日本消化器内視鏡学会専門医）
宮地敏樹 内科部長
水越常德 診療部長（日本内科学会認定医・指導医、日本内分泌学会専門医・指導医、日本甲状腺学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本環境感染学会ICD、日本人間ドック学会認定医）
明石浩史 内科部長（日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器内視鏡学会専門医）
田中道寛 内科部長（日本内科学会認定医、日本消化器内視鏡学会専門医）

【当科の特徴】

消化器を中心に、内分泌疾患、血液疾患、免疫疾患、呼吸器疾患まで幅広い分野の総合的な診察、治療を行っています。消化器に関しては常勤の5名の医師に加えて、札幌医科大学第一内科と連携し、同大学のスタッフが月、水に胆・膵チームスタッフが毎週非常勤で勤務しており最新で高度な医療を提供しています。また週1回の合同カンファレンスにより外科とも密接に連携して診療しています。内分泌に関しては甲状腺を中心に後志地区の他の医療機関から多くの紹介を受け、集約的に診察しています。血液疾患に関しても診断から化学療法まで、免疫疾患に関しても診断から生物学的製剤を含む治療まで行っています。呼吸器疾患もCOPD、喘息の治療を呼吸器リハビリチームと共同で行い、肺炎、特に誤嚥性肺炎に関しては神経内科と連携し再発予防を含めた診療を行っています。

以下の内科関連の学会認定施設となっており、診療の質の確保に加え、医師の教育にも力をいれています。

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設

【実績】

1) 外来

内科外来として午前は月から金曜日各2枠、平日午後および土曜日午前1枠の合計16枠で診療を行っています。また土曜日午前に甲状腺専門外来を開設しています。外来患者数は27,441人、紹介率は34.9%、逆紹介率は26.6%です。主病名による上位疾患には高血圧、糖尿病、胃潰瘍、脂質異常症、急性上気道炎・気管支炎、便秘症など消化器疾患に加えて生活習慣病

患者が多くいます。甲状腺専門外来開設により小樽はもとより後志地区の甲状腺疾患の診療拠点となっています。また地区の高齢化に伴い癌患者が増加しており外来化学療法、緩和医療患者も増加傾向にあります。なお前年度と比較し、外来患者総数は増加しており、同時に紹介率・逆紹介率の増加もあり、他医療機関との繋がりが強まりました。

2) 入院

2016年の入院総数は886人、緊急入院は365人、平均在院日数は17.7日。入院疾患・入院目的の上位には大腸ポリープ・胃ポリープの粘膜切除・粘膜下切除、糖尿病（教育入院、糖尿病性ケトアシドーシスなど）、肺炎（主に誤嚥性）、イレウス、各種消化器癌（胃癌、膵癌）、虚血性腸炎、大腸憩室出血、脱水症などで消化器を中心に多岐にわたります。小樽地区の高齢化を反映し呼吸器系感染症、各種悪性腫瘍、脱水症などの入院が多く、また全体の約1/3が緊急入院であり小樽市の救急医療の一端を担っています。

【平成28年度の取り組み】

- 1) 消化器診療では、前年度導入の超音波内視鏡を活用し、消化管粘膜下腫瘍、胆膵疾患に対する診療の充実をはかりました。
- 2) 内科3科（神経内科、循環器内科と当科）共同で札幌医科大学6年生のICT連動型地域実習の受け入れ人数を増やし継続した指導をおこないました。

【今後の目標】

診療自体に関しては、消化器疾患の診療の質の向上を図ります。またがん診療体制の強化によりがん診療連携指定病院の取得を目指します。

また、市民向け講演会の開催により医学や医療の知識に普及による疾患予防や早期の治療介入につなげたいと考えています。

当院は札幌医科大学附属病院の協力型臨床研修病院であり、初期研修医の受け入れや、卒前学生の研修受け入れなどによる医学・医療教育への貢献と、内科系3科共同の総合的な内科教育をさらに発展させようと考えています。

以上のような取り組みにより地域に信頼される病院・診療科を目指していきます。

内科部長 明石 浩史

循環器内科

【スタッフ】

森 喜弘	循環器内科部長
高田美喜生	循環器内科部長
國分 宣明	非常勤

【当科の特徴】

当科は、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、心不全、不整脈、弁膜症、大動脈疾患、先天性心疾患などの心血管疾患全般を専門的に扱うとともに、腎疾患および高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病も対象に幅広い分野の診察・治療を行なっています。

特に腎機能が低下する原因は多様ですが、原疾患が何であろうとも進行した状態においては体液組成を中心とした共通かつ複数の代謝異常が生じます。

しかも、それぞれの代謝異常自体が腎障害の進行因子として作用し、同時に他臓器の障害も進行させることが多くあります。

高齢化にともない、慢性腎臓病に代表される腎臓病は増加しており、当科外来の患者さんの多くも、腎機能障害を有しています。当科は日常診療において1人、1人病態を理解し、対策を講じることに つとめています。

【平成28年度の取り組み】

慢性腎臓病（CKD）の原因疾患である糖尿病性腎症、高血圧性腎硬化症の治療に特に力を注ぎ、末期腎不全（ESRD）への進行の抑制と心血管病変の発症の予防を目的として、高齢化社会に対応した実践的なCKD対策に努力しています。

【今後の目標】

慢性腎臓病（CKD）が注目されるのは、1つは透析療法や腎移植などの腎代替療法を必要とする末期腎不全（ESRD）患者の増加です。多くの患者のQOLを低下させるだけでなく、経済的、人的に多大なコストを要しています。

2つ目は、CKDは末期腎不全のリスクのみならず、心血管事故や死亡あるいは入院のリスクファクターとして重要であることが、多くの疫学研究により明らかにされています。

すなわち、CKDはその数の多さと腎臓以外の健康障害の危険因子として人々の健康を脅かす重要な疾患として位置づけられています。

CKDは高血圧・糖尿病などの生活習慣病や加齢など、今後も増え続けることが確実な背景因子と深い関連があります。したがって、増え続けるESRDの発生を抑えるため、そして、心血管事故を予防するために、CKDの早期発見と、原因疾患に対する適切な治療に取り組んで行くことが大切であると考えています。

循環器内科部長 森 喜弘

神経内科

【スタッフ】

部長/副診療部長	松谷 学
部長	林 貴士
医長	津田 玲子
副医長	越智龍太郎
(非常勤医師)	川又 純 (札幌医大神経内科学准教授)

【概要】

当科は小樽後志圏の数少ない神経内科急性期ベッド運用と主に脳血管疾患の回復期リハビリテーション専従（津田医長）としての運用をおこなってきました。総計で数えると例年当科入院例では脳血管疾患がほぼ45-55%を占めます（これは本州市中病院の神経内科と同様の割合で、道内ではむしろ多い方です）が、北海道の神経内科としての特徴からか変性疾患、神経感染症、神経免疫関連疾患、末梢神経疾患、脳内占拠性病変の（当初みえない）意識障害例が多く、特徴的な症状病態を呈するせいか後者の印象が強いです。実際、パーキンソン病/症候群や筋萎縮性硬化症などのいわゆる神経内科特有の変性疾患は有病率からみると小樽市内症例のほぼ8割にかかわっている計算になります。ただし小樽市外の後志圏では、圏内から札幌までの多くの大小医療機関に数名ずつ散在しているようで、急変時の対応含め地域難病支援体制への後志でのあり方を考えるのも急務かと思えます。後志振興局を中心に難病医療ネットワーク連絡協議会として今年度から話し合いがもたれています。

【教育のことなど】

日本内科学会総合内科専門医2名、神経内科専門医5名（1名非常勤）を擁しています。教育の面では学生実習は札幌医大医学部学生（5年次）必修クリニカルクラークシップ110名、神経内科選択クリニック（6年次）20名を受け入れています。

日本神経学会教育施設であり専攻医（後期研修医）の先生には当院独自で神経内科専門医資格を取得できる体制を整えています。今年度は当院在職中に1名の先生が、さらに昨年に在職した1名の先生が日本一？難しいという（悪）評価高い日本神経学会専門医試験を受験され、合格されています。また日本内科学会認定医試験には1名の先生が合格されており、急性期病院だから専門試験の勉強は困難とか巷間でいうのもあてはまらないとおもいます。要はきちんとまんべんなく適切な深さで学習できる環境にあるかどうかということだと思っています。

【特に認知症関連のこと】

今年度は院内認知症ケアチームの林部長が国立長寿

研の認知症サポート医講習を修了し、相談件数が市内で最多である小樽市南部包括支援センターと協働して、市立病院の認知症センターと協力しつつ、認知症臨床の充実を図ろうとしています。認知症自体がもはや特殊な疾患ではなく、後期高齢者の実に5人に1人の罹患でありかつ複数の身体科の受診に実際にかかわっている現状からです。いわゆる単にバージケースの掘り起しよりは（それはそれで必要な戦略ですが）、かつて診断 / 対応ありながら疾患病態ゆえに継続的にかかわりが中断したり、状況が変わってしまい現状との乖離が生じているケースにもむしろ目をむけ南部包括の管轄内から地域内の諸医療機関様の特性に抛り地道に対応していく必要があります。包括支援センターまた地域連携室の文脈を見据えた対応をこれまで以上をお願い申し上げます。

当院は認知症看護認定看護師がまだいない中、以前より認知症ケアに対応した学習会を主導していた院内自主グループの協力を得、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、事務部からも応援頂きケアチームの立ち上げに関わりました。認知症ケア加算IIの算定は始まっていますがそれのみにとどまらず、疾患病態へのまなざし・認知症者のひととなりへのまなざし・介護者や家族などとりまく環境/支える人へのまなざし・進行性疾患にいかにかかわりうるか自分たちの限界も含めたうえでの包括的なまなざし、を軸に自ら学びつつ認知症ケア対応がさらに発展していくことを望みます。

また済生会認知症ケア支援ナース養成研修の本部委託に関し、私と大橋看護部長が研修会企画、道外施設の認知症看護認定看護師、老年医療専門看護師らの協力支援を得て、全国済生会グループからの参加看護師に対し研修会講義、演習を行いました。各種医療団体もH28年度の認知症加算の創設に従い研修事業が行われたなかで、当研修事業の評価が好評であったのは幸いでした。これに弾みを得て、なお追加要望のあるH29年度研修会開催、また道外施設の認定看護師との共同研究も行っていきたいとおもいます。

【次年度にむけて】

H29年度は本部より済生会医学・福祉共同研究補助を得、看護部や院内認知症ケアチームと共にせん妄対応能向上目的の啓発研修の充実とその後のパフォーマンス評価を研究テーマにする予定です。

また臨床研修協力施設、新・専門医制度下の内科専攻医研修基幹施設の認定を受けましたらより多くの若手医師に選ばれる施設でありたいと思い研修カリキュラムを作成しています（追記 H29年6月内科専攻医研修基幹施設プログラム追加条件なしで一次判定通過済み）。

言い旧されたことながら若手の医師や専門医確保も大変重要である一方、昨今の情勢は認定看護師制度下でより専門的な業務が看護部門にも求められそこを核とした院内横断活動に診療報酬や加算がみとめられてきています。当院では難病医療認定看護師にひきつづ

き認知症看護認定看護師の存在も必要となるでしょう、看護部のご理解ご支援も願うところです。

神経内科部長 松谷 学

外 科

【スタッフ】

氏名	役職名	専門・認定資格等
長谷川 格	副院長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 認定医・消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医
孫 誠一	外科部長	日本消化器病学会 専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 専門医・消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医・暫定教育医 検診マンモグラフィ読影認定医
田山 誠	外科医長	
茶木 良	非常勤医師	日本消化器病学会 専門医 日本外科学会 専門医・認定医 日本医師会 認定産業医 検診マンモグラフィ読影認定医
島 宏彰	非常勤医師	日本外科学会 指導医・専門医 日本乳癌学会 専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
前田 豪樹	非常勤医師	日本消化器病学会 専門医 日本外科学会 専門医

【部署の特徴】

当科では消化器疾患、甲状腺疾患の外科治療と、ヘルニア、乳腺疾患、肛門疾患の診断と治療を行っています。また、手術症例を中心に術後補助化学療法、進行・再発症例に対する化学療法、緩和治療も担当しています。

当科では「体にやさしい手術」を追求し、道内でも先駆的となる平成3年より腹腔鏡下胆嚢摘出術を導入し、その後も適応を拡大し、現在では胃十二指腸疾患、大腸疾患、ヘルニアなど様々な腹部疾患に対して腹腔鏡手術を実施しています。また、常勤の日本内視鏡外科学会技術認定医の指導により安全かつ質の高い腹腔鏡手術を提供していると自負しています。特筆すべきは、総胆管結石症に対し一期的治療が行える腹腔鏡下胆管切石術を実施できる道内でも数少ない施設の一つとして知られています。

消化器疾患については内科放射線科とのカンファレンスを通して緊密に連携し診療を行っています。また、消化管穿孔、急性虫垂炎、急性胆嚢炎などの腹部救急疾患についてはスピーディーな対応ができる体制を整備しています。

【実績】

	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
胃切除術	7 (4)	4 (2)	12 (4)	12 (5)
胃全摘術	5 (2)	5 (1)	4 (1)	3 (0)
胆嚢摘出術	46 (43)	46 (44)	63 (59)	59 (57)
胆管切石術	6 (6)	6 (6)	6 (6)	11 (11)
結腸切除術	19 (10)	19 (10)	28 (13)	22 (18)
直腸切除術	2 (2)	7 (4)	8 (3)	8 (5)
直腸切断術	0 (0)	2 (2)	2 (2)	3 (3)
虫垂切除術	11 (8)	12 (9)	10 (9)	11 (9)
鼠径部ヘルニア手術	27 (17)	30 (22)	23 (13)	43 (18)
腹壁癭痕ヘルニア手術	1 (0)	4 (0)	7 (2)	5 (0)
甲状腺手術	7	13	17	13
乳腺手術	1	1	1	4
肛門手術	7	8	7	8
外来手術	138	139	113	137

※総手術件数（腹腔鏡手術件数）

【平成28年度の取り組み】

平成27年度より常勤医3人体制となり、本年度はスタッフの異動もありませんでした。これまでと同様に安全かつ質の高い外科診療を行えるように努めました。

【今後の目標】

我々の診療の大きな柱の一つは消化器がん治療です。近年、消化器がん治療は腹腔鏡手術の導入による低侵襲化や集学的治療による予後の改善など飛躍的な進歩を遂げています。当科では早くから胃癌や大腸癌に対して腹腔鏡手術を導入し良好な成績を残してきました。今後も学会研究会等に積極的に発表や参加を行うことにより診療のレベルのさらなる向上を図り、地域の医療連携を推進し、高齢化率の高い小樽後志地区での消化器がん治療のニーズの高まりに答えていきたいと考えています。

外科部長 孫 誠一

整形外科

【スタッフ】

近藤 真章	病院長	整形外科専門医	背椎外科
和田 卓郎	副院長	整形外科専門医、手外科専門医、 上肢専門	
三名木泰彦	整形外科部長	整形外科専門医、背椎脊 髓病指導医、背椎専門	
目良 紳介	副診療部長	整形外科専門医、下肢専門	
織田 崇	整形外科部長	整形外科専門医、手外科 専門医、骨粗鬆症専門医、上肢専門	
上畠 聡志	整形外科副医長	後期研修医	
藤本秀太郎	整形外科副医長	後期研修医	

【当科の特徴】

手・肘センター、背椎・腰痛センター、関節外科センターを開設し、上肢、下肢、背椎疾患の専門的な診療を行っています。橈骨遠位端骨折、変形性肘関節症、上腕骨外側上顆炎の鏡視下手術、人工膝関節置換術、慢性腰痛に対する集学的治療の症例数が多く実績を挙げています。札幌医大整形外科との連携により、関節鏡視下腱板修復術やリバー人工肩関節置換術などの先進的手術治療を行う肩関節専門外来、病態や骨折リスクに応じた薬物療法を行う骨粗鬆症外来を行っています。

地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟を活用して、手術後や保存治療に対しても、日常生活

への復帰まで十分な入院リハビリを行っています。

ヨーロッパ手外科学会、アメリカ手外科学会、日本整形外科学会など国内外の学会で口演発表を行っています。国内誌への論文発表や著書執筆のほか、3年連続で海外誌への論文発表も行うなど精力的に学術活動を行っています。

【平成28年度の取り組み】

橈骨遠位端骨折の手術症例を対象として、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士と連携をとり多職種による骨折リスク評価や骨粗鬆症の啓蒙、骨折予防指導を行うプログラムを導入しました。大腿骨近位部骨折受傷後の生命予後向上をめざし、手術センターと臨床検査室の協力を得て、受傷後48時間以内に手術治療を行える体制づくりを行っています。

【今後の目標】

小樽・北後志地区になくてはならない整形外科となるべく、各専門部位で日本トップレベルの診療を提供すること、小樽で診療を完結できること、救急患者の受け入れ要請に迅速に対応することを目標としています。高齢化が著しい地区にあり、引き続き脆弱性骨折後2次骨折発生の予防に力を入れていきます。

整形外科部長 織田 崇

手術実績（平成28年4月－平成29年3月）

合計	849
上肢	373
人工上腕骨頭置換	1
人工橈骨頭置換	1
TEA	1
肩関節唇損傷修復	3
腱板断裂修復	20
肘関節鏡視下手術	12
肘関節形成	2
尺骨神経前方移動	11
腱移植・移行	6
腱縫合・剥離	12
手根管開放	41
腱鞘切開	81
デュピトラン拘縮手術	2
肩甲骨・鎖骨骨折骨接合	10
上腕骨骨折骨接合	31
前腕骨骨折骨接合	78
手部骨折骨接合	22
上肢その他	37
脊椎	32
頸椎固定	1
頸椎椎弓形成	11
胸・腰椎固定	2
腰椎椎弓切除	14
腰椎椎間板ヘルニア摘出	4

下肢	297
人工大腿骨頭置換	30
THA	21
TKA・UKA	54
膝前十字靭帯再建	10
膝半月切除・縫合	33
アキレス腱縫合	16
足関節固定	2
外反母趾矯正	6
大腿骨骨折骨接合	59
膝蓋骨・下腿骨骨折骨接合	42
足部骨折骨接合	7
下肢その他	17
骨軟部腫瘍切除	14
抜釘	105
その他	28

泌尿器科

【スタッフ】

堀田浩貴 診療部長：日本泌尿器科学会専門医・指導医、ICD（インフェクションコントロールドクター）、日本性機能学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会認定産業医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医

安達秀樹 泌尿器科部長：日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本性機能学会専門医

【当科の特徴】

泌尿器科は、副腎・腎臓・尿管・膀胱・前立腺・陰莖・尿道・精巣などを原因とするさまざまな症状と疾患を診察・治療する診療科です。

済生会小樽病院泌尿器科では、日本泌尿器科学会認定の専門医・指導医の資格を有する医師が診療を担当します。

患者さんの病気・病状に合わせて、最善と思われる治療方法を検討し、十分な説明を行います。患者さんもご自身の病気・病状を充分にご理解いただいた後に、説明と同意のもとに治療を行うことを重要な目標として、日々診療に従事しております。

【実績】

I. 外来

外来は月曜日から金曜日まで午前各一枠、土曜日は第二、四週午前に各一枠、そして火曜日午後に性機能専門外来を行っています。2016年の外来延患者数は、8519名でした。紹介率は55.0%、逆紹介率は6.9%でした。主病名による上位疾患は、前立腺肥大症、血尿、過活動膀胱、神経因性膀胱、慢性前立腺炎などでした。前立腺がん、膀胱がん症例に対しては、積極的に外来化学療法なども取り入れております。

II. 入院

2016年の新入院患者数は368人、手術件数は268件、平均在院日数は13.9日でした。主な入院病名は、膀胱がん、前立腺がん、尿管結石症、慢性腎不全、水腎症などでした。札幌医科大学泌尿器科と綿密な連携を図り、集学的治療により改善が期待できる症例は積極的に紹介を行っています。

III. 透析医療

増え続ける慢性腎臓病症例に対して、他の治療法による改善が見込めず、自覚症状も出現しかつ本人の十分な理解が得られた症例に対しては、血液透析の導入を行っています。2016年の新規導入患者数は13名でした。およそ60名ほどの透析患者さんに対して、安全かつ快適な透析医療を提供できるように泌尿器科医師ならびにスタッフ一同日々奮闘しております。

【平成29年度の取り組み】

安全を第一として、患者さんが十分に満足できるような医療の提供を目指しております。

【今後の目標】

札幌医科大学泌尿器科との提携を密として、より高度かつ信頼できる医療の提供を心掛けております。

診療部長 堀田 浩貴

医療技術部

■ 総 括

【医療技術部について】

※平成28年4月1日時点の状況を記載。

◆部門構成

- ・ 医療技術部長
- ・ 医療技術部次長
- ・ 薬剤室
- ・ 臨床検査室
- ・ 放射線室
- ・ リハビリテーション室
- ・ 栄養管理室
- ・ 臨床工学室

◆医療技術部職員数 108名

◆職員構成

- 医師 1 名（医療後術部長、診療部兼任）
- 薬剤師 13 名
- 臨床検査技師 9 名
- 診療放射線技師 8 名
- 理学療法士 37 名
- 作業療法士 18 名
- 言語聴覚士 5 名
- 管理栄養士 4 名
- 臨床工学技士 9 名
- 助手 4 名

【医療技術部理念】

私たちは、専門職種の壁を越えた協力体制を築き、患者さんが安心できる専門技術を提供します。

【平成28年度医療技術部目標】

- 検査・加算等の算定漏れ防止
- DPCへのスムーズな移行準備
- 接遇・身だしなみ・職場風土の改善
- 部門医療安全対策の推進
- 提供可能な医療技術の拡大とPR
- 臨床研究報告の部門内共有

【平成28年度の活動】

平成28年度は部門の第一目標として、診療報酬の加算等の算定率の向上や算定漏れの防止を推進しました。具体的には病院で導入したメディカルコードの算定漏れ検出ソフト等を用いて各部署にて算定率向上の仕組みづくりを進めた結果、リハビリ算定単位数が向上したほか、薬剤管理指導料・退院時リハビリテーショ

ン指導料・栄養食事指導料の算定率向上等の効果が得られました。

次に内部プロセスの面からは、スタッフの医療安全意識の向上による医療事故防止に努めました。その結果、各部署からのインシデントゼロレベルレポート提出件数が大幅に増加し、安全意識の向上とレポートの分析による安全対策の強化につながりました。また、医療技術部には4名の受付・助手業務を行うスタッフが在籍していますが、それぞれのスタッフは一部署に固定して業務を行っていたのを、今年度より、業務内容の改善や共有化を目的として一部ローテーション制を開始しました。

学習と成長の面では、今年度より部門内教育委員会を立ち上げ、部門としての学習イベント等の企画運営を開始しました。初年度としては各部署にて参加していた学会等で得た知見を部門スタッフに伝達し全体のスキルや知識の向上を図る目的から、部門内伝達講習会などを開催し、各職種の研究等のトレンドを学ぶと同時に各職種の相互理解を推進しました。

その他、昨年に引き続き、未来の人材育成により医療提供以外に地域社会へ貢献することを目指し、地元の高校生を対象としたコメディカル職場体験ツアーを企画・実施し、好評を頂くことができました。

【今後の目標】

平成29年度に関しては、今後のDPC算定に向け、業務の効率化を推進するとともに、より地域に密着した病院づくりに向け、医師を始め多職種で積極的に協力し合いながら、病院理念及び部門理念の推進に努めたいと考えております。

医療技術部長 宮地 敏樹

薬 剤 室

【スタッフ】

役 職	氏 名	認 定・専 門 資 格 等
室 長	上野 誠子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員
課 長	鈴木 景就	緩和薬物療法認定薬剤師(日本緩和医療薬学会) NST専門療法士(日本静脈経腸栄養学会) 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
主 任	小野 徹	抗菌化学療法認定薬剤師(日本化学療法学会) 感染制御認定薬剤師 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬 剤 師	笠井 一憲	NST専門療法士(日本静脈経腸栄養学会) 健康食品管理士 認定実務実習指導薬剤師 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員
	青木有希子	糖尿病薬物療法准認定薬剤師(日本くすりと糖尿病学会) 日本糖尿病療養指導士 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	一野 勇太	認定実務実習指導薬剤師
	村川麻里子	日本糖尿病療養指導士 認定実務実習指導薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
	中村 圭介	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト
	芦名 正生	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	木谷 梨絵	日本糖尿病療養指導士
	寺嶋 望	
	又村 健太	
	松倉 瑞希	
薬剤助手	西野 純子	

【部署の特徴】

薬剤室では安全で確実な調剤を基本に薬を通して
チーム医療の一員として業務を行うことを目標にして

います。業務はグループ制とし、それぞれリーダーを
置き業務分担しています。

【実 績】

調剤業務件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方せん枚数 (枚)	院外処方せん	7315	7360	7092	7051	7004	6704	6627	6489	6781	6053	5976	6597
	院内処方せん	28	14	20	14	21	24	7	17	21	28	20	23
院外処方せん発行率(%)		99.6	99.8	99.7	99.8	99.7	99.6	99.9	99.7	99.7	99.5	99.7	99.7
入院処方せん		3931	3718	4515	3981	4030	4119	4160	4347	4171	3897	4199	4365
注射処方せん		4860	4176	3929	4144	4953	5020	5197	4706	5053	5171	4504	4382

診療報酬関連

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
薬剤管理 指導料	ハイリスク薬	173	141	167	150	149	217	256	204	217	182	246	202
	その他の薬	99	112	160	168	193	166	194	188	185	196	213	190
	合計	272	253	327	318	342	383	450	392	402	378	459	392
	退院時薬剤情報管理提供料	23	17	23	36	23	77	102	83	103	72	78	97
	麻薬管理加算件数	3	0	0	2	3	2	3	3	4	4	8	4
無菌製剤 処理料	無菌製剤製剤処理料1	32	34	27	25	23	25	18	19	16	15	17	21
	無菌製剤製剤処理料2	281	176	71	122	126	174	289	279	418	546	384	408
抗悪性腫瘍薬処方管理加算		1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	3
病棟薬剤業務実施加算		624	594	617	592	648	628	661	639	626	662	636	646
特定薬剤使用管理料(TDM)		2	2	4	2	6	2	1	3	1	15	10	8

外来面談件数 日曜入院							3	2	4	2	5	1	2
外来面談件数 化学療法	1	0	1	2	2	1	1	1	1	1	2	2	1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
病棟薬剤業務実施時間	593:00	540:00	621:10	573:20	577:50	559:20	560:30	551:30	565:50	485:10	567:10	621:40
持参薬処理件数	382	406	422	367	417	395	402	378	407	397	401	432

【平成28年度の取り組み】

平成28年度は薬剤師13名・調剤助手1名のスタッフで、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・医薬品情報管理(DI)・薬剤管理指導業務(病棟業務)・チーム医療への参画(感染対策チーム、栄養サポートチーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、褥瘡対策チーム、認知症ケアチーム)を行いました。今年度も薬剤師の病棟常駐を維持し、週20時間以上の業務を行っています。9月に薬剤師1名が育児休暇を終えて復職したことにより、薬剤師の業務分担の見直しを行い、調剤業務・病棟業務を充実することができました。医薬品総合評価調整加算(入院患者に対する減薬の評価)について、特に持参薬についての処方提案の中で結果として減薬となった事例について算定可能となりました。外来患者への対応として、日曜日入院患者の持参薬確認を開始しました。入院前に持参薬の確認を行い手術前中止薬の把握等安全面に貢献できていると思います。院外処方せんへの関与として、当院の院外処方せんの大部分を応需している門前の保険薬局3軒の管理薬剤師と当院の薬剤師と懇談会を月1回の開催を継続しており、情報伝達・共有の場として活用しています。医薬品選定については薬事委員会の事務局を担い、DPC病院へ移行の方針に沿い後発医薬品への切り替えについて引き続き取り組んできました。後発医薬品使用体制加算は今年度の診療報酬改訂により、採用品目割合から使用数量ベースへ算出定義の見直しが行われましたが、皆様のご協力のもと、65.6%を達成することができました。がん化学療法の分野では治療を安全に行うため、新規申請レジメンの承認審査並びに登録、オーダー内容の確認、抗がん剤の混注などによりがん化学療法の

安全性の確保に努めています。医薬品管理ではこれまで手書きで作成していた血漿分画製剤使用報告書の様式の見直しを行い、安全性・利便性の向上を目的に電子カルテ文書機能から作成できるよう変更しました。教育に関しては薬学実務実習を今年度も6名受け入れることができました。薬学生の早期体験実習や高校生の職場体験等の受け入れも行い、病院薬剤師の職能について紹介する機会となりました。研究については、病院薬剤師として日常業務の中で問題点から研究テーマを選定し、学会等で発表することにより、多くの患者さんに貢献できる可能性があります。今年度は8演題の発表を行うことができました。

【今後の目標】

平成29年度の取り組みとして、薬剤師外来(持参薬・がん化学療法)の開設、周術期薬剤師業務の充実、化学療法レジメン管理方法の見直しを中心としています。チーム医療の一員として質の高い業務を行うため、専門薬剤師の養成・更新等などの人材育成をすすめていきたいと考えています。DPC制度参加に向け、採用医薬品の後発品への切り替えを推進していきます。

薬剤室長 上野 誠子

高血圧・循環器病予防療養指導士を目指して

医療技術部 薬剤室 寺嶋 望

私は新病院に移転後から病棟業務に関わらせて頂き、当初4B（内科・循環器科）→現在4B（地域包括病棟）・3A（外科・泌尿器科・循環器科）兼任と循環器科を多く担当させて頂いています。まだまだ薬剤師として未熟な私ですが、今回高血圧・循環器病予防療養指導士という資格が出来ることを教えていただき、取得を目指し認定試験に向けて勉強を行いました。

高血圧・循環器病予防療養指導士とは2016年から開始されたばかりの認定制度で、保健師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・臨床検査技師など色々な職種の方が習得可能な資格となっています。

私は2017年3月の認定制度発足2年目の試験を目指して勉強を始めたのですが、やはりわからない事だらけでした。薬剤師だけの資格ではないため栄養や運動などの内容もあり、参考書を読んで「へーそうなんだ」と学んでいけるものから、「METsってなんだっけ？Borg指数って何？つまりどのくらいの運動量を目指すの？」となかなか理解できずにいた部分もありました。

勉強を始めて自分の知識や記憶力の低さを実感しましたが、少しずつ患者さんの生活習慣を気にするようになり、薬についても既往と第一選択薬・今服用している薬・その患者さんの降圧目標など今までより考えることが増えました。高齢者の寝たきり・フレイルの患者は血圧の下げすぎによるリスクもあるため注意が必要と言われていました。入院患者に高齢者が多いなか、患者ごと目標値が違うため毎回悩みますが、降圧剤服用中の低血圧患者について医師に減量・中止を提案することも多くなりました。

3月に行われた試験の会場は東京大学で、東大に入るのは最初で最後だろうと、そんなことにもドキドキしながら試験に挑んできました。今回勉強を行って、高血圧は糖尿病と同じく生活習慣病である事、そのため生活習慣の改善は必須であり患者自身での管理が必要である事を改めて感じました。しかし高血圧患者はとて多く存在する一方で、患者さんも私たち医療従事者も「生活習慣に気をつけなくてはいけない」という意識は、糖尿病に対するよりも少ないような気がします。まだまだ勉強中ですしどのように関わっていけるかもわかりませんが、試験受けて終了ではなく勉強したことを今後活かしていけるように頑張っていきたいと思います。



済生会健康フェスタでの筆者

臨床検査室

【概要】

* 検体検査室

生化学検査、血液学的検査、一般検査、細菌学的検査、免疫学的検査

外注検査（細菌・病理・細胞診など）、輸血検査及び輸血製剤管理

細菌検査室、洗浄室

* 生理検査室

受付、心電図検査室1・2、負荷心電図室兼超音波検査室（頸動脈、UCG）、呼吸機能検査室、聴力検査室、眼底カメラ室、脳波検査室、筋電図室（医師・技師）、中待合

* 採血業務 健診・ちょこっと健診採血、外来処置室採血業務支援

* 病棟予約採血管作成支援

* 糖尿病治療検査支援

* 感染対策関連業務支援

* NST関連業務支援

【スタッフ】

室長 坂上 延雄

技術課長 辻田 早苗

技術主任 木谷 洋介

技師 末藤智枝子、一條 周一、高橋 賢規、
中山紗矢香

逢坂裕美子、長土居亜矢

助手 伊藤 千春

【認定資格】

総合監理検査技師制度認定管理検査技師 1名

診療情報管理士 1名

認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 1名

NST専門療法士 2名

超音波検査士（循環器）1名

【業務内容】

* 検体検査では、患者さんから採取された血液・尿等種々の検体を測定し迅速な結果報告を目指しています。細菌検査室では、グラム染色、抗酸菌染色、真菌鏡検や感染症関連の迅速検査をしています。外注検査項目では、検査室で対応していない特殊検査検

体検査や、細菌検査、病理・細胞診検査の受付・処理・検査結果の問合せに対応しています。

* 生理検査では、患者さん自身の主に体表から検査させてもらい、得られた情報を報告しています。

* 夜間・及び休祭日の緊急検査に呼び出し対応しています。

* 輸血療法委員会を開催して、適切な輸血製剤管理を支援しています。

* 採血業務では、外来処置室に技師を午前中1名配置して、健診者の採血や外来患者さんの採血を行っている他、ちょこっと健診を希望された患者さんに対しては、午前中に限らずに随時、採血を担当しています。

* ちょこっと健診を受けられた患者さんの検査値に関する電話の問い合わせに対応しています。

* 病棟と透析室の予約採血管を作成して看護師業務を支援しています。

* 外来糖尿病患者さんの治療関連検査で、CGM・SMBG等の検査値の管理を受け持ち糖尿病療養指導士（看護部）の支援を行っています。

* 内分泌糖尿病診療センターのチームの一員として、会議、勉強会に参加しています。

* 感染対策関連業務 感染対策チームの一員として、検査値の管理、院内ラウンド、感染対策委員会に参加しています。

* NST関連業務 NSTの一員として、検査値の管理、NST回診、NST委員会への参加や実地修練講師などを受け持っています。

* 他にクリニカルパス委員会、褥瘡委員会、安全対策委員会、患者サービス検討委員会等に参加しチーム医療に携わっています。

* 心エコー検査では、循環器医師の緊急対応時及び不在時等に、超音波検査士が検査を代行して診療業務を支援しています。

【臨床検査室の特徴】

検体検査や生理検査等の検査が主業務となりますが、上記の様な様々な支援業務を行い、医療技術部の枠を超えて、診療部、看護部、事務部などの連携がスムーズに流れる様に技術支援を行っている部門と考えています。

【実績】

検体検査

生化学	免疫	血液	検尿	血糖・HbA1c	止血機能	血型	交差試験	輸血人数	CGM
41236	10544	35387	27366	35829	4488	2197	1180	575	64
△2472	△992	△1845	△1760	△2497	△360	△43	△27	△12	△24
106%	110%	106%	107%	107%	109%	102%	102%	102%	160%

△は前年度実績対比増、▲は前年度実績対比減

生理検査

心電図	ホルター心電図	肺機能検査	眼底検査	聴力検査	トレッドミル	ABI
7575	156	1153	149	2959	8	272
△414	▲17	△115	△3	△328	△1	▲61
106%	90%	115%	102%	112%	114%	82%

頸動脈エコー	NCV (技師)	脳波	睡眠検査	心エコー (技師)	下肢静脈エコー
51	4	100	30	447	2
▲73	▲10	△14	△9	△79	*
41%	29%	116%	143%	121%	*

△は前年度実績対比増 ▲は前年度実績対比減 *新規

【平成28年度の主な取り組み】

- * 昨年度に掲げたFMSに於ける検査機器の見直しをしました。免疫検査機器1台、尿検査機器1台、凝固線溶系検査機器1台を更新し、生化学検査機器は1台を増設しました。
検査処理能力の向上により、これまでより迅速な報告が出来る様になりました。
平成28年度の検体検査実績では、6%~10%の検体数増加となっており、上記の取組の効果は出ていると思われます。
- * 生理検査で使用している機器の動脈硬化度測定機(CABI)と聴力検査測定機(インピーダンスオージオメータ)の2台を経年劣化の為に新機種に更新しました。
- * 昨年度に取り組んだ、パニック値の報告、Hb8.0未満のデータの報告、輸血製剤期限が5日をきるものの在庫情報のお知らせ及びそのコール&レスポンス等の情報提供を継続しています。
- * 下肢静脈エコーを診療放射線部と共同で取組み始めました。
- * 内分泌糖尿病診療センターチームに技師1名が加わり、会議、勉強会に参加して、糖尿病療養士を目指して勉強を始めています。
- * ちょこっと健診に、新規項目としてBNP、ABI/PWV検査を追加して、そのフローを作成しています。
- * 数年振りに院内QC大会で発表をしました。その賞

金で検査室控室にコーヒーのマシンを導入し、皆でコーヒータイムを和んでいます。

- * 市内高校生の体験ツアーや済生会健康フェスタに参加して、一般の方々と交流を深め、臨床検査業務を紹介しています。

【今後の目標】

- * 昨年同様に、診療部・看護部など病院全体から、検査に関して必要とされる様々な事柄に丁寧に対応していきます。医療技術部の横の繋がりをより密にして、患者さん病院運営に更に貢献できる様に活動していきます。
- * 若手技師への潤滑な業務の移行、教育支援を強化していきます。
糖尿病療養士認定資格取得を目指しています。
- * パート勤務、短時間勤務、定年時再雇用、病气療養休暇明け、早出、残業当番、夜間呼出し当番等の色々な勤務形態の中で働き安く、能力を発揮出来る様な職場環境作りを目指して行きます。

技術課長 辻田 早苗

医療技術部女性初めてだらけ

医療技術部 臨床検査室 逢坂裕美子

済生会小樽病院の臨床検査室に定年まで無事勤め上げることができ、今年度から定年再雇用制度で働いています。

①「医療技術部女性で初」のこと

- 1 医療技術部の女性で初めて結婚しても働いた。
「それはおめでとう、でいつ辞めるんだね」これが当時結婚しますと報告した時の話ですが、それまでの検査室の女性は結婚と同時にやめていたそうです。
- 2 医療技術部の女性で初めて産休を取って働いた。
「そうか、よかったね、じゃあ今度は辞めるんだね」「産休頂きます」と言うと、「前例がない」と言われましたが組合にも相談して、産休を取りました。当時はマタニティの白衣も無くクーラーもない時代の夏に予防衣をはおる羽目となりとても暑くて辛かった記憶があります。
- 3 医療技術部の女性で初めて育児休暇を取った。
その当時はやっと国が育児休暇の制度を作ったばかり。看護師さんたちは取っていたので、私も組合と相談して、生後1年まで1時間早く帰らせて貰えるようになりました。今は短時間正職員制度が充実してきたので時代の流れを感じます。
- 4 医療技術部の女性で初めて定年再雇用し待機当番もしている。
医療技術部で定年後に待機当番するのは初めてのケースだそうです。ただ、さすがに今までと同じ

回数はきついので若干減らして頂いています。定年再雇用していた方は他部署にいましたが初の待機当番を行っている技師となりました。体力的には大変ですが、少しでも他のスタッフの負担軽減になっているかなと思いながらやっています。

②趣味の事

約10年前からタティングレースというレースをやっていますがこのレースはふつうのかぎ針ではなくシャトルという道具で作ります。最近ちょっとブームでテレビで紹介されたり、アクセサリを作れたり、とても繊細で可愛いレースです。教室や勉強会で知り合った方たちとの交流で様々な考え方に接する事ができ、それが仕事上でものすごく役立っています。出来れば職場以外にそういう機会を作った方が人生楽しくなります。愚痴を聞いてもらったり、考え方を正してくれたり、コミュニケーション力がUPする感じがします。

勤務が忙しいかもしれませんが、趣味の集まりや、病院外の勉強会に参加されることを是非お勧めします。

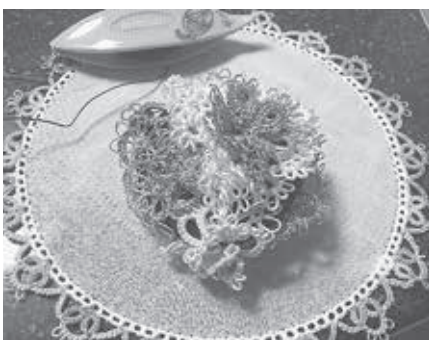
③職員のみなさんへ

職員の方々へお伝えしたい事があります。

今は給料も安いし、仕事も忙しいからどこか楽な所に移ろうかなとか、子供産まれたら辞めようかなとか、思うかもしれませんが、でも子供はすぐ大きくなって今度はいろいろ費用がかかりますので何とか辞めないで正職員で頑張る事をお勧めします。

済生会の福利厚生は充実しています。特に退職金制度、共済制度は素晴らしいです。定年再雇用後も、有給休暇等そのままで大変感謝しています。

趣味のタティングレース



放射線室

【概要】

平成28年度の放射線室は診療放射線技師8名、助手1名の計9名の体制で日々の業務に努めました。

主な業務内容としては一般撮影、移動型X線撮影（ポータブル撮影）、骨密度測定、X線透視（主に検診の胃バリウム検査）、手術中X線透視、CT、MRIこれらの業務を全ての技師がローテーションで行い、一部の技師で腹部・頸部超音波検査、また、乳房X線撮影は女性技師のみの撮影業務として行っています。

夜間および日曜祝日も技師全員の持ち回りで待機し、呼び出し対応にて緊急撮影業務にあたっています。

【スタッフ】

放射線室長 松尾 覚志
 技術係長 釜石 明
 技術主任 舟見 基
 技 師 久保田裕美、高橋 志織、但木 勇太、
 内藤 格、小林 洸貴
 助 手 森 尚美

【設備機器】

・一般撮影装置 (FPD2台、CR1台)
 ・移動型X線撮影装置 (2台)
 ・乳房X線撮影装置 (1台)
 ・外科用X線透視装置 (2台)
 ・骨密度測定装置 (DEXA) (1台)
 ・X線透視装置 (2台)
 ・CT (64列MDCT) (1台)
 ・MRI (1.5T) (1台)
 ・超音波検査装置 (1台)
 ・放射線情報システム (1式)

【平成28年度検査実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般撮影	2006	1957	2107	2085	2036	1868	2171	2214	2095	1799	1979	2021	24338
ポータブル撮影	202	225	178	170	217	255	202	188	212	199	199	227	2474
透視・造影検査	42	58	69	98	81	55	49	55	94	33	49	64	747
嚥下造影	4	13	5	10	13	14	12	14	9	8	9	8	119
乳房撮影	12	19	14	23	30	30	30	33	52	14	23	21	301
骨塩定量検査	67	81	86	83	93	82	91	106	82	81	69	79	1000
MRI検査	259	271	310	272	287	268	279	272	278	243	266	267	3272
CT	416	434	442	426	459	434	474	433	522	449	432	467	5388
オペ室X線透視	69	67	76	67	65	50	63	72	100	66	68	57	820
超音波検査	50	44	94	100	76	78	69	78	77	75	60	80	881

【平成28年度の取り組み】

- ・内科医師の負担軽減のため初診時及び定期フォローの甲状腺超音波検査が放射線技師の業務となりました。そのため甲状腺検査件数が前年度から3倍近く増えました。
- ・11月の放射線科医師の退職に伴い、全ての内科依頼のCT検査において読影の補助を目的とした放射線技師による一次読影を始めました。
- ・QC活動の一環としてMRI検査時における騒音の苦痛緩和のために使用している音楽をヒーリングミュージック1種類から邦楽・洋楽・演歌など様々なジャンルから20種類と増やし、選択できるよう変更しました。検査を受けた方からも多くの好評の声を頂いております。

【今後の目標】

平成28年度から読影といった新しい業務が増えました。これからは診断に必要な画像を提供する撮影技術に加えて、撮影した画像から医師の求める情報を読み、伝えるという能力も診療放射線技師に求められます。幸い、当院には現在週1回札幌医科大学附属病院から放射線科医師が読影の業務を行っていますので、放射線科医師の読影レポートを参考に読影のポイント・伝え方等を学び、より良い情報を医師に提供できるように放射線室全体で取り組んでいきます。

また、学会や講演会、セミナーなどに積極的に参加し、最新の技術を学び、個々のスキルアップと共に放射線室全体のレベルアップも継続して行っていく予定です。

技術主任 舟見 基

仕事について考える

医療技術部放射線室 小林 洸貴

私がこの職場に就職して二年と半年になろうとしています。この記事を読んでいる方には顔と名前を覚えていただけたでしょうか？ちなみに私は職員の半分くらいは顔と名前が一致するようになったと思います。放射線科とよく関わりのある方を中心にですが少しずつ多くの方の名前を憶えるように努力しています。

突然ですが、皆さんは楽しく仕事をしていますか？なかなか難しいことですが、生きていくうえで仕事をするには必要であり、仕事の充実は人生の充実だと思います。楽しく仕事をするために、大事なことは二つあると私は思います。“目標を持つこと”、それから“人を大切にすること”です。今回、このような普段考えていることを記事にできる機会をもらったので、これら二つのことについて記そうと思います。

まず、“目標をもつこと”ですが、これはなんでも良いと思います。目標の有無で仕事に対するモチベーションは変わり、モチベーションが変わると、仕事の楽しさが変わります。ただし、漠然としたものよりも数値化できる明確な目標をおすすめします。数値化とは、例えばその目標の出来高や、期限などです。具体例を挙げると、ある試験に合格するには70点以上の点数が必要とします。“試験に合格する”を目標にした場合と、合格点の少し高い“80点”を目標にした場合では、後者の方が良いということです。計画性やモチベーションに差があり、なにより達成感が違います。仕事に楽しみを見いだせない方は、明確な目標を見つけてみてはいかがでしょうか？

“人を大切にすること”、これは病院の理念にもありますが、仕事だけでなく人が生きていくうえでとても重要なことだと思います。具体的にはどういうことか、それは個人で考えていただきたい点ですが、“人”という言葉には、人格、人権、人との繋がりなど多くの意味が含まれているのではないかと思います。楽しく仕事をするためには、職場の雰囲気が良いことが不

可欠です。職場の雰囲気が良いというのは、会話が弾み純粋に楽しい時間を過ごせるということもありますが、お互いに尊重や信頼できる関係があること、こちらも重要ではないでしょうか？そういった関係を“人”を大切にすることで築くことができると私は思います。私が人の名前を憶えるように努力している理由がここにあります。名前を憶えることは人を大切にすることの第一歩だと思うからです。

先日、私は北見に帰省する機会をもらいました。昔の友人や今となっては会うことはないだろうと思ってた中学時代の恩師に会い、半ば同窓会のような非常に楽しいひと時を過ごしました。また、そこに居合わせた一人の友人の影響で、目標が特になかった仕事にも新しい目標ができました。今では仕事に対するモチベーションも高く、楽しく仕事をする事ができています。「人を変えるのは人との出会い」という言葉があります。(漫画か何かのセリフだったと思いますが、詳細は忘れました)まさにその通りだと思います。皆さんにも人との繋がり、出会いを大切にしていきたいと思います。それが自分の人生を豊かにし、楽しく仕事をして生きることにつながると思います。



半ば同窓会での筆者

【平成28年度の取り組み】

業務の効率化：昨年と同様に、スタッフ間業務量格差の是正、質・量共に安定したリハビリテーション提供等に取り組み、一定の成果をあげることができました。

がんリハビリテーションの充実：チーム連携を図りながら、がんリハビリテーションを提供し、少しずつ実績を増やしていくことができました。

地域包括ケアシステム構築への積極的参画：今年度は具体的な介入方法に関し検討を進め、次年度に向けた準備を行ってきました。

内部・外部との連携強化：院内での多職種との勉強会開催をはじめ、中高校生を対象としたコメディカル体験ツアーや野球検診、済生会健康フェスタ等への積極的な企画・協力を行うことで交流を図りながら連携を深めることができました。学術活動に関しましても、全国学会・道内学会への参加など、多くの学術大会で報告をさせていただき、自己研鑽することができました。

【今後の目標】

平成29年度は、更なる効率的なリハビリテーションの実践を目指します。また、リハビリテーションスタッフが一丸となり、安心して安全な質の高い技術の提供を行うことで、患者満足度を高め、地域住民から選

ばれるリハビリテーションを目指します。

また、地域との連携をより一層深めるために、リハビリテーション室においても市民公開講座・出前教室・地域個別ケア会議等への企画・参加を行い、済生会小樽病院のリハビリテーション室として地域貢献していきたいと考えています。

【理学療法 PR】

可能な限り早急に住み慣れた処へ戻れるよう、早期より関わり、質の高い技術を提供出来るよう努めています。また地域の施設、学校からの依頼に対して若いエネルギーで積極的に取り組んでいます。

【作業療法 PR】

退院後も住み慣れた小樽、後志で安心して暮らせるよう、病院内のみならず、地域で働く他職種の人たちと連携できるように積極的に院外の勉強会、事例検討会に参加しています。

【言語聴覚療法 PR】

円滑なコミュニケーションスキルや、口から食べる幸せを少しでも長く続けられる手段の獲得を目指し、住み慣れた地域での暮らしを支援します。

技術係長 髭内 紀幸

笑顔で幸せを

リハビリテーション室 理学療法士 中田 和希

理学療法士2年目となり、最近は回復期リハビリテーション病棟での勤務にも慣れてきて、存在感が日に日に強くなってきたなと感じています。

そんな私は、平成28年8月8日に入籍して、仕事のみならずプライベートまで充実しており、自分で言うのも何ですが素晴らしい人生を送っています。

そんな私が患者さんの為に出来ること、それは「笑顔」を提供することです。私がムードメーカーとして皆さんへ「笑顔」を提供し、幸せを感じてもらう。それが私のコミットメントだ！と思ひ込み頑張っています。そんな幸せの輪が病院全体にも広がるよう、楽しく働き続けたいと思います。



病院忘年会での余興

栄養管理室

【スタッフ】

(1) 職員構成

- ・ 栄養管理業務
 - 技術課長：多田 梨保
 - 管理栄養士：権城 泉・東 紗貴・松村亜貴子
- ・ 給食管理業務
 - 日清医療食品株式会社 計18名（平成28年4月現在）
 - 管理栄養士：2名
 - 栄養士：2名
 - 調理師：2名
 - 調理員：11名
 - 事務員：1名

(2) 認定・専門資格の現状（同一管理栄養士の重複資格取得あり）

- ・ NST専門療法士：3名
- ・ 糖尿病療養指導士：4名
- ・ 病態栄養認定管理栄養士：1名
- ・ 栄養経営士：1名
- ・ 人間ドック健診情報管理指導士：4名
- ・ 栄養教諭普通免許：1名

【実績】

(1) 栄養指導実施件数

入院 個人指導	228件
外来 個人指導	423件
糖尿病透析予防指導	83件
糖尿病集団指導	83名
健康教室	52名
特定保健指導	動機付け支援 11件
	積極的支援 51件
合 計	931件

(2) 給食延数

常食	79,793食
流動軟菜食	36,368食
ハーフ食	9,151食
嚥下食	7,520食
特別食	加算有 53,530食
	加算無 7,416食
経管濃厚流動食	3,394食
外来透析	2,606食
患者合計	199,778食
職員食	2,254食
総 合 計	202,032食

(3) お楽しみ食提供回数

行事食	25回
日本全国味めぐり給食	16回
あんかけ薬膳焼きそば	5回
石原裕次郎御膳	7回
伊藤整御膳	3回
小林多喜二御膳	4回
どさんこDay	6回
合計	66回

(4) 嗜好調査

年2回実施

<前期>

- ・ 対象食種：病名が糖尿病でエネルギーコントロール食を喫食している入院患者

	入院患者
目的	食事療法の支援として、栄養教育に結びつく食事提供の為に患者さんの日常の食事内容や嗜好を調査する。
実施日	5月23日～5月27日

<後期>

対象食種：入院患者全食種（但し、経管濃厚流動食・嚥下食・きざみ食・ミキサー食・流動食を喫食している患者さんは除く）、外来透析

	入院患者	外来透析患者
目的	食事の質の向上と家庭料理に近い食事の提供に向けて、患者さんの嗜好や満足度を調査する。	治療食という制限のある中で、食事の質の向上に向け、患者さんの嗜好や満足度を調査する。
実施日	10月4日～10月7日	10月3日～10月8日

(5) 地域住民への健康教育の取組み

出前健康教室	2回
健康セミナー	1回
外部講師(道新文化センター)	3回

【平成28年度の取組み】

- ・QC活動で、栄養指導件数増加に向けた取組みを実施しました。診療科別に、管理栄養士が考える栄養指導強化項目を3つ示しポスターを作成し医師へ働きかけました。
- ・外部講師として、道新文化センターで「高齢者のための栄養」を3回シリーズで実施しました。
- ・小樽市民の高血圧症予防・改善への働きかけとして行っている小樽ゆかりの人「減塩食シリーズ」の第3弾として、「石原裕次郎御膳」、「伊藤整御膳」に続く「小林多喜二御膳」を提供しました。
- ・「行事食」、「日本全国味めぐり給食」、「あんかけ薬膳焼きそば」など、お楽しみ食の継続的な提供を実施しました。ブラジルオリンピックが開催された際には、ブラジルの郷土料理を提供しました。
- ・当院の「あんかけ薬膳焼きそば」が薬膳の本に紹介されました。

- ・済生会本部ホームページ「管理栄養士さんのおすすめレシピ」で「のどの痛みに効く薬膳レシピ」を考案し掲載されました。

【今後の目標】

- ・治療上の医療効果を高めることを目的に、必要な患者には積極的に治療食を提供します。
- ・患者サービス向上の視点から、選択メニューを少しでも早く提供できるよう改善を図ります。
- ・小樽にちなんだお楽しみ食の提供を考案、提供します。
- ・安全で安心して食べられる給食提供と共に、厨房内業務の標準化を図ります。

栄養管理室 松村亜貴子

管理栄養士9年目

栄養管理室 東 紗貴

当院に入職して9年が経ちました。この9年間で糖尿病療養指導士、NST専門療法士、人間ドック健診情報管理指導士と管理栄養士以外の資格を取得させていただきました。学生の頃大学の先生に、「管理栄養士はそれ以外にも取得できる資格はたくさんある、病院で働いたらたくさん資格を取りなさい」と言われていました。入職1年目の時は管理栄養士以外の資格を取るなんて気の遠くなる話だなと感じていましたが、おかげさまで今では糖尿病教育やNST、緩和ケアな

どのチーム医療にも参加し、幅広く仕事をさせていただいてます。働きながら資格を取らせていただいた環境に感謝し、これからも今まで学んだ知識を活かせるように頑張りたいと思います。



栄養管理室職員と（右から2番目が筆者）

臨床工学室

【スタッフ】

技術課長 笹山 貴司
技術主任 横道 宏幸
臨床工学技士 奥嶋 一允 吉田 昌也
今野 義大 中村 友洋
及川 尚也 山崎 悠貴 菊地亜衣梨
3学会認定呼吸療法認定士：2名

【業務内容】

臨床工学室では、生命維持管理装置である人工呼吸器や血液浄化装置をはじめとした医療機器の操作および保守点検を中心に様々な医療機器を管理し、安全かつ迅速に医療機器を提供できる体制を整えております。また、高度化・複雑化する医療機器に対応できるよう、最新の知識と技術を習得し、医師や看護師、その他コメディカルとともにチーム医療の一員として、安全で安心な医療の提供に努めております。

【当部署の特徴】

当院の臨床工学技士は、血液浄化業務・医療機器管理業務・手術センター業務と幅広い分野で他の医療職と協働して業務を遂行しており、急なトラブルにも迅速に対応できるよう、24時間・365日のオンコール体制を整えております。また、適切で安全な医療機器の操作を促進するため、看護師をはじめとする幅広い職員に対する研修や、当院独自の医療機器操作マニュアルの作成・改訂を行っております。

1. 血液浄化業務

透析センターでは、看護師とチーム制で慢性腎不全患者さんに血液浄化療法を提供しており、透析関連装置の保守管理や水質管理、リスクマネージメント業務も担っております。また、体外循環によって血液を体外へ導き、病気の原因となる物質を分離除去する治療法（アフレスシス療法：血漿交換や吸着療法等）にも対応しております。

その他、肝硬変やがんなどによって貯まった腹水（又は胸水）を濾過・濃縮して、アルブミンなどの有用なタンパク成分を回収して安全に体内に戻す治療法（KM-CART）も施行しております。

2. 医療機器管理業務

院内の高度医療機器を一括管理し、年間点検計画に基づいた定期点検や終業点検を行う事により、安全な医療機器を不足なく・迅速に提供できるように努めております。

また、停電時に備えてバッテリーの定期交換や、日常的なラウンドにより、人工呼吸器や除細動器・AEDの使用時を含めた点検も施行しております。

3. 手術センター業務

麻酔器や内視鏡装置等の手術用機器の始業点検や準備を施行する他、内視鏡関連装置の操作や人工関節置換手術時の機器操作・管理も行っております。また、手術野に於ける直接介助業務には、全手術件数1192件中494件（41%）携わっており、医師や看護師と協働しながら活躍の場は広がっております。

【過去3年の実績】

1. 血液浄化業務

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
血液透析・血液濾過透析	8626件	8629件	9023件
持続的血液濾過透析	6件	26件	6件
単純血漿交換療法	20件	12件	14件
エンドトキシン吸着療法	2件	6件	5件
腹水濾過濃縮再静注法	48件	75件	42件

2. 医療機器管理業務

(1) 終業点検件数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
シリンジポンプ	244件	241件	303件
輸液ポンプ	495件	744件	806件
人工呼吸器	9件	27件	20件
除細動器	1件	0件	2件
フットポンプ	510件	432件	455件
低圧持続吸引器	6件	16件	12件
エアマット	170件	139件	140件
その他	117件	73件	107件

(2) 医療機器修理件数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
シリンジポンプ	3件	7件	15件
輸液ポンプ	9件	13件	26件
人工呼吸器	3件	3件	5件
除細動器	3件	0件	3件
フットポンプ	5件	3件	6件
低圧持続吸引器	0件	0件	1件
生体情報モニター	8件	10件	15件
透析関連機器	22件	72件	62件
手術関連機器	40件	15件	21件
エアマット	9件	1件	5件
その他	1件	1件	0件

3. 手術センター業務

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外科腹腔鏡操作	119件	111件	95件
整形関節鏡操作	143件	103件	87件
泌尿器膀胱鏡操作	175件	187件	170件

【平成28年度の取り組み】

病院移転後4年が経過し、移転当時に新規購入した医療機器はメンテナンスが必要な時期に差し掛かっており、透析装置及び水質管理関連装置や人工呼吸器に関しては、習得したメンテナンス技術を活かして、定期部品交換や定期点検・早期修理を行う事で、トラブルを未然に防いでおります。また、複雑で高度化した医療機器を安全かつ安心して使用していただく為に、院内スタッフ向け機器操作研修会や定期的な広報紙の発行等を通じて、安全情報の周知に努めてまいりました。

【今後の目標】

医療機器のメンテナンス研修や学会参加を通じて得た知識を活かし、医療機器の安全使用に向けた院内研修会の更なる充実に努めます。また、ME機器の中央管理化を推進すると共に、院内のRST（呼吸サポートチーム）の一員として、人工呼吸器の適切なセッティングやスムーズな呼吸や無理のない離脱ができるように、他の医療スタッフに適切で安全な使用を啓発してまいります。その他、アフレンス業務の拡大や手術センター業務の充実に図りながら、地域住民の皆さんの健康と安全を陰で支えてまいります。

技術主任 横道 宏幸

直接介助業務を経験して

医療技術部 臨床工学室 今野 義大

「この仕事がある程度できるようになるには5年はかかります。慣れない仕事だと思うけどがんばって。」

1年前、透析センターから手術センター専属に異動になり、初めに手術センターの看護課長よりお話いただいた言葉です。

手術センターには元々臨床工学技士1名が医療機器の操作、保守、点検業務を行うため常駐していましたが、今年の4月より臨床工学技士も直接介助業務を開始するため2名が手術センター専属として増員されました。現在は透析センターより1名が週替わりのローテーションで手術センターに派遣される形で、計3名の臨床工学技士が手術センターで直接介助業務と医療機器関連の業務を行っています。

直接介助業務というのは、医療系のドキュメンタ

リーやドラマなどを観られたことがある方ならお分かりになるかと思いますが、手術中に医師の横に立ち、メスや手術に必要な道具を直接手渡す仕事です。医師から言われたものを手渡すだけではなく、手術全体の流れを把握し先々のことまで考えながら必要な道具を準備し、手術が円滑に進行できるようにしなくてはなりません。そのため手術の流れや手技を覚えるため日々の勉強が欠かせませんし、手術中は常に術野に集中していなくてはならず神経も使います。時には手術時間が5時間を超える症例もあるため、体力勝負なところもありますが、その分仕事としてのやりがいはいとて感じています。

初めて手術に入った時は独特の緊張感で手が震え、針に糸を掛けるのもやっとでしたが、少しずつですが手術の雰囲気にも慣れ、入れる手術の種類も増えてきました。先輩の看護師さん方にはまだ遠く及びませんが、少しでも早く追いつけるように、日々精進していきたいと思っています。



看護部

■ 総 括

【看護部概要】

- 看護部職員：223名（平成28年4月1日）
 - ・看護師 154名（平均年齢38.8歳）
 - ・准看護師 32名（看護学生19名）（29.8歳）
 - ・看護補助者 37名（介護福祉士8名含む）
- 看護師離職率：7.5%
- 新採用者離職率：6%（退職者1名／入職者15名）
- 看護方式：固定チームナーシング
- 平成28年度 病床稼働率
 - ・一般病棟 155床（入院基本料 7対1） 82.3%
 - ・地域包括ケア病棟 53床（入院基本料13対1、看護職員配置加算150点） 83.9%
 - ・回復期リハビリ病棟 I 50床（入院基本料13対1） 86.1%

【看護管理者の紹介】（看護課長職以上）

- ・看護部長 大橋とも子
- ・看護次長 松江知加子
- ・看護室長 金澤ひかり
（4 B 病棟看護課長兼務）
- ・看護主幹 石渡明子（緩和ケア認定看護師）
- ・看護課長 3 A病棟：浅田 孝章
3 B病棟：伊藤 瑞代
4 A病棟：兒玉真夕美
5 B病棟：小松多津子
透析センター：今野 晶子
外来：澤 裕美
手術室センター：谷川原智恵子
教育専従：早川 明美
- ・看護係長10名 看護主任9名

【平成28年度の活動について】

平成28年度は、診療報酬の改定で慌しい幕開けの中、新採用看護師が15名入職し、新採用者研修も中盤を迎えた最中、4月14日には熊本地震が発生し、最大震度7から震度6の地震により多くの犠牲者と被害をもたらしました。死者225人、負傷者2,727人、避難者数183,882人にも上りました。済生会も組織力を生かし支援救済に貢献しました。済生会本部では、災害対策本部を立ち上げ、全国済生会が一丸となり人的、物的支援を行いました。全国済生会病院よりDMAT（災害派遣医療チーム）、各施設からはDCAT（高齢者・障害者施設支援チーム）が出動し、済生会熊本病院では余震の影響で設備やライフラインが不安定な中、通常の4～5倍の救急外来患者の対応と地域

の救急医療の拠点病院として懸命に救命活動にあたりました。医師、看護師の交代要員の要請があり当院からも3名の看護師（北海道看護協会災害支援ナース登録者）、緩和ケア認定看護師1名、皮膚排泄ケア認定看護師1名、主任看護師1名を済生会熊本病院へ派遣しました。3名の看護師は余震の続く中、10kgの食料や水を背負い現地へ向い、2泊3日各病棟に配置されました。北海道からの応援が患者さん、スタッフの励みになったという報告をいただき、使命感溢れる3名の看護師の活躍を誇りに思うとともに貴重な経験が今後の災害訓練に活かされることを願っております。熊本地震により自然災害の恐ろしさと、災害に備えた訓練の必要性を痛感しました。改めて、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、そのご家族の皆様にも心よりお見舞い申し上げます。

平成28年度の診療報酬の改定では、2025年（平成37）年に向け、地域包括ケアシステムの推進と、医療機能の分化・強化を図るため、入院医療について、機能に応じた適切な評価の推進と手厚い医療に対する評価の充実が重点となりました。重症度医療看護必要度の改定や、患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるよう、積極的な退院支援に対する評価の充実や在宅復帰機能が高い医療機関に対する評価の見直しも行われました。全国済生会看護部長会では、平成26年度より認知症看護の推進と育成に向け取り組んでおりました。平成28年度より予定していた認知症支援ナース育成研修が認知症ケア加算Ⅱの算定要件（9時間位上の研修）として厚生労働省より認可をいただき、済生会本部と全国済生会看護部長会が協同で研修会を開催することになりました。その研修の担当者として済生会本部にて4回の研修に携わり、全国済生会病院397名の認知症支援ナースを育成することが出来ました。微力ではありますが、全国済生会病院の認知症ケア加算取得に貢献できたことを嬉しく思っております。講師として協力いただいた当院、神経内科部長松谷学医師、全国済生会病院の認知症看護認定看護師4名、老人看護専門看護師1名の皆様、看護部長様には心より感謝申し上げます。当院も2025年問題や高齢化率の高い小樽市の地域性と患者層を踏まえ、認知症看護の質向上と退院支援の強化が必要と考えました。認知症ケア加算の取得に向け、認知症ケア加算対象研修修了者を各病棟に2～3名配置し、看護部が中心となり医師、多職種とともに認知症ケアチームを立ち上げ、年度内に認知症ケア加算Ⅱを取得することが出来ました。退院支援加

算についても退院調整看護師1名を専従とし、MSWを各病棟専任とし、退院支援加算Iを取得しました。退院支援加算の算定要件として、入院後1週間以内に退院支援カンファレンスを開催しなければならず、それらのカンファレンスの開催や多職種連携とのリーダーシップを看護管理者が中心となり進めてくれました。平成28年度は、多職種連携で取り組んだ病床管理も病床稼働率向上と、収益向上に貢献しました。今後多職種の専門性を生かしたチーム医療の強化をしていきたいと思っております。

平成28年度看護部目標

スローガン：病院理念、看護部理念達成に向け、思いやりを行動化しよう

1. 退院支援の強化

○外来、病棟、地域との連携を強化し、安心な退院を支援する

2. 人材育成

○専門職としての自覚と責任を持ち知識と技術を習得する

3. 思いやりの行動化

○看護者の倫理綱領を振り返り、全ての人々に敬意を持った対応をする

【看護部目標評価】

《財務の視点》

看護部管理者と多職種連携による病床管理委員会、病床調整会議、入院基本料7対1算定用件である重症度医療看護必要度会議の開催などにより効果的な病床管理が行われ、病床稼働率が前年度より向上し収益向上へとつながりました。一般病床稼働率：平成27年度80.3%→平成28年度82.3%、地域包括ケア病棟：27年度76.2%→平成28年度83.9%、回復期リハビリ病棟：27年度73.4%→平成28年度86.1%となりました。他、退院支援加算I、認知症ケア加算2、退院後訪問指導料の算定など看護師の活躍が収益増に貢献しました。

《顧客の視点》

看護部の今年度の目標として、思いやりの行動化を掲げ『看護者の倫理綱領を振り返り、全ての人々に敬意を持った対応をする』としました。患者さん、ご家族への倫理的配慮はもちろんでありますが職員間での人間関係の構築も設定理由でした。各部署では、スタッフ間でのサンキューカードや、誕生月の休み、新採用看護師へのメッセージカード、ビデオメッセージ等、試行を凝らした取り組みが行われました。その効果からか看護師の離職率も年々低下傾向となっております。(表1)

表1

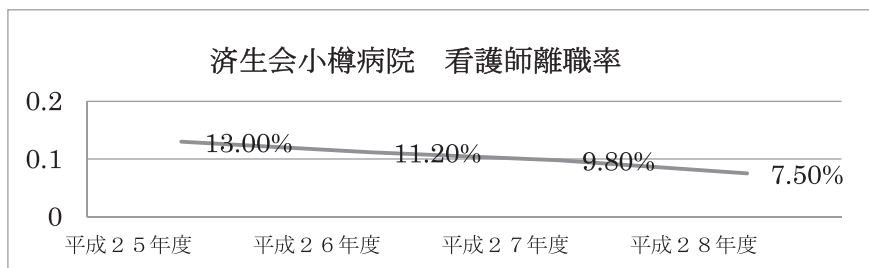


表2

平成27年度 新採用者離職率	0.0% (入職13名/退職0名)	平成28年度 新採用者離職率	6.0% (入職15名/退職者1名)
平成27年度お礼の件数 → 7件		平成27年度苦情件数 → 36件	
平成28年度お礼の件数 → 23件		平成28年度苦情件数 → 35件	

患者さんご家族から頂いたご意見も評価指標としました。前年度と比較し苦情件数の減少には至りませんでしたが、お褒めのお言葉は前年度の3倍以上となり、個人名の記載された内容も多くスタッフの励みとなったようでした。(表2) 苦情内容は、療養環境によるご意見が目立ち、特に物音、スタッフの声、カーテンやドアの開閉など、患者さんの立場に立った対応が出来ていないことが分かりました。看護師の接遇に関するご意見は減少傾向にありましたが、いただいたご意

見については、その都度、看護部全体に周知徹底し改善に向け取り組みました。

《内部プロセス》

医療に携わる多種多様な専門職がそれぞれの高い専門性を発揮し、目的と情報を共有し的確なケアの提供を目指し、チーム医療の強化を目標としました。緩和ケアカンファレンスや倫理カンファレンス、退院支援カンファレンスの開催などにおいては多職種連携にお

ける看護師の役割りは認識できているようでした。しかし、在院日数が短縮化される中、高齢者の退院支援については、外来、一般急性期病棟の看護師が役割を果たしているとは言い難い現状もありました。地域包括ケア病棟や、回復期リハビリテーション病棟の看護師同様、患者さんご家族の望む退院支援に取り組めることを今後の課題とします。

《学習と成長の視点》

平成28年度は、診療報酬改定に伴う研修会などもありましたが、前年度と比較し研修参加者が41件増、10分野で40名の有資格者が誕生しました。特に厚生労働省認可の認知症研修受講修了者は16名となり、当院の認知症看護の質向上と認知症ケア加算2の取得に貢献しました。他、日本難病認定看護師1名、認知症ケア専門士2名、呼吸療法認定士1名など、当院の診療科における専門分野に特化した資格者も増え、今後の指導、育成につながることを期待しています。看護部全体研修としては、看護過程の研修を3年計画で進めており看護学生実習を受けている北海道科学大学

の福良薫教授より継続してご指導をいただいております。指導の成果を看護記録委員会と共同で研究に取り組みました。アセスメント力の向上が示され、研修の成果を実感することができました。

課題はまだありますが、全体の質向上にはつながったようでした。

【今後の目標】

地域包括ケアを実現するために、地域と早期に連携し、切れ目のない医療、介護の提供が必要と考えています。急性期病院では、在院日数の短縮化に伴い入院患者の速やかな在宅調整と在宅関連スタッフを含めた多職種連携が求められています。多機能病床を保有する当院の強みを生かしたチーム医療の推進と、患者、家族の望む治療、退院支援が行えることが今後の目標です。退院支援に於いても今後、ますます高齢化の影響で、独居、老老介護、認知症など多くの困難事例が予測されます。地域との連携を強化し、その人らしい暮らしが保証できるよう地域を含めたチームでの取り組みを強化したいと考えています。

済生会熊本病院への壮行会

左より千坂主任・石渡主幹・近藤病院長・根布看護師



平成28年度新人看護師研修、講師の臨床工学技士との集合写真



北海道にあこがれ、大阪から就職しました。2年目に向け頑張っています。

平成28年度 卒業看護学校

函館看護専門学校・北海道看護専門学校・小樽医師会看護高等専修学校・北都保健福祉専門学校・上川北部医師会付属准看護学院・北見医師会看護専門学校・駒沢看護保育福祉専門学校・北海道ハイテクノロジー専門学校・大阪久米田看護専門学校

看護部長 大橋とも子

3 A病棟

【スタッフ】

看護課長：浅田 孝章
係 長：原田 真里
主 任：佐野 舞
看護 師：28名

(うち短時間正職員：2名 夜勤専従：1名)

准看護師：3名

看護補助者：7名 医療クラーク：1名

【部署の特徴】

3 A病棟は外科・泌尿器科・循環器内科の混合病棟です。主に急性期の患者さんの看護にあたり、周手術期看護を中心とした急性期看護、重症患者管理を行っています。前立腺の検査から消化器系の癌の手術、透析療法、うっ血性心不全と幅広く、手術前・後の状態だけでなく健康レベルも様々です。また、高齢者が多く、患者さんだけでなく、家族を含めた援助が多く、高い看護スキルが求められます。

患者さんが早期に退院できるよう、看護師が中心となり医師と連携を図り、他のメディカルスタッフと定期的にカンファレンスを開催し、チーム一丸となり日々取り組んでいます。

【実績】

平成28年度

入院患者数	退院患者数	利用率	平均在院日数	手術件数
874人	787人	85.2%	16.03日	528件

【平成28年度の取り組み】

平成28年度の看護部の重点項目は、退院支援の強化・人材育成・思いやりの行動です。社会情勢の変化や診療報酬の改定で、在院日数の短縮や病院から在宅への移行が求められ、病棟間での移動や早期退院となり、複雑さが増しています。患者さんやその家族が安心して退院できる支援をしていかなければなりません。そのためには外来、病棟、地域との連携強化が必要で多職種が力を合わせ、チーム医療を実践していくことが重要となります。また、看護は一人ではできません。誰が関わっても同じ看護を提供できることが求められます。また、専門職業人として、知識・技術の向上は重要です。日々進歩していく医療現場において自己研鑽は欠かせません。

そこで平成28年度の病棟目標は『看護ケアを向上し、患者さんにされるべきケアを提供する』とし、チーム毎に目標達成に向けて、小集団活動を実践していきました。各チームで勉強会を開催し、必要な知識の習得に臨みました。また、定期的なカンファレンスの開催をし、患者さんやその家族に必要な看護サービスやケアを話し合い、統一したケアを提供できるように取り組みました。

【今後の目標】

これからも病態の知識を深めるとともに、あらゆる健康問題を抱える患者さんに寄り添い、思いを汲み取り、患者さんやその家族に必要な看護を提供していきます。

平成29年度の目標は『退院支援を強化し、早期に退院できる』『転倒・転落を減少させて安全な療養環境を提供する』とし『選んで頂ける病院』を目指し、取り組んでいきます。

看護課長 浅田 孝章



仕事と子育ての両立

3A病棟 奥嶋 泉帆

昨年長女を出産して1年の育休を経て平成28年12月に短時間正職員として仕事に復帰しました。自分が出産して改めて仕事と子育てを両立している方々は本当にすごいなと実感しています。子どもの成長を側で見守りたかったため専業主婦になることも考えましたが育休中、やっぱり働きたいなと思い短時間正職員になることを決めました。実際に仕事に戻ってみるとやはり看護の現場は忙しく、慣れるまでは家に帰ると寝てしまうという生活でした。最近やっとこの生活にも慣れ、子どもとの時間もたくさんとれるのでとてもいい選択をしたなと思います。子どものことで休むことも多く、一緒に働いているメンバーには迷惑をかけてしまっています。ところがとても優しい方ばかりでいろいろ気にかけてくださりみなさんに支えられてなんとか両立できています。子どもは1歳になり、好奇心旺盛で大変な毎日を送っていますが、そんな子どもの成長を見られることにとっても幸せを感じています。1年半休職しただけでどんどんわからないことが増え、日々の仕事もままならない状態です。ですが、仕事も子育ても両立していてすごいなと思われるように頑張っていていきたいと思っています。



おとぎの国でリラックスタイム

学生から看護師となって

3A病棟 渡邊 章恵

准看護師として昼間働き、夜間は勉強するため看護学校に通い来年卒業となります。来年から看護師として働きます。私と同じように夜間学校に通いながら正看護師になった方々がいるのに、当時1年目だった私は准看護師と学校の両立が想像していたよりも、大変で何度も自分には向いていない、職場も学校も辞めたほうがいいのかもしれないと心の中で思っていました。でも日々働く中で辛い時に支えになってくれた同期との出会いや、できない私に対してあきらめず親身に指導して下さる先輩に囲まれて、恵まれた環境で働く事ができているのに、諦めるのではなく頑張らなきゃいけないという意識に自然と変わっていき、いつのまにか学校に通う事も自然と慣れていきました。仕事がどうしても間にあわなくて学校に行かなければならない時も助けていただき、実習に通う時にも、実習の日程や国家試験に向けて勤務を調整して下さる職場のおかげで、臨地実習も国家試験も無事終え卒業を迎えれそうです。

卒業してからも勉強をしなければいけないのですが、職場の方々を見習い、自分の考えを持ち、知識、技術を身に付けて働いていきたいと思っています。



いつも笑顔で

3B病棟

【スタッフ】

氏名 伊藤 瑞代 看護課長
岡本 麻理 看護係長
岸本 悦子 看護主任
看護師 25名 准看護師3名 看護補助者5名

【部署の特徴】

3B病棟は、単科の急性期整形外科病棟です。幅広い年齢層の整形外科疾患の方が入院される事と、手術

【実績】

平成28年度

病床利用率	平均在院日数	入院数(転入数)	退院数(転室数)	手術件数
75%	13.6日	1,030名(27名)	578名(485名)	880件

【平成28年度の取り組み】

平成28年は、患者さんと目標を共有し、計画的な看護ケアを提供すること、看護チーム内・外での情報共有を強化することを目標とし、患者さんに寄り添った看護を展開しようと考え各看護チームが活動しました。看護スタッフが一つになり、患者さんの正しい現在の情報を共有し、患者さんの望むゴールはどこか、看護計画は患者さんの想いに沿っているか等、様々な視点から勉強会も開催し1年間頑張りました。結果として、データベースの見直しが効果的に記載されるようになり、リハビリスタッフとの患者さんのADLやゴールの共有がスムーズに行えるなどの良い結果を得ることができました。また、患者さんと目標を共有することは、患者参画型看護計画を学習する等に留まりましたが、数名の実践も行なっており、今後に繋がっていくと考えています。

後患者さんは比較的早い時期に回復期・リハビリテーション病棟や包括ケア病棟に移動されるため、より丁寧な対応、説明を心掛けコミュニケーションを大切にしています。また、入院時から医師はもちろん、リハビリテーションスタッフや薬剤師、栄養士、MSW等の多職種と連携をとって、患者さんが望むゴールを共に目指し、日々看護活動に取り組んでいます。

【今後の目標】

「患者さんに寄り添い、患者さんを見る」事を常に念頭に置き、平成29年度は引き続き患者さんと目標を共有することに取り組んで行きます。また、4月からは一部内科も混合となるため、整形外科疾患以外にも知識、技術を求められる事になります。入院される患者さん全てに、安心と満足を提供できるようマニュアルの整理や学習会なども行なっていく予定です。3B病棟に入院して良かった、と思って頂けるように平成29年度もスタッフ全員笑顔で頑張ります。

看護課長 伊藤 瑞代



九州から北海道へ

3B病棟 桑鶴 律子

生まれも育ちも九州の私が北海道に来て、はや5年が経ち、済生会小樽病院に就職して4年が経とうとしています。なぜ、北海道なの？と聞かれますが、ジメジメと暑い所に住んでいたものにとっては、雪の多い北海道は憧れがあり、夏はさらっとした暑さなのだろうなあという期待があったこともあります。環境をガラッと変えたく、せっかく行くのなら九州とは反対の北海道にしようということで、子供と相談して決めました。ここ最近になって、大分この環境になれてきましたが、冬になると雪に苦労します。いまだに歩道を歩く時は転んでしまいます。授業参観に行くときは恐怖です。かなりの坂を登って行かないといけないので、行き帰りで2〜3回は転び、何しにいつてるのか分からないほどです。そんなこともあります。北海道にきて一番良かったことは、子供たちと話す事が多くなった事です。今までは、日勤でも帰りが遅く、さらに2交代制だったためほとんど家に居ないような環境でした。祖父母がいましたが、やはり母親が居ないことが寂しかったと言われました。今では、親子の会話も増え、反抗期の問題も増えながら本当に親子の生活ができたように思えます。今後も色々あるとは思いますが、仕事に子育てに頑張っていきたいと思えます。

日々奮闘

3B病棟 宮下めぐみ

今は短時間正職員として働いています。

私には3歳と0歳の子がいて、産休明け、生後2カ月から復帰しました。

3歳の子は、弟ができたこと認識しても弟との関わり方が分からず、いないものとして弟が泣いても知らず、歩く所に弟が寝ていても踏んで行き、赤ちゃんをベビーラックに入れていると、揺れがシーソー感覚に思えたのか赤ちゃんに馬乗りになって高速で漕いで、弟にミルクをあげていると、「抱っこしてー、赤ちゃん置いて抱っこー」と連呼していることは多々あります。

自分でも、3歳と赤ちゃんの生活に慣れず、朝は4時に起床後、子供のお昼の弁当と晩ご飯作り、洗濯など活動したいのに、私が起きると同時に子供も起きだして、全く思い通りにいかない毎日を送っています。

3歳の子は、生後10カ月の時に複数のアレルギーが発覚し、アレルギーの食材を使わずに食事をどのように作ればいいのか不安で仕事を辞めようかと考えたこともありましたが、何とか家族に協力してもらい生活を送ることができるようになりました。アレルギー(一)の総菜などを見つけた時は涙が出るほど嬉しかったです。人間耐えることも必要なのかと、四苦八苦しながらアレルギー科の先生に軟膏の塗り方やアレルギーについて勉強し今ではアレルギー食品を使わずに料理をすることの楽しさも感じるようになりました。色々大変な事もあり、これからもっと大変な事が増えると思うけど、それでも子供がいる幸せ、職場の皆さんには子供の病気などで早退や育児休暇でご迷惑をお掛けしていますが、働ける喜びを感じ、日々奮闘し頑張っています。

4 A病棟

【スタッフ】

看護課長 兒玉真夕美
看護係長 中山 優子
看護主任 千坂あかね
看護師30名、准看護師6名、看護補助者7名、医療
クラーク2名
(うち短時間正職員2名、パート看護師3名、育児休
暇中2名)
内視鏡技師1名、糖尿病療養指導士1名

【部署の特徴】

内科では、糖尿病や肺炎、内視鏡手術や術前精査、
がんターミナル期での疼痛緩和などの看護にあたっ
ています。神経内科では、脳梗塞急性期から慢性期、パー
キンソン病や筋委縮性側索硬化症 (ALS)、慢性炎症
性脱髄性多発神経炎 (CIDP) といった神経難病など、
入退院を繰り返している患者さんや、病状の変化によ
り従来の日常生活に復帰することが困難となる患者さ
んも多くいます。入院早期に治療・看護方針を立案し、
一人ひとりの患者さんに最も適した方向で計画を
実施できるように、看護師、MSW、PT・OT・STリハ
ビリチームや緩和ケアチームなどの他部門との連携を
強め、合同カンファレンスで状況の確認と計画の修正
を行っています。受持ち看護師を中心に、チームで情
報を共有しながら、患者さんや家族にとって必要な
ケアと治療について最善の選択ができるよう共に考
え、思いに寄り添いながら統一した看護ケアを目指し
実践しています。

【実績】

平成28年度

入院数(うち転入数)	925人(64人)
退院数(うち転出数)	932人(314人)
病床利用率	87.1%
平均在院日数	19.0日
内視鏡件数	528件

【平成28年度の取り組み】

病棟内の業務の統一化を図る、受持ち看護師として
責任を持って看護を展開する、接遇5原則(挨拶、笑
顔・表情、態度、言葉遣い、身だしなみ)を実践する
という3つの病棟目標を掲げ、活動してきました。業
務の効率化を図りながら、いかに患者中心の医療を提
供できるかを考え、多い月にはリーダー会を2回開催
するなど、頻回に話し合う機会を設け、決定したことは
必ず実践しよう!!という意気込みで活動してきました。
受持ち看護師としても、家屋調査や退院後の訪問
看護に同行するなど、退院後の生活を見据えた看護
ケアの実践に少しでも繋がりたいという強い気持ちで
関わることができたのではと思います。

また、今年度初めに立て続けに接遇に関するクレ
ームがありました。8月以降は病棟に対するクレーム、
苦情は届かなくなりました。退院時にも、「本当にお
世話になった。」と受持ち看護師を探して下さる患
者さんや、「この病棟の看護師さんは明るいから、こ
っちも元気になる。」などのお褒めのお言葉を多数
頂き、全員で意欲的に接遇向上に向け取り組んだ結
果が患者さんやご家族の笑顔に繋がり、スタッフのや
りがいいにも繋がったと思います。

【今後の目標】

受持ち看護師として、患者や家族の思いに寄り添
うためには、何を望んでいるのか関心を持ち、聴く
ことが出来なければ何も始まりません。忙しい業務
に流されることなく、患者が望んでいることは何か
を考え、行動できるように、受持ち看護師としてさら
なるパワーアップを目指し、スタッフ一丸となって思
いに寄り添える看護活動を目指し頑張っていきたい
と思います。

看護課長 兒玉真夕美



看護師5年目

4 A病棟 藤原 揚子

入職して5年になりました。3年目で結婚・出産をし、慌ただしく毎日を過ごしていましたが、今年一年は実習に看護師国家試験、子育てと特に濃い一年となりました。学業と仕事の両立は大変な一方で、学校で勉強したことと実際の看護がつながった時には、より学びを深めることが出来、そこに楽しさや喜びを感じました。実習では一人の患者さんの看護に一日を費やして向き合うことで、普段の自分の看護を見直す機会にもなりました。小さい子どもがいながら実習に臨むことは不安も多く、無理ではないかと思うこともありましたが、病棟の皆さんや家族の支えがあり無事に卒業することが出来ました。

子どもは2歳になりました。初めての子育てで毎日色々なことがあります。育児の面でも何かあれば相談できる先輩方がいるため心強く、子育てをしやすい環境で働けていることを幸せに思います。今年一年は、病棟の皆さんの支えなしには乗り越えることが出来ませんでした。実習で行き詰まり苦しくなった時でも、仕事に来ると安心することが出来ていました。この感謝の気持ちを忘れず、自分も周囲の人に貢献できるように成長していきたいと思えます。



ママと一緒に楽しいね

看護師1年目

4 A病棟 横山 千穂

看護師として当院に入職し、もうすぐ1年になります。入職した頃は毎日、不安と緊張で環境や業務に慣れることで精一杯でした。日々の多忙な業務内容についていけないことや看護師の責任の重さを実感し、落ち込むことや悩むことも多くありました。しかし、そのたびに先輩看護師さんが優しく声を掛けてくれ、忙しい中でも丁寧にご指導していただき、多くの支えをいただきながら、日々乗り越えることができました。内科病棟では、神経難病や終末期を迎える患者さんなど様々で、看護の難しさや知識不足を実感することも多くありますが、患者さんから学ぶことも多くあります。看護を実践し、患者さんとの関わりの中で、患者さんが少しでも笑顔になり、感謝の言葉を頂いた時に、やりがいを感じる事ができます。患者さん一人一人にとって、最善のケアとは何かを考え、実践していけるよう頑張ろうと改めて思うことができます。

まだまだ未熟で迷惑をかけてばかりですが、自ら学習することや先輩看護師さんから助言を頂くことで知識、技術を身につけていき、患者さんや家族の思いに寄り添える看護師になれるよう頑張っていきます。



初心を忘れずに

4 B病棟

【スタッフ】

氏名 金澤ひかり 看護部室長（病棟課長兼務）
伊井 洋子 看護係長
伊藤 理恵 看護主任

看護師 20名 准看護師 3名 看護補助者 9名

【部署の特徴】

4 B病棟は、地域包括ケア病棟です。平成26年10

月に北海道内でいち早く開設し、当時は地域包括ケア病棟としては1番多い病床数でした。急性期治療後の患者さんを院内・外から受け入れ、患者さんやご家族が不安なく退院することができるよう、様々な職種と連携し、退院支援・退院調整を行っています。

入院できる疾患に制限はなく、様々な病気の患者さんと関わりながら、患者さんに安全・安心な看護を提供できるよう私たちも日々勉強させていただいています。

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院(院内)	41	51	48	43	55	42	58	58	58	50	53	53
入院(院外)	2	2	10	3	13	3	6	2	4	7	5	5
退院	57	48	50	48	55	41	59	64	60	46	61	61
病床稼働率(%)	79.1	67.4	84.9	82.1	74.7	90.1	88.7	92.8	77.9	85.9	96.2	90.0

【平成28年度の取り組み】

今年度は、患者さんや家族の思いに寄り添った退院支援・調整ができるよう、チームを作り取り組みました。チーム毎に、意思決定支援、試験外泊の充実、多職種と連携した在宅への退院調整、介入内容の振り返りなどを目標に掲げ、スクリーニングシートの作成・活用、データベースの充実、アンケートの実施などを行いました。また、取り組みの中でMSWやリハビリスタッフ、訪問看護師とも連携することで、より患者さんや家族の思いに寄り添った支援が行えたと思います。

各チームの活動評価からも様々な学びと共に患者さんや家族の思いや望みをふまえた退院支援・調整の重要性も述べられており、実りある活動ができたと思います。

【今後の目標】

平成29年度は、今年度行った患者さんや家族の思いに寄り添った退院支援・調整をより充実させるために、医療チームの中で患者さんや家族の1番身近にいる看護師が、チームの中心となって退院支援・調整を行っていきたいと思います。また、そのためには患者さんや家族とよりよいコミュニケーションをはかり、個別性のある看護計画の立案・実施に力を入れていきたいと思います。

看護部室長（病棟課長兼務） 金澤ひかり



1年目をふり返って

4 B病棟 伊藤 初采

私は、准看護師として働きながら正看護師の資格取得のため夜間学校に通っています。今年、地元を離れ小樽に出てきて1年目となります。最初の頃は、初めての一人暮らし、仕事と学校の両立が想像以上に大変で、正直、どうしてこんなつらい道を自分で選んだのかなあと思うこともありました。そんなとき、病棟で一緒に働いているスタッフのみなさんから応援ビデオメッセージを頂いたり、同じチームの先輩方からのメッセージがロッカーに入っていたりして、「頑張ってるね」、「なんでも相談してね」などの言葉にたくさん励まされ支えられて、無事に2年目を迎えることができました。少しずつ、日々の業務や学校にも慣れた事で余裕ができ、休日はバレーボールの試合に出たり、ライブやフェスに行ったりと、忙しい毎日の中で充実した日々を過ごせています。来年度は、2年目としての自覚を持ち、看護師としての知識や技術を先輩方からたくさん吸収することで、恩返ししていくことができたらなと思っています。

山があって、海があって、おいしい食べ物がたくさんある小樽が大好きになった1年目でした(*^_^*)



大好きな小樽で充実した日々を

育児と仕事の両立に向けて

4 B病棟 小宅 亜希

私には現在2歳と4歳の子供がいて、短時間正規職員として働いています。以前は心臓血管センターで7年間働き退職しました。出産・育児のため3年間以上家庭に入り、1年程前より復職しました。新しい職場での、全く経験のない地域包括ケア病棟での仕事にもやっと慣れて来たかなと感じているところです。復職した当時は子供が順番に発熱などの病気をして頻繁に仕事を休んでいました。3年以上のブランクを一刻も早く埋めたい気持ちと、子供の看病のために仕事を休まないといけないという葛藤で、家庭ではイライラしてしまう時もありました。しかし、何度休んでも嫌な顔一つしない本当に暖かい病棟のスタッフ・上司に囲まれ、焦らず自分のペースで仕事をしていこうという気持ちになれ、子供が病気の時は看病に専念することが出来ました。

家庭では、まだまだ甘えん坊の2人を同時におんぶに抱っこをしていることも度々あり、仕事は私にとって育児からの息抜きになっている部分もあります。しかし、部屋の担当だけではなく患者様の受持ちをするにあたり、責任を持って地域包括ケア病棟のスタッフとして働きたいと考えています。退院支援などを通して患者様や家族の想いに寄り添った看護を行えるように日々勉強していきたいと思っています。

今の私の夢はいつか子供達が大きくなったら「僕・私のお母さん看護師さんだよ。」って友達に自慢気に話してくれるようになる事です。そんな日が来るまで育児と仕事との両立に向けこれからも奮闘していこうと思っています。



ママのお膝の上だーい好き！

5B病棟

【スタッフ】

小松多津子 看護課長
 藤田真由美 看護係長
 臼杵 美花 看護主任
 看護師 9名
 准看護師 7名
 皮膚・排泄ケア認定看護師 1名
 介護福祉士 6名 看護補助者 2名

【部署の特徴】

病気やけがなどにより身体・認知機能が低下した患者に対して、急性期での治療を終えて家庭復帰・社会

復帰を目的に集中的にリハビリを行うための病棟です。患者さんやご家族と共に医師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語療法士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士などがそれぞれの専門性を活かしてカンファレンスを行ないチームで目標に向かってリハビリを行います。患者さんの家庭復帰、職場復帰、寝たきり防止のため、病棟では退院後の生活を想定した練習を繰り返すことで、退院後の生活によりスムーズに移れるように日常生活動作の向上を目指しています。また、当病棟では、土曜日、休日も関係なく1年365日患者さんにリハビリを提供しています。

回復期リハビリテーション病棟へ入院対象の方

病名	上限日数
脳血管疾患、背髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍	150日以内
義肢装具訓練を要する状態	150日以内
高次機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷を含む多部位外傷	180日以内
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折	90日以内
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	90日以内
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は股関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態	60日以内
股関節又は膝関節の置換術後	90日以内

【実績】

(患者数・手術件数などは、別項目にて記載します)

入院患者数	病床利用率	平均在院日数	在宅復帰率
43.2名	86.3%	46.7日	85.5%

【平成28年度の取り組み】

今年度は、安心して入院生活が送れるように、患者・家族の希望に添った看護を提供したいと考え「退院後の環境に応じた計画と目標を設定し、カンファレンスで患者に適した退院支援を行う」「スタッフ全員で、看護者の倫理綱領を学び患者・家族に敬意を持った対応をする」という病棟目標を掲げて取り組みを行いました。退院後の環境に応じた看護計画と目標を設定して、カンファレンスで患者に適した退院支援を行うという事を念頭に、チームで統一した看護問題、看護目標、看護計画が掲示できるように多職種カンファレンス前に看護師チームで前カンファレンスを行ない情報を共有して、統一した看護過程を展開することができました。また、定期的に看護者の倫理綱領について勉強会の開催やアンケートによる倫理についての意識調査を行い、倫理について再認識することができました。

【今後の目標】

今後も患者・家族に寄り添い、安全で安心して入院生活が送れるように個別性のある看護計画を立案して看護過程を展開したいと考えています。

看護課長 小松多津子



「回復期リハビリテーション病棟への異動を経て」

5B病棟 太田 聖子

回復期リハビリテーション病棟へ勤務異動して1年近くになります。以前は、外科や泌尿器科、循環器内科のある急性期病棟で勤務しておりました。病棟の異動は、初めてではなかったのですが、病棟の業務や雰囲気慣れるまで少しかかったような気がします。一緒に勤務をしたことのあるスタッフもいたことで安心した気持ちで仕事をするのができたかなと感じました。

異動後、急性期病棟での勤務を経験してきた影響もあつてか、患者が自分で出来ることでもすぐに介助してしまうことが多く、「自分で出来ることをしてもらおう」という援助がうまくできませんでした。どうしても介助してしまい、「ここの病棟はリハビリテーションを目的としているのだから出来る部分を生かしてもらわないと」といつも心の中で思っていました。それでも、少しずつ回復期リハビリテーション病棟の目的や役割などを学び、患者への援助も戸惑うことなくできるようになったと思います。

回復期リハビリテーション病棟では、自宅や施設などの退院先を検討し、その退院後の生活を見据えて訓練を行い、また多職種と連携しながら退院できるように進めています。急性期病棟では退院先へのアプローチが薄かったため、異動後、退院へのアプローチをどのように進めていったらいいのか悩んだこともありました。今でも、段階を踏んでうまく退院へ進めることができたのかなと思っています。

もっと回復期病棟の看護師の役割を深く学び、現場で活かすことができるようにしていきたいと思えます。



個別性のある看護計画を目指します

早起き習慣

5B病棟 蜂屋奈津江

准看護師として働いてからおよそ16年が過ぎた頃、進学コースの通信課程開設をきっかけに、札幌医療科学専門学校の通信制に一期生として入学しました。

働きながらの学生生活は時間に追われる毎日で、通信制は自宅での学習が多く、モチベーションの維持が大変でした。なるべく生活スタイルを変えず、学習時間を確保するために必然的に早起きとなっていました。9:30に寝て、4:00に起きて、レポートを書いてご飯を食べて仕事に行く∞。仕事の後は自由時間。そこそ楽しんで気分転換。休日にはできるだけ体を動かし運動不足解消！

周囲の協力もあり、無事卒業、国家試験合格となりましたが、早起き習慣は変わらずで、卒業後10年と少し経った今でも4:30には起きてしまいます。せつかくなので、夏場の休日などは体力維持のために、2時間位小樽市内の早朝散歩をすることにしています。朝はとても静かで朝日はとても気持ちがいいです。普段は車での移動が多いので気付かない景色の変化も多く、こんな所にこんなお店…など新発見も嬉しいものです。何より小樽は坂道が多いのでとてもいい運動になりますし、早朝の静かな小樽の景色を、少し高い所から眺めるのもなかなかお勧めです。

歩くだけの手軽さは、運動が苦手な私にはぴったりの健康づくりみたいです。早朝散歩は今後も継続し、健康で一日でも長く看護師の仕事を続けていきたいと思っています。

これからもよろしくお願ひします。



朝の散歩風景

外来看護課

【概要】

内科・消化器内科、循環器内科、神経内科、内視鏡センター

外科・消化器外科、整形外科、泌尿器科・性機能外来、耳鼻科、女性診療科、外来化学療法室

【スタッフ】

看護課長：澤 裕美

看護係長：丸山まり子、瀬川信子、吉田真知子

看護主任：高橋めぐみ

看護スタッフ：24名(職員6名、短時間職員12名、パート職員6名)

〔資格取得者：内視鏡技士3名、糖尿病療養指導士2名、NST専門療法士1名、〕

皮膚・排泄ケア認定看護師1名

看護補助者：2名

【業務内容】

外来看護師は、患者さんや御家族が安心して治療を受けることができ、円滑に生活が送れるよう、調整する役割を担っております。何科に受診するか迷っていらっしゃる方の御相談、診療時の介助、採血、検査・治療・入院の際の御説明などを行っており、診療がスムーズに運び、患者さんに満足して頂ける看護を目指しております。

【当外来の特徴】

済生会の“施薬救療の精神”のもと、基本運営方針の一つに“断らない医療”を掲げております。そのため、救急車で搬送される患者さんが連日いらっしゃり、緊迫した場面になることもありますが、反面とってもアットホームな雰囲気をもった外来です。

当院は大正13年に済生会小樽診療所として開設し、昭和27年に済生会小樽北生病院（現在の済生会小樽病院）が誕生しました。場所は小さな港町小樽の端に位置し、地域の中核病院である当院に、多くの患者さんが通っていらっしゃいました。

平成25年、現在の場所へ移転した後も通院して下さり「〇〇さんに会いに来た」「皆さんの顔を見ると元気になる」など大変ありがたいお言葉を戴いております。

そのお言葉に恥じないよう笑顔を忘れず、また多様な場面に対応できる技術・知識を向上するよう努力して参ります。

また当外来には、専門的知識と技術をもった、内視鏡技士、糖尿病療養指導士がおり、質の高いケアの提供やアドバイスをさせて頂くことが出来ます。

【新築移転後3年の実績】

1日平均外来患者総数（全科） (人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
4月	323.3	386.8	419.6
5月	322.8	408.5	399.6
6月	301.6	398.0	396.8
7月	333.3	427.1	414.3
8月	317.0	410.6	414.6
9月	352.3	416.0	410.1
10月	356.1	430.0	396.3
11月	362.4	435.9	416.9
12月	352.0	421.7	410.6
1月	390.7	429.1	407.8
2月	364.7	404.4	404.9
3月	371.0	418.0	373.7

【平成28年度の取り組み】

看護師が、担当の内科系・外科系にとらわれることなく、担当科以外の技術を習得することを目標に掲げておりました。業務の都合上、少人数でしたが内科・外科系チームの枠を超え、知識・技術を習得した看護師が増え、スキルアップすることが出来ました。

今後も、更に習得できる看護師が増えるよう努力して参ります。

【今後の目標】

27年度の継続として、担当科以外の知識・技術を習得したスタッフを増やしていきたいと考えております。また、受診をお待ちになっいらっしゃる患者さんが、少しでも心身共に安楽に過ごせるよう、目配り気配りが行えるよう取り組んでまいります。

看護課長 澤 裕美



子育てと仕事の両立

外来 本城祐美子

私は18歳から看護助手として当院で働き始め、その後准看護師、正看護師としての資格をとり気づけば入職してから13年になります。

現在は6歳と2歳の子育てをしながら勤務しています。毎日奮闘した日々を送っています。子育てと育児の両立は想像した以上に大変で、思い通りにいかないことだらけでした。

たくさん悩んだ時期もありましたが、同じく仕事と子育てを両立しながら過ごしてきた母にいつも相談に乗ってもらい、何事も完璧を求めすぎるとは良くないと学びました。

今ではたまに息抜きをしながら過ごし、自分にあった勤務形態で働けているため、仕事も子育てもバランスよく両立できていると思います。またどんなに忙しくて疲れていても毎日元気で笑顔いっぱいの子供たちの姿をみると、また明日から頑張ろうと思えます。

仕事面ではいつも患者さんの言葉や笑顔に救われています。看護師は大変な仕事だけど、本当にやりがいのある仕事です。これからも感謝やおもいやりの気持ちを忘れず、看護師としてもスキルアップできるよう頑張っていきたいです。



楽しい休日

ブランク10年以上からの復帰

外来 立木真理子

当院の面接時、ブランクがあり過ぎて「浦島太郎です」と院長に笑顔で言われたのを思い出します。

就職時、緊張の連続で色々な失敗もしました。その度に「その全ての経験が、立木さんの力になるから頑張るのよ、大丈夫よ」といつも励まして下さった上司の言葉が、今でも私の心の支えです。

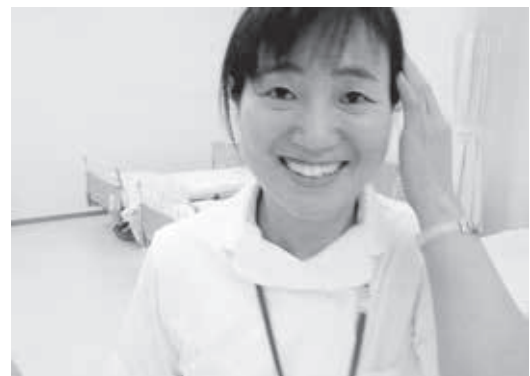
処置室で3年勤務し、現在スキルアップの為診察の勉強をしています。覚えなければならぬことが多く、自分の不甲斐なさに胸がいっぱいになってしまい、落ち込む事もあります。

「元気でよく喋るのが、立木さんなのに、居ないみたいに静かだよ」と心配される事もあります。そんな私に、自分の仕事の手を止め、一つ一つやろうとしっかりと教えて下さる上司。元気がない時に、すぐに気付いて、母のように抱きしめ慰めてくださる先輩。一緒に頑張ろうと励まし支えてくれる仲間がいる環境の中で、仕事ができる事に本当に幸せだと思う毎日です。患者さんの頑張る姿や笑顔に自分も励まされ、そして何よりもやりがいのある看護師の仕事が大好きです。

これからも、患者さんはもちろんですが、スタッフへの感謝、思いやりの気持ちを忘れずに、毎日笑顔で前向きに頑張っていきます。



私の大切な仲間たち



自慢の笑顔

透析センター

【概要】

ベッド数 25床

透析監視装置 25台、オンラインHDF 8%

【スタッフ】

看護課長 今野 晶子

看護係長 本間美穂子 フットケア指導士

看護主任 中山 祐子 NST専門療法士

看護師 6名

看護補助者 2名

【部署の特徴】

当院の維持透析患者の平均年齢は68歳。透析治療を受ける患者を医師、看護師、臨床工学技士、看護補助者で支えます。9割以上は外来通院の患者であり、患者一人一人に受け持ち看護師がおり、データベースの管理、患者参加型看護計画の立案、細やかな生活指導を行っています。

2014年度の済生会学会で研究発表をした壁新聞の取り組みも継続。毎月患者やスタッフのペットや趣味の様子、フットケアの豆知識をとりあげ、笑いと癒しを患者に届け続けています。

当院は小樽にあり、観光地でもあるため全国から旅行や里帰りのため短期から長期に渡り臨時透析の受け入れを行っています。

【実績】

透析センターでの災害対策への取り組みが、看護師と臨床工学技士でチームを組み継続して行われていま

す。11月に行われた院内のQC大会において透析看護課の『スムーズ搬送 ラック楽 ～災害避難時の寝たまま搬送～』が平成29年1月のQCサークル札幌大会に選出され、見事審査員特別賞を受賞。スタッフルームに表彰状が輝いており、努力が報われスタッフの励みになっています。

【平成28年度の取り組み】

平成28年度は、スタッフ全員で透析マニュアルを見直し、安全で安心な透析治療に向け改訂いたしました。勤務異動で透析センターへ来た方へも活用しています。又、病棟と透析センターが連携できるシステム作りとして、新規導入患者を対象としたフローチャートが完成し、透析部門でも入院患者の退院支援対策に取り組みました。看護計画では受け持ち看護師が昨年度から患者参加型看護計画へ取り組み、さらに日々カンファレンスの内容を看護計画に取り入れる取り組みを開始、継続した看護へ向け、さらにチャレンジは続きます。

【今後の目標】

次年度は、次の2点を看護目標に挙げました。

1. 透析患者の入院から退院を通し、継続看護の強化
 2. 積極的な入院患者への支援
- 一生涯続く透析患者を支え、意思尊重と寄り添う看護をめざし、今後も取り組んでいきます。

看護課長 今野 晶子



QC活動タイトル名



QC大会で表彰された本間係長
お見事です

透析センター用 写真 いろいろ♪



患者食堂の壁新聞



病院忘年会で楽しいひと時



今日も笑顔と安心を
患者に届けます

私のストレス解消法

透析センター 井上 晶子

病棟から透析センターに異動になりました。透析センターでは看護ケアのほか透析装置の操作など特殊業務もあり覚えることがたくさんあります。シャント穿刺に対してはストレスやプレッシャーを抱えてしまうことも少なくないです。休日もつい仕事のことを考えてしまうことがあり私の悪い癖なのかもしれません。

ストレスは避けては通れないと思っています。そのため、ストレスを解消する方法を持つことが大切だと思っています。趣味や楽しみがあることは気持ちの切り替えができたりリフレッシュして新たな気持ちで仕

事に向かえることができます。

休日は、月に1度程度ですが札幌ドームへ野球観戦に行きます。大声を出して応援する一体感や昼間からビールが飲めて、なによりも球場の空気感はとても楽しく気分転換になっています。また、体を休めるためにもゆっくり過ごすことが多いですが、友人と会っておしゃべりしたりするのが私なりの楽しみになっています。仕事で行き詰った時などは励ましてもらったり逆に相談に乗ったりすることで、失敗を乗り越えたり仕事に対して前向きに考えられるようになっていると思います。

最近では、体調を崩して休んでいたスポーツジム通いを再開したいと思っています。運動をした後の爽快感を目指し良い汗をかいてストレスを解消していきたいと思っています。



今日も笑顔で頑張ります！



透析室内

手術センター

【スタッフ】

谷川原智恵子 看護課長
杉崎 美香 看護係長
猪股 光 看護主任
看護師 8名
准看護師 1名

【部署の特徴】

当手術センターでは、安全に手術を行い患者さんには、安心して手術を受けていただけるようスタッフ一同業務を行っています。臨床工学技士の直接介助業務も安定してきました。現在、麻酔科医が非常勤となっていますが、来ていただいた麻酔科医と協力し合い手術を行っています。

【実績】

平成28年度の手術件数は、1218例（麻酔下1016例 局所麻酔 192例）
麻酔科医は非常勤ながら手術件数の減少はありません。

【平成28年度の取り組み】

安全な看護で安心して手術を受けられるよう顔の見える看護としてマスクを外し患者へ笑顔で自己紹介をしています。今年度は、接遇も強化してきました。それぞれではなく、スタッフ一同が最低ラインの接遇ができるようにしてきました。

又、大腿骨骨折の手術を早期回復に向け48時間以内に行える調整など行い、断らない医療の一端を担っています。

【今後の目標】

評価が目に見えづらい部署ですがここで手術を受けてよかったと思っていただけるように不安を少しでも軽減できるようにこれからも患者に寄り添い、私たちもやりがいを感じながら仕事ができるようにしていきたいと思います。

看護課長 谷川原智恵子

まだまだ、頑張ります

手術センター 松木まさき

手術センターに異動になってから早、5年が過ぎました。それまでは、内科外来、病棟泌尿器科外来と全く畑違いの部署の勤務でした。麻酔や機器の名称や使用法等全く分からず指導されたことをメモにとり、本を読みながら照らし合わせるがなかなか覚えられず「もう何でこんなに覚えられないんだ」「もう、仕事やめたい」と匙を投げたくなるような日々が続いていました。それでも、続けてこられたのはスタッフのみんなが何度も指導してくれ、励ましてくれたからです。今も学ぶ事が多くあり知識を養うことで自分の自信に繋がり患者さんに安心して手術を受けていただき信頼して頂けるよう働いて行きたいと思っています。



心の癒やし

看護部教育

【概要】

看護部職員のキャリアアップのため教育委員会を運営し、新人研修とラダー研修の企画、運営、評価を行っています。平成28年度はラダー別研修に入職2年目、3年目研修を増やし、研修目的を達成するため、研修目標の明確化と研修評価の見直しを行いました。

【教育委員会】

教育委員長 早川明美（教育課長）

教育委員 瀬川信子、中山優子、本間美穂子（以上看護係長）、伊藤理恵、臼杵美花（以上看護主任）、小路深雪、松木まさき、川崎雅美

【活動報告】

1. 新人看護職員研修

新人15名が入職し4月5日（火）～7日（木）3日間行いました。各部署の紹介、看護部の概要、社会人・組織人としての心構えなど、看護職員として働く基礎を学んでもらいました。また、職場ですぐ看護業務ができるように電子カルテ、看護記録、看護技術の演習を多くしました。



新人入職時研修



新人入職時研修

2. 新人研修

新人のリアリティショックを少なくするため4月、5月に基礎看護技術の演習を多くしました。10月、3月にリフレッシュ研修を行い、新人同士で話し合える機会を作りメンタルサポートを行いました。また看護実践強化のため看護過程研修を3回行い、看護過程の基礎教育に力を入れました。



新人研修



新人研修

3. ラダー研修

入職2年目、3年目研修は「プロセスレコード」「ケーススタディ」「振り返り研修」を行い、自分の看護を振り返る研修を多くしました。ラダーレベル別研修ではラダーレベルアップのため「人材育成」「マネジメント」研修を行いました。



ラダー研修（振り返り）



ラダー研修（急変対応）



ラダー研修（リフレッシュ）

5. 集中研修

緩和ケアの集中研修を①H28年度新規受講者②28年度受講者に分け、2年をかけて研修を行いました。

【今後の目標】

研修で学んだ事が臨床で実践できるように、看護の動向を見極め、現状把握と研修の評価を行っていきたいと思います。

教育課長 早川 明美

5. 全体研修

管理職が企画、運営して行う研修を新たに企画し、看護過程の研修を多く行いました。

●看護研究（看護部）

看護の質の向上と看護職員のキャリアアップのため、年2回、春と秋に開催しています。

平成28年5月28日（土）演題

部署名	テーマ	発表者
3 B病棟	CPM施行による疼痛への看護ケア ～フットバスによる温罨法の有効性について～	鶴桑 律子 小林 有希
5 B病棟	外泊チェックリスト、外出・外泊後チェック表の見直しを試みて ～外泊チェックリストの作成～	根布 実穂
手術センター	当手術センターにおける手術時手洗いの現状調査 ～二重手袋を定着させるために～	堤 沙絵
看護部教育	看護職員としての社会人基礎力と当院新人の傾向 ～入職1～2年目の調査から～	早川 明美

平成28年12月3日（土）演題

部署名	テーマ	発表者
3 A病棟	看護師による抗がん剤取り扱いと曝露についての現状調査	武田 真季
4 A病棟	OAG（Oral Assessment Guide）を使用した口腔ケアの統一 ～口腔ケアプロトコルの活用～	本郷 詩織
4 B病棟	「地域包括ケア病棟における退院支援をふり返る」 ～病棟看護師としての課題～	増田 沙織
外 来	患者が安心して受けられる大腸内視鏡検査を目指して ～パンフレット活用後のアンケート調査より～	木藤 絢子
透 析	透析患者の「かゆみ」に関する実態調査 ～かゆみの現在を明らかにする～	古瀬 康江

事務部

■ 総 括

【事務部概要】

(組織体制)

管理事務室：総務課、施設用度課、経理課

医療サービス支援室：医事課、地域医療支援課、医療
クラーク課、健康診断課、情報
システム課

(職員数)

正職員33名

常勤雇用契約職員22名

非常勤雇用契約職員9名

計64名

(役職者)

部長1名、次長1名、課長3名、係長3名、主任3名

【平成28年度の取り組み】

平成28年度は最重点項目を「医業収支の単年度黒字化」とし、以下5つの重点項目を設定し取り組みました。

1. 在院日数等の適正管理
2. 収益増、費用削減の取り組み強化
3. 地域連携の強化
4. 業務の標準化・平準化
5. 個別教育研修の強化

1. 在院日数等の適正管理について

当院は整形外科、外科・消化器外科、泌尿器科、内科・消化器内科、循環器内科、神経内科からなる7対1一般病棟、在宅復帰に向けたポストアキュートと市内クリニック等からのサブアキュート受入れ機能を有する地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟の3機能の病床を持つケアミックス病院であり、平成28年度改定の診療報酬上では7対1の一般病棟について重症度、医療・看護必要度の基準引き上げにより維持が困難な状況となりました。その為、在院日数等の適正管理として、地域医療支援課、医事課が部門横断的な会議である病床調整会議に加わり、7対1一般病棟・地域包括ケア病棟・回復期病棟内の転棟調整、また、外部の受入れ調整を行い適正化に努めました。結果として、平成28年10月からの重症度、医療・看護必要度の経過措置後も問題無く、7対1一般病棟の維持ができました。病床稼働率も平成27年度79.6%に対して平成28年度83.3%と向上し、増収、医業収支の黒字化に寄与しました。

尚、各種調整においては、情報システム課で独自開発した必要度支援ツール等が有効に機能致しました。

2. 収益増、費用削減の取り組み強化

収益増の取り組みとしては、平成28年度より導入したメディカルコードの算定率向上支援ツールを用いて医事課を中心に医師、看護師、コメディカルと連携し、各種加算算定向上に努めました。

また、回復期リハビリテーション入院料の体制強化加算2の算定、退院支援加算1の算定等、医事課、地域医療支援課を中心に取り組みました。

費用削減については、診療材料の共同購入、電気の共同購入等、施設用度課を中心に取り組みました。

3. 地域連携の強化

平成28年度は特に回復期病棟の受入れ強化を図りました。回復期リハビリテーションの稼働率の低下、入棟時の重症割合の低下等を受けて、院内急性期病棟の転棟調整と並行して、他院からの回復期病棟対象患者の入院受入の強化を図りました。

4. 業務の標準化・平準化及び5. 個別教育研修の強化について

平成28年度は事務各課で定めている業務マニュアルの見直しを行い、課業一覧別スキルチェックを行い、個別教育研修を行う計画を立てました。結果として、全体の見直しまで至らず、各課別の対応となった為、引き続き、対応が必要な状況です。

【今後の目標】

平成28年度は院内全体の取り組みと事務部の各課各員の取り組みの成果もあり、最重点項目の「医業収支の単年度黒字化」を達成することが出来ました。

今年度取り組んだ事項に更に改良を加える事や、取り組み途中となっている件については再度、来年度取り組んで行く必要があります。

特に地域連携の強化、業務の標準化・平準化、個別教育研修の強化を推進する計画です。

事務部次長 五十嵐浩司

総務課

【概要】

主に下記の業務内容に掲げる業務を行っておりますが、平成28年度は特に給与計算・労務管理業務の効率化、電話交換専任後の更なる顧客サービス向上、臨床研修管理体制の強化、本年度から開始のマイナンバー収集業務・ストレスチェック制度への対応に取り組みました。

【スタッフ】

浦見 悦子（係長／総務人事・臨床研修・医局秘書担当）
 成田 明美（電話交換・庶務・給与担当）
 内山 泰男（総務人事・給与担当）
 世戸 収子（庶務・文書管理担当）
 吉田 理恵（医局秘書・臨床研修担当）
 細松 有香（総務人事・給与担当）
 寺島 光代（電話交換・庶務担当）
 吉田 悦子（電話交換担当）

【業務内容】

文書管理／人事管理／労務管理／給与計算／臨床研修事務／医局秘書／電話交換／防災センター受付

【部署の特徴】

総務課は外部対応（電話受付・行政団体等）だけではなく、内部対応（職員労務管理等）も行うその名称の通り「総て（すべて）」に「務める（つとめる）」課となります。

親切、丁寧であり院内外から頼りにされる部署である事が求められます。

【過去3年の実績】

常勤職員数の推移 (単位：人)

区分	平成26年4月	平成27年4月	平成28年4月
医師	26.5	25.5	24.5
看護師・准看護師	180.8	177.3	178.8
看護補助者	43.8	40.6	35.1
医療技術職	93.5	96.5	95.3
事務職員	54.5	56.1	57.1
その他職員	7.8	7.3	7.7
合計	406.9	403.3	398.5

【平成28年度の取り組み】

- 労務管理業務の効率化と新制度への対応
 - ・給与計算業務等の分業による業務の平準化
 - ・時間単位年休制度の制定、勤怠管理システムによる運用手順の作成（実施はH29年度）

- ・ストレスチェック制度の規定作成とweb受検の開始
- ・ノー残業デー実施後の監督職アンケートの実施と今後の課題の把握

- 電話交換業務専任後の更なる応対力の強化と顧客サービスの向上

- ・電話交換専任職員に対する外部講師による研修の実施
- ・「迷惑電話対策マニュアル」の作成

- 臨床研修管理体制の強化

- ・臨床研修パンフレット作成、ホームページ更新
- ・文献検索データベース、電子ジャーナルの整備
- ・新専門医制度研修プログラム（内科領域）作成、届出

- その他

- ・マイナンバー制度の収集に関する規定作成と収集業務の開始
- ・職員満足度調査実施
- ・たばこ（喫煙）に関するアンケートの実施
- ・マイカー通勤許可制度の導入
- ・対象職員への生活習慣病予防健診の実施

【今後の目標】

更なる業務改善と標準化・平準化を図り、各部門と連携していきたいと考えております。特に新たな制度であるマイナンバー・ストレスチェック・マイカー通勤の許可制・時間単位年休等に関しては、運用手順や実施の意味を職員へわかりやすく周知出来るよう努め、導入後の意見を取り入れより実効的な制度としていきたいです。

昨年度同様、初期臨床研修医の受け入れを目指し、また次年度より始まる新専門医制度に向けて更なる体制強化を目指します。

職員の皆さんが安心して気持ちよく働けるよう、信頼される総務課として引き続き各業務に取り組み、また、病院の顔である電話対応窓口として患者さん、各医療機関・取引業者の方々にスムーズに対応できるよう常に心がけていきたいと考えております。

総務課 内山 泰男

“辞令 総務課”

総務課 世戸 収子

何故かわからないが病院が好きだった私にとって、医業職で働くには、医者になるほどの頭はないし、看護師は血をみるし、リハビリといっても腰が弱い。では私がやれそうなことはなんだろうと考えたとき、医療事務って縁の下の力持ち的な存在でかっこいい！とやってきた6年目。色々あり、正直、行き詰まっていたところに辞令がきました。

病院の総務課というこれまで職種選択になかった分野に、驚きと戸惑いと同時に興味が沸きました。そもそも総務課とは何だ？未知というより無知。心機一転、ゼロいやマイナスからのスタートです。

引き継ぎが終わりいざ異動してみると、院内院外にわたり、なんと多種多様に関わる職務なのだと驚かされました。その数ある中で、私は文書管理を担うことになりました。

文書管理というのは毎日何十通と届く郵便物の振分けに始まり、代表宛メール・行政・各種団体からの文書を受信して各部署各担当者へ院内回覧する。回答を求められている案件については担当者へ依頼して期限内に回答する。院内回覧もただ回せばいいわけではなく、どんな内容なのか理解していないとならないし、戻ってきた文書は後から誰が探してもわかりやすいようにジャンル分けして保管。私は所在を把握し、あの要件の文書はどこにある？との問い合わせがあれば即答で

きなればなりません。それ以外にも各部署からの起案や出張申請書、議事録、公印押印依頼等々、ここには書ききれませんが、文書のあらゆるものに対応しています。このことにより、医療事務員の時よりも院内の全ての方々とより深く関われるきっかけにもなりました。

3年前に母が亡くなったのですが、母は読書家で文才にたけ、言葉の泉のような人でした。文章が苦手な私は目上の方に手紙を送る際、清書する前に見てもらっていました。いま、多くの文書を読み、また文章を作成するといった仕事をする事になり、そんな話ができないことがとても残念です。

これまでは医療事務員として、患者さんやその家族の方との対応の中で学ぶ言葉遣いや気遣いがありましたが、総務課員となってからは、外部のお客様への対応、お茶の出し方、おしぼりのたたみ方、言葉使い、社会人マナー等々、それまでのうろ覚えを一新させ、恥ずかしながら諸先輩方に一から教えて頂いています。

あまり読書もしてこなかったし、文章を作成することも社会人マナーに触れる機会も少なく、苦手なままだり過ぎしてきた私にとって、ここへきてそれらを克服するチャンスが巡ってきたのでしょうか。そして、依頼を受けたこのエッセイは飛行機の中で書いています。旅する度に思うのですが、空が近くなると母に会えそうな気がします。文才の宝庫だった母に聞きながら見守られながら、これからも頑張っていこうと思います。



小樽港にて

経理課

【概要】

管理事務室内の一部門として、会計業務・資産管理を行っております。

【スタッフ】

武田 和博（事務係長）
秋元かおり（経理係）

【業務内容】

- 予算・決算業務（月次・年次）
- 資産の管理
- 資金の調達・運用
- 現預金の受払・管理
- 旅費計算

【部署の特徴】

上記の経理業務の他、管理事務室メンバーの一員として、郵便物対応・来客対応・電話対応・外勤、そのほか病院広報や患者サービスに関すること等々、幅広い業務に従事しております。

【平成28年度の取り組み】

監査法人の訪問調査での指摘事項の改善や、月次決算開始など、より正確迅速が求められ、対応に追われた1年となりました。また社会福祉法人会計移行・共同利用型会計システム「福祉の森」稼働2年目となり、仕訳の見直し、システム操作の習熟、関連する各種研修の参加など、業務改善に取り組みました。

出張旅費計算業務が年度途中で総務課から経理課へ移行し、年間約500件の出張旅費計算を経理課員2名で行うに当たり、効率よく行えるよう手順の見直し、様式変更など行いました。

【今後の目標】

- 平成29年度に開始される法定監査への対応強化のため、引き続き内部プロセスの再検証を行います。
- 経費削減のための資料としての部門別費用実績の作成を行います。
- 経営判断のための資料を旧病院会計に当てはめて院内周知を行っていますが、今後は新会計基準による経営資料を作成し、新たな判断基準を周知していきます。
- 出張旅費を現金支給から振込へ変更します。現金取り扱いを減らすことにより、事故防止・合理化を目指します。

経理課 秋元かおり



施設用度課

【スタッフ】

清水 雅成（係長／購買・契約・委託担当）
田尾 昂介（用度係）
豊川 哲康（施設係／ボイラー技士1級、他）
神山 拓也（施設係／ボイラー技士1級、他）
松原 明（施設係）

委託職員

SPDスタッフ 7名
中材スタッフ 4名
洗濯スタッフ 3名
中央監視スタッフ 3名（夜間・休日）
警備スタッフ 3名（夜間・休日）
清掃スタッフ 12名



【業務内容】

- 施設設備、備品の点検・修繕
- 法定検査、自主検査の計画及び実施
- 中央監視室、防災センターの管理
- 診療材料、医療機器、医薬品などの購買及び在庫管理
- 購買・委託業務の入札
- 各委託業務の管理



【部署の特徴】

施設用度課は主に施設管理と購買管理をおこなっており、法定点検・自主点検の実施計画、施設設備・備品の運用・点検・故障対応、購買品の発注・納品・在庫管理、委託業務の管理などを主な業務としています。



【平成28年度の取り組み】

- ・各種法定検査
- ・省エネの推進（機器の整備、クールビズなど）
- ・防火訓練の実施（指導会参加、総合訓練）
- ・送迎バス1台購入、路線1増（1日5便）
- ・電気自由化に伴う契約変更（北海道・東北ブロック共同購入事業）
- ・院内防犯パトロールの開始（警備服の購入）
- ・ベンチマークにより医療材料費485万円削減



【今後の目標】

当課では、施設管理を維持・改善をしつつ、購買・契約の交渉をして経費節減に取り組んでいます。快適な療養環境を患者さんに提供し、健全な病院経営の一助となれるよう日々の業務を進めていくことを目標としています。

（施設係 神山 拓也）



日々の仕事

施設係 松原 明

朝の時間帯に玄関前に立ち、車椅子が必要な患者さんのところへ車椅子を運び、患者さんを乗せて病院の中まで介助をしたり、迷惑駐車の整理や喫煙者への注意、夏は芝刈りや水撒き、冬は除雪したりとさまざまな業務を午前半日勤務の中でしています。迷惑駐車や喫煙者へ注意するときは気を使いますが、患者さんが気持ちよく来院できるよう努めていきたいと思っています。



医事課

【概要】

医事課は医事係と医療情報管理係の二つに分かれております。医事係は主に外来会計・入院費請求・レセプト作成など請求業務を行い医療情報管理係はデータ提出加算のデータ作成や診療録管理等を行っております。

【スタッフ】

阿島 亮 (課長)

村上 京子 (主任)

柴田 幸子 (主任)

医事係 外来請求グループ 6名

入院請求グループ 6名

医療情報管理係 4名

フロアマネージャー 1名

【業務内容】

外来請求グループは外来患者さんの受付、診療費の計算、料金徴収、レセプト作成等を主な業務としております。また、外来フロアでの患者さんのご案内をはじめ患者さんの介助や院内の環境整備なども行っております。

入院請求グループは入院患者さんの請求書作成、レセプト作成、病棟事務業務を主な業務としております。また、診療報酬の請求を行う上での施設基準の管理や会計管理なども重要な業務となっております。

医療情報管理係は様式1の作成、がん登録、診療録監査・管理、カルテ開示、医事統計など多岐に渡る業務を担っております。

【部署の特徴】

医事課は一般事務とは異なり医療の専門的な知識に加え社会保障制度の理解や医療職種との連携が重要とされ病院経営や患者さんの満足度向上に深く関わる部署です。

【平成28年度の取組み】

平成28年度の取組みとしては査定対策、未収金対策を重点的な行動計画に掲げ取り組んで参りましたが引き続き課題として取り組む必要があると考えております。

そのためにはスタッフの学習や内部プロセスの改善、患者さんの視点などについて具体的な行動計画を立案する必要があると考えております。

【今後の目標】

平成30年度の診療報酬改定やDPC導入に向けた具体的な行動の立案。そしてこれまでの課題でもある査定・未収金・算定率向上などの改善に向けスタッフの育成に力を入れプロフェッショナルな部門として病院経営への参画や患者さんを中心とした医療への貢献を目標としレベルアップしていきたいです。

医事課 堀 博一



3年目を振り返って

医事課 医療情報管理係 峯 将大

私は3年間、医事課の診療情報管理係として働いています。初めは、「カルテ庫ってどんな仕事をするんだろう?」と思っていましたが、今は情報管理の重要性を理解し、仕事にやりがいを感じています。平成28年度はカルテのアーカイブ管理システムの変更があり、打ち合わせへの参加や実務の内容確認の補助をしたりと奮闘しました。作業手順が新しくなり一時混乱しましたが、次第に収まり、結果的には作業効率や正

確性のアップに繋がりました。変化に不安を抱かず、焦らず柔軟に対応することの大切さを学べたので、これからも様々な経験を積み、自発的に行動することで、今の職場をより良くしていきたいです。情報管理においてはミスがあってはならないので、常に最善の選択が求められると思います。そのために、興味と疑問を持ちながら様々な可能性を探って成長につなげていきたいです。今回の経験で、新しいことを始める際には事前の情報収集と、そのことに対する興味を持つこと、理解しようとするのが大切だと感じました。また、今年度は覚えた仕事を応用できるようになり仕事への意識が変わった年でした。来年度も自分の長所を発揮し、貢献していきたいです。



医療クラーク課

【スタッフ】

高橋明日美（課長）

医療クラーク係：窪田 恭子、平尾 愛、金田智香子、
葛西 淳子、本間 美江、伊藤紀美江、
平光 美帆、大渡美菜子、高橋あかね、
新田 舞、阿部 真理、小路 璃沙、
爰地 由佳、佐藤 和季、松村 愛弓、
小林紗也加

受付係：岩崎永里賀、工藤 美奈、小西 麻央、
伊藤紗代子

【部署の特徴】

医療クラーク課では、外来診療補助業務、文書作成補助業務、予約センター業務を行っています。

各ブロック受付、各外来診察室、内視鏡室、中央処置室にスタッフを配置しており、診療がスムーズに進められ、また医師の事務的負担軽減となるよう、各種検査、処方、リハビリオーダーの代行入力、次回予約入力、検査説明等を行っています。

文書業務は4名の担当を配置し、医療文書の依頼、診断書の下書き及び確認依頼、完成文書の処理を行っています。

予約センター業務は平日14時～16時まで患者さんの診察予約や予約変更業務を行っています。

【平成28年度実績】

診断書作成実績

入院証明書	1,193件	7,449,300円
通院証明書	232件	754,920円
主治医意見書	1,138件	5,054,400円
当院書式診断書	333件	717,520円

【平成28年度の取り組み】

文書業務の効率アップを図るためQCを展開し業務改善に取り組みました。患者サービス向上を掲げ、文書のお預かりからお渡しまでの待ち時間短縮、お問い合わせに対しての時間短縮を目標に取り組みました。

【今後の目標】

患者さんを中心とした医療を提供できる環境作りのサポートをしていくため、また、医師の事務的作業負担を軽減するため、各スタッフがコミュニケーション能力を高めスキルアップを図っていきます。

医療クラーク課 金田智香子

10年の時を経て

医療クラーク課 葛西 淳子

早いもので入職してから10年。

病棟クラーク、フロアマネージャーを経て、現在は内科外来勤務となり奮闘する毎日です。

当初は、はたして私にできるのか…スタッフみんなをまとめられるのかと不安ばかりが先走り完全にマイナス思考に。

しかし、そんな頼りない私になんとかやってこられたのは、一緒に働く仲間の協力があったからだと言え、日々実感し、とても感謝しています。

毎日数多くの患者さんと接していると、厳しいご意見を受けることも少なくありません。

逆に、感謝やお褒めの言葉を頂く事もたくさんあります。

そういった言葉を受けて、喜んだり、気づきがあったり、時に悩むこともあります。

でも、それが自分自身を振り返るきっかけ、力になっていた気がします。

私生活では、趣味の神輿に娘と一緒に参加できた事

が何よりもうれしかったです。

市内のお祭りはもちろん、余市・厚田・赤平など各地を回り、北海道の短い夏を満喫しました。

そろいの半纏に身をつつみ、威勢のいい掛け声の中で担ぐ神輿が大好きで、私の活力になっています。

これからも仕事と趣味、どちらも全力でがんばりたい！



堺町ゆかた風鈴祭り

健康診断課

【スタッフ】

高橋明日美（課長）
 焼田久美子（健康診断係）
 佐々木美里（健康診断係）

【部署の特徴】

小樽市内事業所の企業健診（生活習慣病予防健診含む）をメインに、特定健康診査や人間ドック、小樽市から委託されている大腸がん検診、乳がん検診、子宮がん検診等を行っています。

5月～11月までは月に一度、午前6:30から開始する小樽市民向けの「小樽のけんしん」、8月と3月には特別養護老人ホームへ行き介護職員約200名の腰痛

健診も実施しています。

また当院の職員健診は6月の夜勤者健診、10月の定期健診、採用時健診等を行っております。

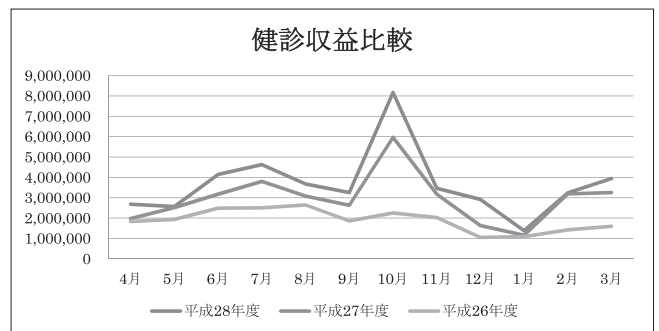
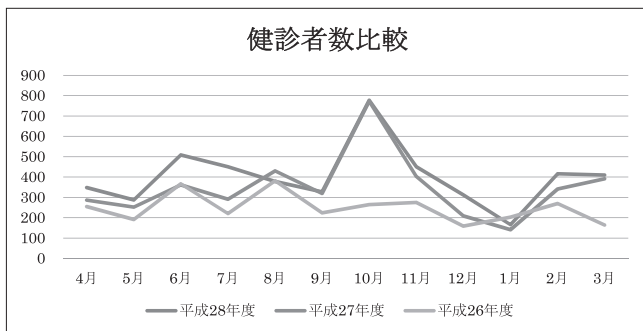
日々の業務は健康診断の予約、事前準備品の発送、当日の受付、身体計測、診察補助、検査へのご案内、健診結果作成、結果票発送、請求業務等です。

健康診断当日は身体計測と診察を健診室で行い、その後の採血・生理検査・放射線検査・内視鏡検査等は内科医師・看護師・検査技師・放射線技師の方々に行って頂いています。

各部署と連携して安心かつスムーズに健康診断を受けて頂けるよう心がけています。

【平成28年度 実績】

	生活習慣病予防健診	特定健診・市民健診	人間ドック	企業健診	一般健診	ちょこっと健診	合計
人数(人)	879	768	84	2,008	625	469	4,833
収益(円)	14,639,416	5,336,004	3,259,642	16,535,948	3,977,841	326,100	44,074,951



【平成28年度の取り組み】

- ・職員定期健診に全国健康保険協会生活習慣病予防健診を導入

35歳以上の職員は全国健康保険協会から助成金ができる生活習慣病予防健診を利用し定期健診を実施しました。35歳未満の方とコースや請求方法が異なるため業務量は増加し大変でしたが、検査項目が増えた事で職員の健康管理に役立てる事が出来れば嬉しく思います。また収益増加にも繋がりました。

- ・済生会事務職員交流制度を利用し済生会宇都宮病院で研修を実施

平成29年2月、健診業務の研修の為、3日間済生会宇都宮病院で学習してきました。

病院規模は大きく異なりますが、参考に出来る点、取り入れたい方法など多くを学ぶことが出来ました。特に予約の時点や発送の時点、結果作成の時点でも何度も何度も確認・再確認を複数人で行っている業務体制には感銘を受けました。実務の中に少しずつ反映させていきたいと思っています。

【今後の目標】

今までは健診者数を増やし収益増加を目標にしましたが、今後は健康診断の質に重点を置いていきます。当院の健康診断は小樽市内では比較的安価なこともあり、企業健診に使って頂く機会が多いのですが「安かろう、悪かろう」では意味がありません。スタッフの健診知識と接遇力の向上、そして結果作成については効率よくスピーディに、正確かつ分かりやすい結果の作成を目指します。業務をマニュアル化し、健診室全体の標準化を図ります。

健康診断課 焼田久美子

地域医療支援課

【概要】

- ・地域の医療機関及び介護福祉施設との連携、医療相談を担当している部門です。

【スタッフ紹介】

阿島 亮 (課長)

- ・社会福祉士 4名
吉田みのり(社会福祉士) 坂井 智美(地域連携係)
佐藤 愛友(社会福祉士) 伝法 俊和(地域連携係)
城野さや香(社会福祉士)
村田 高志(社会福祉士)
- ・事務職員 2名

【業務内容】

他医療機関・施設との連携を図り、当院における入退院の調整と、紹介予約を行っております。また無料・低額診療事業に関する相談、管理等を主な業務としております。

地域での医療連携協議会や研修会等の様々な活動に積極的に参加し地域包括ケアシステム構築に向けて各方面と連携を図っていきます。

【部署の特徴】

社会福祉士と事務職員が相互に業務の連携を行って

2年目を終えて

地域医療支援課 城野さや香

入職し2年がたちました。

1年目は先輩方に指導を受けながら、業務を覚えるのに精一杯でした。

今年度は地域医療支援課の人員が大きく変わり、11月より退院支援加算1も始まりあっという間に1年が過ぎました。

短い期間でも多くのケースに関わり、在宅退院される方、在宅退院が難しく施設入所を選択される方など様々でした。中には家族の希望と患者様の状態が合わず支援に難渋するケースも多々あり、倫理的思考が養われました。その度に自分の知識不足や経験不足を感じジレンマを抱えていましたが、課の皆さんに支えられながら患者・家族に寄り沿った支援が出来ました。

ソーシャルワーカーは何よりも経験を積むことが成長の道だと思っています。しかし、多くのケースを抱えたとしてもそれに伴う知識がなければ意味がないのも事実です。大学でもソーシャルワークの基礎として統合的かつ多面的に利用者の問題を把握することが必要だと学びました。現場では「ソーシャルワーカーは

おります。病床管理業務にも関わっております。

【平成28年度の取り組み】

- 無料・低額診療の基準達成
- 出前健康教室の開催
- 更生保護施設への健診活動
- 相談業務の困難事例についての事例検討会の開催
- 医療連携協議会や各種研修会の参加
- 当院の情報発信

【今後の目標】

本年度4月より退院支援加算2の算定を始め、実績を重ね11月より退院支援加算1を算定開始出来ました。

社会福祉士と病棟看護師が連携し今後も、入退院支援の強化を図ります。

地域の医療機関、介護福祉施設と「顔の見える連携」を目指し、また地域の町内会・学校・職場の勉強会等に出前健康教室、無料・低額診療事業の浸透を図っていくために積極的に営業活動を行って参ります。

地域医療支援課 伝法 俊和

知識の引き出しをたくさん作って、ケースによって当てはめていくのが重要だ」と先輩に教えて頂き、実際のケースでも知識と視野の広さの重要性を日々感じています。来年度は3年目となり社会人としても社会福祉士としても節目の年になると自覚し、より円滑な支援を行えるよう自分の知識やスキル向上に努めていきたいです。

また、診療報酬改定の度に退院支援において社会福祉士の存在が不可欠とされてきています。国で定める地域包括ケアシステムにおいて我々病院で勤務をする社会福祉士や退院調整看護師が医療と介護、地域と病院をつなぐ架け橋になるのだと強く感じています。後方連携もソーシャルワーカーが1名加わり、ソーシャルワーカー4名、退院調整看護師1名の5名体制となりました。今年度より訪問看護も新設され、より地域に密接した支援が行えるようになりました。

当課ソーシャルワーカー、退院調整看護師も自分たちの役割を果たせるよう患者支援を行っていきたく思います。



地域医療支援課 ソーシャルワーカーと

情報システム課

【スタッフ】

大田 隆宏（課長）

井上智香子（情報システム係）

【部署の特徴】

電子カルテ、医事コンピュータ等のシステムの保守、運用とともに、医療情報のデータベースの構築、利用、データ活用の為、アプリケーション作成を行っています。

電子カルテ、医事コンピュータのほかに独自のSQL Serverによるデータベースを構築しているため、データの医療情報以外に救急のデータ、紹介データ等を随時必要なデータを追加してデータを作成できるようになっています。医事データは2010年度から前日までの、2,000万件以上のデータを即時取り出せるよう毎日OLAPへ格納して、Excelで簡単にデータを取得できるようにしています。

また、北海道済生会支部の他施設へのシステム導入支援、VPN等のインフラ設置、サーバー構築、給与システム入れ替えのデータコンバージョンなど当院でできることは積極的にかかわり作業を行っています。

【実績】

平成27年度以前

- ・DWH（データウェアハウス）の構築
- ・勤怠管理システム
- ・医師当番管理システム
- ・保育園管理システム
- ・未収金レポート
- ・日計表レポート
- ・無料低額診療レポート
- ・レセプト関連レポート
- ・退院支援計画管理レポート

平成28年度

- ・看護必要度管理レポート
入力された必要度と医事会計とオーダーと比較できるレポート
- ・医療安全データベース構築
ファントルくんからのデータをインポートして、各種資料を作成
- ・認知症ケア加算レポート

- ・他施設の給与データコンバージョン
- ・他施設のVPN構築
- ・他施設とのSPDシステム統合の為仮想サーバー構築
- ・退職管理システム

当院と他施設向けに済生会本部の退職金を管理するシステムを給与システムと直接連動して管理できるように構築

- ・その他

各種データ提供件数 101件

プログラム作成件数 84件

【平成28年度の取り組み】

BSCを計画する際、情報システム課は顧客を職員として、職員の作業効率を上げるため積極的にITを使い作業時間の短縮を考え、データの提供、プログラムの作成、レポート作成の自動化（毎日、各月に自動でレポートを作成）に取り組みました。

医事課職員がデータ提供に協力していただいていることから、簡単なデータ提供は減っていますが、今年度から管理的なデータ利用が進んだように感じています。

他施設のデータコンバージョン、サーバー構築等、ベンダーに任せず当院で行ったため、導入費用の圧縮ができました。

【今後の目標】

29年度から会計監査が始まり、システムレビューの為の準備、システムレビューに必須になる各システムの監視が必要になります。コンピュータでできることはできるようにして作業効率化を行いたいと考えています。

他施設との医事コンピュータ統合も同時に始まっているため、他施設の支援も同様に行います。

医事関係のレポートは当院で作成したものがほとんどなため、将来ベンダが保守できるよう医事コンピュータのデータベースに開発環境を構築しました。医事コンピュータ内データベースでレポートを作成できるようにコンバージョン作業を行う予定です。

課長 大田 隆宏

入職 1年目。

情報システム課 井上智香子

わたしが入職したのは平成28年度になる約1週間前です。前職は自治体向けシステムのシステムエンジニアをしていました。

前担当者の退職が決まっていた為、4月から約1ヵ月間引継ぎを行いました。電子カルテの操作説明から始まり各機能のマスタメンテナンスなどを教えて頂きました。後半は前担当者について病棟などで作業を行うこともありましたが、今まであまりなじみのない病院という場所での作業はとても緊張しました。約1ヵ月という短い間でしたが丁寧に指導して頂き、とても感謝しています。

前職とは逆にシステムを導入してもらおう立場（ユーザ）となりましたが、情報システム課の仕事というのは職員の方をユーザとしてとらえることができ、そう

いう意味では前職のシステム保守の経験が役立っていると思います。作業を正確に行うことはもちろんですが、職員の要望をきちんと理解すること。また、同じ職員としてより細かな対応ができるように今後も心がけていきたいです。

来年度は会計監査のためのシステムレビューが予定されており、今年度から準備を始めています。課長の指導の下、電子カルテの運用変更の準備や運用に関するドキュメントの整備を行っていますが、マスタのメンテナンス以外の部分でも「システム管理」という仕事を意識するととても良い機会になりました。

医療業界の知識も経験もないわたしが、前担当者の作業を引継ぎやっていたのかと不安になることも多いですが、まわりの人に支えられ充実した1年間を送ることができました。今年度は依頼された作業を行うだけで精一杯という状態でしたが、来年度は回りの状況を把握し作業効率を考えながら作業を行えるようにしたいです。



各委員会・診療チーム

NST委員会

【メンバー】

	H28.6～
Chairman	長谷川 格 医師
Sub Chairman	安達 秀樹 医師
Director	多田 梨保 管理栄養士
Sub Director	中山 祐子 看護師

- ・ 医 師…長谷川 格、安達 秀樹、明石 浩史
- ・ 管理栄養士…多田 梨保、権城 泉、東 紗貴、松村亜貴子
- ・ 看 護 師…中山 祐子、小田原実菜、会津 郁美、小野寺由美、平岩 悠子、小松 紗那、佐々木智美
- ・ 薬 剤 師…鈴木 景就、笠井 一憲、寺嶋 望
- ・ 臨床検査技師…辻田 早苗、逢坂裕美子
- ・ 理学療法士…松村 真満、米田健太郎
- ・ 言語聴覚士…須藤 榮
- ・ 臨床工学室…横道 宏幸、吉田 昌也
- ・ 医 事 課…柴田 幸子

◆日本静脈経腸栄養学会認定医…長谷川 格

◆日本静脈経腸栄養学会TNT研修修了（医師）…明石 浩史、安達 秀樹、高田美喜生、長谷川 格、松谷 学、水越 常德、宮地 敏樹、目良 伸介

◆日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士…東 紗貴、逢坂裕美子、笠井 一憲、権城 泉、鈴木 景就、須藤 榮、多田 梨保、辻田 早苗、中山 祐子

【活動内容】

◆カンファレンス・回診…毎週火曜日（4A・4B・5B）毎週水曜日（3A・3B）14:00～

◆委員会…毎月第4火曜日16:30～

◆勉強会の開催

○小樽Metabolic Club … 毎月第2火曜日18:00～19:00

回数	開催日	内 容	演 者	参加人数
第103回	4月12日	『「腸活のススメ」～あなたの腸はこんなに変わる～』	権城 泉 管理栄養士	37名 院外16名 院内21名
第104回	5月10日	『新人さん必見！！基本の基本SGA・ODAについて学ぼう』	長谷川 格 医師	27名 院外 6名 院内21名
第105回	7月12日	『NSTを知ろう！あなたはNSTのある病院に就職しました』	多田 梨保 管理栄養士 東 紗貴 管理栄養士 笠井 一憲 薬剤師 中山 祐子 看護師 逢坂裕美子 臨床検査技師 須藤 榮 言語聴覚士 松村 真満 理学療法士	18名 院外10名 院内 8名
第106回	8月9日	『違いを知ろう「この人は太ってる？浮腫んでる？」』	安達 秀樹 医師	24名 院外 9名 院内15名

回数	開催日	内容	演者	参加人数
第107回	9月13日	『「画像も患者さんの表情のひとつです」～画像の読み取り方を学ぼう!』	松尾 覚志 放射線技師	16名 院外 2名 院内14名
第108回	10月11日	『施設によってどう違うの?もっと知りたい!介護施設のこと』	城野さや香 社会福祉士	17名 院外 0名 院内17名
第109回	12月13日	『防ごう!誤嚥性肺炎』 演題1.高齢者の嚥下リハ 演題2.高齢者の呼吸療法	須藤 榮 言語聴覚士 米田健太郎 理学療法士	30名 院外12名 院内18名
第110回	2月14日	『JSPEN予演会』 演題:認知症の病型による嚥下機能の特徴 ～当院の嚥下造影検査から	須藤 榮 言語聴覚士	36名 院外27名 院内 9名
第111回	3月14日	『今さら聞けない!輸液の話』	笠井 一憲 薬剤師	15名 院外 7名 院内 8名

○地域連携懇話会…年1回18:30～19:30

回数	開催日	内容	演者	参加人数
第9回	6月24日 (金)	「知って納得!認知症の食事拒否」 演題1. 何が原因なの?食事にまつわるあるある話 演題2. やさしく解説!認知症の実態	中山 祐子 看護師 林 貴士 医師	107名 院外71名 院内36名

◆NST実地修練の受け入れ

開催日	受け入れ職種・人数
10月18日～20日、 10月25日～27日 の計6日間	管理栄養士…1名 薬剤師…2名 臨床検査技師…1名 看護師…1名 の計5名

◆NSTニュース「栄養の架け橋」…No.14 (8月)・No.15 (12月)・No.16 (3月) 発行

【今年度の取り組み】

- ◆2006年に日本静脈経腸栄養学会認定実地修練教育認定施設を取得し、これまで多数の実地修練受け入れを行ってきましたが、昨年度よりこれまでの実地修練カリキュラムを見直し、今年度は他院より5名の受け入れを実施しました。
- ◆通算111回を迎えた小樽Metabolic clubでは、当院の職員のみならず、普段皆が興味や疑問を抱いているテーマを採択し、多方面から参加者を呼び込む趣旨に変更しています。院外から参加する方の人数は前年度合計37名から今年度合計97名へ約3倍増加させることができ、今後もより身近な内容や興味のあるテーマでの開催を目指したいと思います。
- ◆日本栄養療法推進協議会「NST稼働施設」の第二回目更新をし、2016年9月1日～2021年8月31日までの5年間の認定を受けました。

【今後の目標】

- ◆より質の高い栄養療法を提供できるように、NST専門療法士のスキルアップを図ります。また現在当院には理学療法士のNST専門療法士が欠員であるため、新規NST専門療法士の育成にも力を入れたいと考えます。
- ◆病院スタッフ誰もが「この患者さんの栄養状態はどうか」という事に、自然と意識が向くような環境作りを、NSTメンバー全員で力を合わせて取り組んでいきます。尚、「ニュート君」も一緒に目指します。

ニュート君のご紹介



名	前:ニュート君
出身	ニュートリー星
誕生日	12月11日、射手座
趣味	料理、筋トレ
得意科目	栄養学
チャームポイント	頭の星と胸のNマーク
好きな花	なでしこ
メッセージ	皆さんと一緒に栄養療法の重要性について、お勉強したいと思います。よろしくね!!

栄養管理室 権城 泉

院内感染予防対策委員会

【メンバー】

委員長 堀田 浩貴
副委員長 大橋とも子
病院長 和田 卓郎
医師 水越 常德、安達 秀樹
看護部、医療技術部、事務部の部門責任者
透析液安全管理者 笹山 貴司
○ICD 堀田 浩貴、水越 常德
○抗菌化学療法認定医 堀田 浩貴
○抗菌化学療法認定薬剤師 小野 徹
○感染制御認定薬剤師 小野 徹

《ICT（感染対策チーム）》

医師 堀田 浩貴
看護師 澤 裕美
薬剤師 小野 徹
臨床検査技師 木谷 洋介
事務職 神山 拓也

【部署の特徴】

ノロウイルス、インフルエンザなどに代表される院内感染は、感染者に様々な不利益をもたらすばかりではなく、病院そのものにも多大な影響を与えます。過去に生じた大きなアウトブレイクを二度と起こさないように、各部署より選ばれた精鋭の委員からなる委員会は月に一回、開催されております。ただし、院内感染が懸念されるような場合には、直ちに緊急の委員会が招集されます。

定例の委員会では、院内での感染症発生状況、小樽市内での注意すべき感染症、抗菌薬の使用状況、日本や世界のトピックなど幅広い話題について、解説を行っております。院内感染を予防するにあたり必要な対策を講じ、また啓蒙を行うのがこの委員会の大きな使命です。

27年度より札幌医科大学感染制御部より西 朝江 感染管理認定看護師を感染対策指導者として招聘し、レベルアップに貢献して頂いております。

また、各看護部門から1～2名ずつ任命し、「感染対策リンクナース会」を結成し、毎月ICTと合同会議を行っております。合同会議の中で、ICTより感染対策ミニ講習会を行いレベルアップを図り、また具体的な感染対策のプランを説明し、各部門へ周知を行ってまいります。リンクナース会からは現場での感染対策上の問題点がピックアップされ、ICTの感染対策実施に向けたプランニングに大きな貢献を果たしています。

【平成28年度の取り組み】

- 委員会開催
定例 12回 臨時 2回
- 感染研修会
平成28年9月16日（金）
演題名：「結核について」
講師：小樽市保健所 垣本 烈 先生
平成29年3月16日（木）
演題名：「空気感染対策と結核予防」
講師：スリーエムジャパン 担当者様

【今後の目標】

今後もアウトブレイクを起こさない事を第一に流行の兆しを速やかに把握し、早急な対応を取りながら感染制御活動を遂行します。

《ICT（感染対策チーム）》

【活動内容】

- ICTラウンド
院内感染を発生させない安全な環境づくりに努めています。改善すべき点があれば委員会で報告し全部署で情報共有できるよう努めています。
- サーベイランス（感染症調査）
院内の検出菌状況や市内の感染流行などの情報を調査し、院内感染が発生しないよう対策を行っております。また、耐性菌等が検出された場合には電子カルテ上の付箋機能を利用して情報共有を図り早急な対策を取るよう努めています。
- 抗菌薬適正使用の推進
抗菌薬の使用状況を毎朝確認し、認定薬剤師を中心に薬剤師2人で抗菌薬アセスメントを行い、処方提案や用量調整に努めています。
- 地域連携
ICTは院内の活動だけではなく近隣地域との合同院内感染対策カンファレンスを行っております。当チームは札幌医大病院のカンファレンスに参加し、複数の病院と感染対策について協議を行っております。また、講習会にも参加し、新たな知識の習得に努めています。

【今後の目標】

ICTメンバーや感染リンクナースのレベルアップに努め、レベルの高い感染制御と感染症治療支援を行っていきたいと考えています。

薬剤室 主任 小野 徹

医療安全管理対策委員会

【メンバー】

委員長：長谷川 格（医療安全管理責任者）
医療安全管理者：3名
リスクマネージャー：診療部 1名
看護部 8名
医療技術部 6名
事務部 5名
医薬品安全管理責任者 1名
医療機器安全管理責任者 1名

【医療安全講習会について】

- ①開催日：平成28年4月21日(木) 18:00～18:30
講習内容：腓骨神経麻痺を起さないために
講師：済生会小樽病院 整形外科部長
目良 紳介 先生
参加者人数：201名
- ②開催日：平成29年3月24日(金) 18:00～19:00
講習内容：警察からの照会と警察への通報
講師：市立室蘭総合病院 医療安全管理室
医療安全対策監
矢野 健治 先生
参加者人数：230名（外部参加者17名）

【レポート報告件数について】

①報告総数：653件（前年度比 +32%）

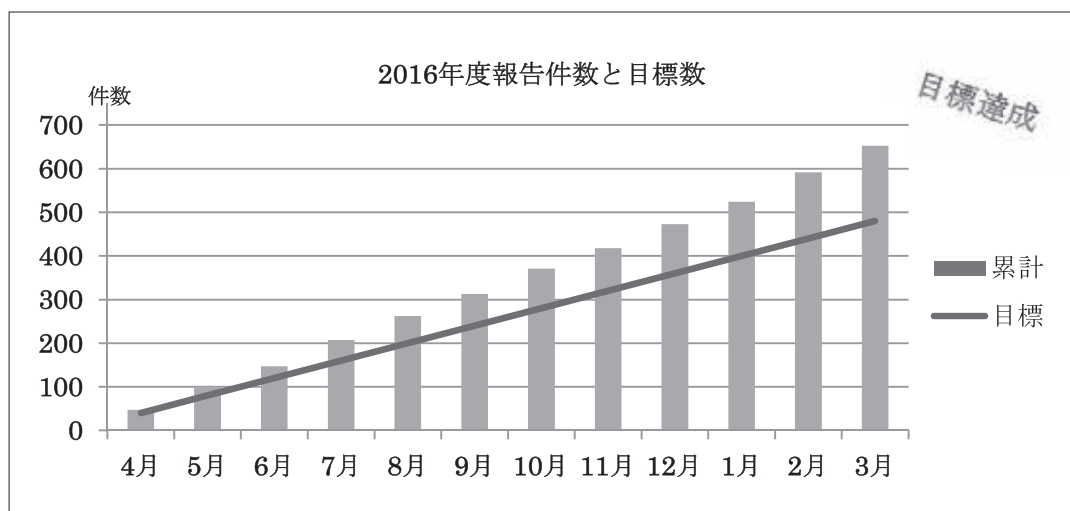
②針刺し事故報告件数：9件（前年度比 +300%）

③ヒヤリハット分類別報告件数（()内は全体に対する割合）

- 1位：転倒：198件（30.3%）
2位：与薬（注射・点滴）：86件（13.2%）
3位：食事と栄養：54件（8.3%）
4位：検査：50件（7.7%）
5位：転落：48件（7.4%）

④目標インシデント報告件数と実績について

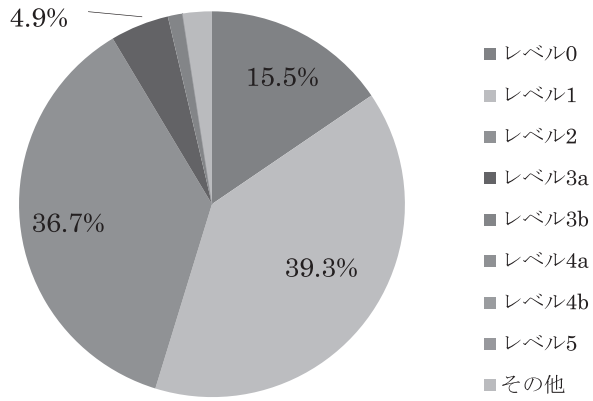
インシデント報告件数を昨年度の+10%とし、年間480件（40件/月）を目標値と設定しました。また、0レポート提出数増加も2016年度目標としました。



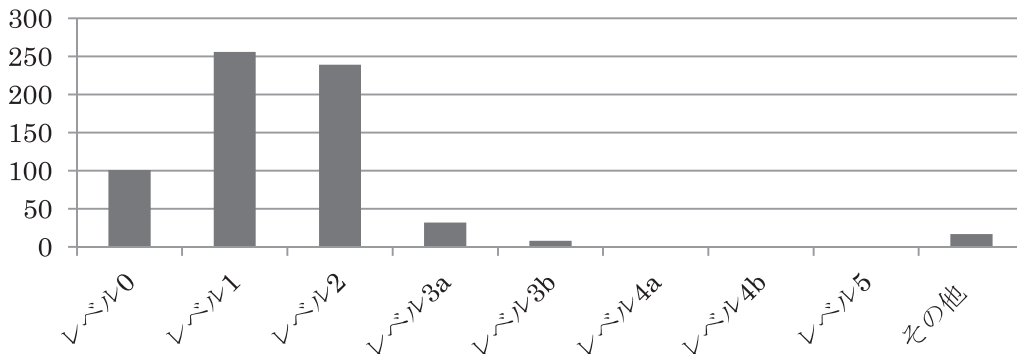
⑤影響度別件数と全報告に対する割合

患者影響度	件数	報告割合
レベル0	10件	15.5%
レベル1	256件	39.3%
レベル2	239件	36.7%
レベル3a	32件	4.9%
レベル3b	8件	1.2%
レベル4a	0件	0.0%
レベル4b	0件	0.0%
レベル5	0件	0.0%
その他	17件	2.5%

影響度別報告割合



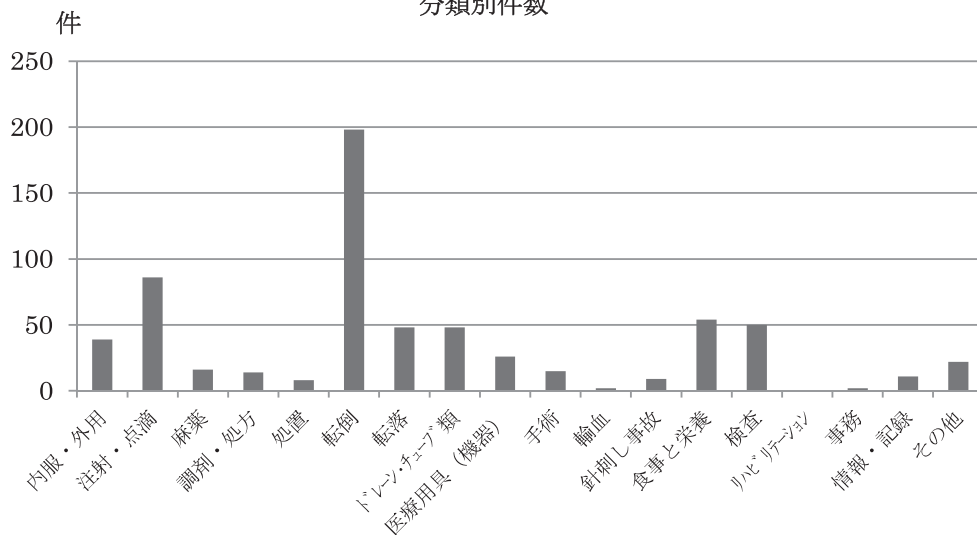
患者影響度別件数



⑥分類別件数と全報告に対する割合

分類	件数	報告割合	分類	件数	報告割合
与薬(内服・外用)	39	6.0%	手術	15	2.3%
与薬(注射・点滴)	86	13.2%	輸血	2	0.3%
与薬(麻薬)	16	2.5%	針刺し事故	9	1.4%
調剤・処方	14	2.1%	食事と栄養	54	8.3%
処置	8	1.2%	検査	50	7.7%
転倒	198	30.3%	リハビリテーション	5	0.8%
転落	48	7.4%	事務	2	0.3%
ドレーン・チューブ類	48	7.4%	情報・記録	11	1.7%
医療用具(機器)	26	4.0%	その他	22	3.4%

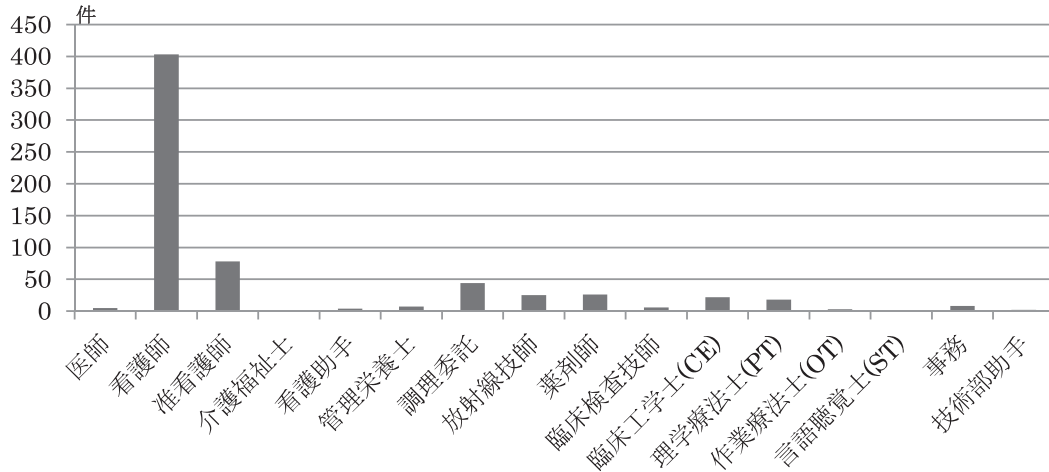
分類別件数



⑦職種別報告件数

職種	医師	看護師	准看護師	介護福祉士	看護助手	管理栄養士	調理委託	診療放射線技師	薬剤師
件数	5件	403件	78件	1件	4件	7件	11件	25件	26件
職種	臨床検査技師	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	技術助手	事務職員	社会福祉士	外部委託
件数	6件	22件	18件	3件	1件	2件	8件	0件	0件

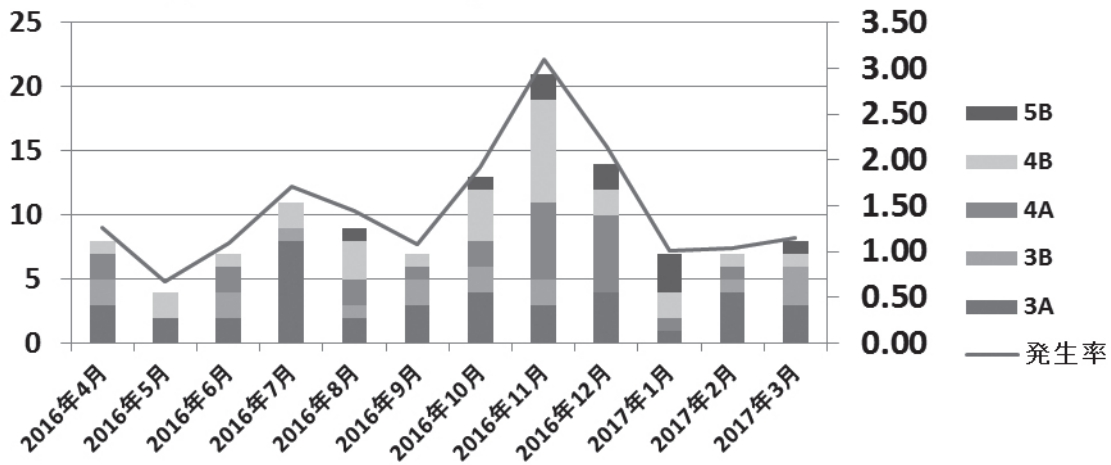
職種別報告件数



【クリニカルインディケータについて】

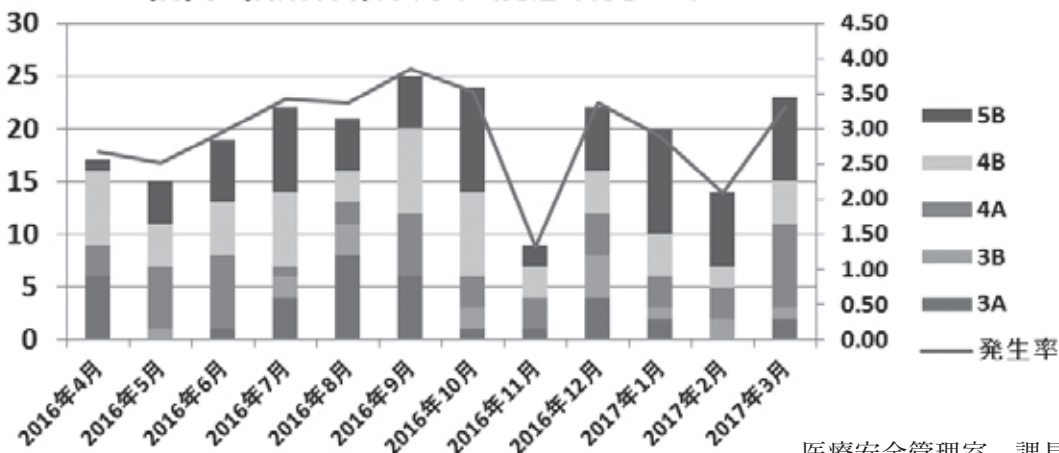
①薬剤関係

薬剤インシデント件数及び入院患者発生率



②転倒・転落関係

転倒・転落件数及び入院患者発生率



褥瘡対策委員会

【メンバー】

委員長：三名木泰彦（整形外科部長）
副委員長：谷川原智恵子（手術室看護課長）
看護部：根布 実穂（皮膚・排泄ケア認定看護師、5 B病棟）、齋藤明日香（3 A病棟）、村山綾香（3 B病棟）、佐藤由紀枝（4 A病棟）、森 靖子（4 B病棟）、若松めぐみ（外来）
医療技術部：一條 周一（臨床検査室）、米田健太郎（リハビリテーション室）、林 知代（リハビリテーション室）、権城 泉（栄養管理室）
事務部：柴田 幸子（医事課事務主任）、田尾 昂介（支部 購買担当）

【活動内容】

入院患者さんにより快適な生活を送っていただくうえで、褥瘡の予防・早期治癒は非常に大切です。褥瘡は一度発生すると完治までに時間を要する病気であり、身体的にも精神的も苦痛が生じます。当院では褥瘡対策の効率的な推進を図るため褥瘡対策委員会を設置しており、以下のような活動を行っております。

1. 毎月第3木曜日に委員会を開催
2. 有褥瘡患者に対し、週1回病棟担当医師が褥瘡回診を実施
3. 体圧分散寝具のへたりチェックを実施

【平成28年度の取り組み】

- ・褥瘡対策セミナーの参加
11月9日に開催された「メディカルケアサポートセミナーin札幌」に参加しました。
- ・体圧分散マットの購入
今年度では新たに10枚の体圧分散マットを購入し、各病棟で現在使用しております。
- ・ベッドサイドレールの購入
新たに15組のベッドサイドレールを購入しました。

【今後の活動予定】

ベッドサイドレールカバーの購入を予定しているほか、ポジショニングについての勉強会の開催を検討しています。

事務局 田尾 昂介

クリニカルパス委員会

【概要】

平成18年よりクリニカルパス部会として発足し、紙カルテ期よりクリニカルパス作成に従事し済生会小樽病院の医療の標準化、患者インフォームドコンセントの充実の支援をしております。平成25年から電子カルテ移行に伴いクリニカルパスも電子化へと移行しております。

【スタッフ】

委員長：目良紳介
 医師：5名
 看護師：11名
 薬剤師：1名、放射線技師：1名、臨床検査技師：1名
 臨床工学技士：1名、理学療法士：2名
 作業療法士：1名、管理栄養士：1名、事務職員：4名

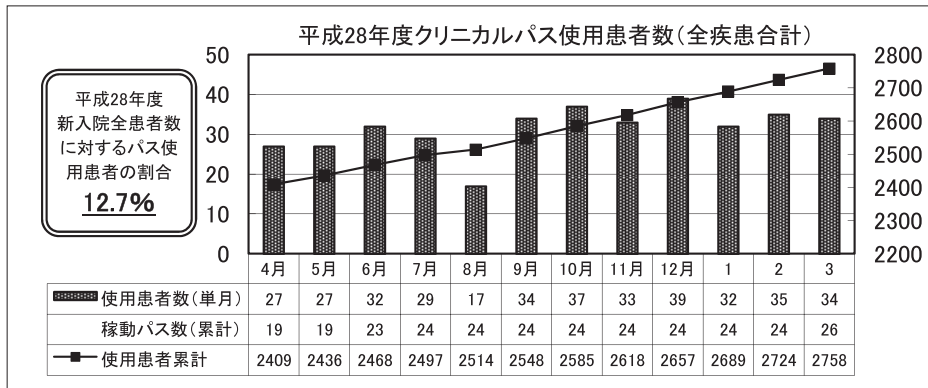
【業務内容】

済生会小樽病院の医療の標準化に向けたツールとしてクリニカルパスの作成、運用方法の検討、クリニカルパスの啓蒙、質の改善（バリエーション分析、ベンチマーキング）、患者インフォームドコンセントの充実などに従事しております。平成25年度よりクリニカルパスの電子化へも従事しております。

【当委員会の特徴】

委員会を5つのチーム（管理運用チーム、分析・改訂チーム、作成支援チーム、新規作成チーム、活動推進チーム、）に編成し、各チーム単位でクリニカルパス活動の検討をしております。

【実績】



稼働クリニカルパス

胃瘻造設術（4種類）、R-CHOP療法、糖尿病教育入院（2種類）、インシュリン導入（2種類）、腹腔鏡視下胆嚢摘出術、鼠径ヘルニア手術、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術、膝関節鏡視下手術、左・右大腿骨近位部骨折、左・右橈骨遠位端骨折、左・右TKAパス、前立腺生検、経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）、ESWL、尿管ステント留置・交換術、GC（ジェムザール+シプラステン）

計24パス

パス大会開催

平成28年10月28日

クリニカルパス研修会 in 小樽

「アウトカム志向のパスを作ろう！－PDCAサイクルを回そう－」

講師：福井総合病院 勝尾 信一 先生

【平成28年度の取り組み】

クリニカルパス使用率向上の為に、稼働クリニカルパスを増やすことへ専念しました。各医療スタッフが協働して活動することで平成27年度16パス稼働であったものが、24パス稼働まで改善されました。まだまだ不足していることに変わりはありませんが、今後も質の高い医療提供に向けクリニカルパス作成に努めていきます。

またパス大会では福井総合病院の勝尾先生にご講演頂き、今後の当院のパスの在り方が見出されました。

【今後の目標】

DPCに向け、新規パス作成、バリエーション分析、ベンチマーキングと質を向上しながら、クリニカルパス使用率向上を目指していきたくと考えております。

リハビリテーション室 技術係長 髭内 紀幸

患者サービス検討委員会

【メンバー】20名

委員長 松江知加子（看護部）
副委員長 武田 和博（事務部）
一 條 周一（医療技術部）
事務局 焼田久美子 館林くるみ（事務部）
看護部
高橋 恵 山本 信 岸本 悦子 吉村由紀子
早川 優貴 藤田真由美 渡辺 詩子 香賀 昭子
医療技術部
小野 徹 一野 勇太 但木 勇太 上野 直也
小屋あす香 及川 尚也 松村亜貴子
事務部
豊川 哲康

【活動内容】

病院利用者のサービスの向上のため月末最終週の火曜日に委員会を開催しています。

- ・全職員を対象に啓蒙活動を行い、済生会小樽病院の資質向上を目指しています。
- ・患者さんからの要望や職員からの提案などを全部署からなる委員で協議し、問題点を洗い出し改善や改革を実行しています。

	活動内容	備考
5月	・接遇標語決定 「気にしていますか 自分の言葉 感じていますか 相手の言葉」	サインージ・ ポスター作製
6月	・院内ロビーコンサート 手稲ウィンドアンサンブル・職員による演奏	1階 ロビー
7月	・新接遇基本マニュアル改訂版完成	
8月	・コインランドリーのかさ上げ改良	全病棟
9月	・接遇投票期間 投票テーマ 「優しい言葉をかけてくれたあなたに1票」 「嬉しかった気遣いをしてくれたあなたに1票」 「見習いたい対応をしていたあなたに1票」 *患者さん、職員に投票案内	9月1日～ 院内掲示 投票箱 10か所設置
10月	・院内ロビーコンサート 末広・北山中学校合同合唱団	
12月	・接遇優良者 表彰式	病院忘年会にて 発表及び表彰
接 遇 表 彰 者	患者投票最優秀者 澤田 涼子さん(4B) 職員投票最優秀者 鏡田 トヨ子さん(外来)	
12月	・年末年始ダイヤに伴う中央バス 乗り入れの案内掲示	
1月	・杖ポンの追加設置	外来ロビー男女トイレ 生埋検査室
2月	・全病室に壁掛け時計設置 ・探尿室に外来基本表入れを設置	男子・女子及び 車イス用探尿室
3月	・ラウンジに電子レンジ設置	4階ラウンジ

昨年までは各協議事項を全体会議で審議をしてきましたが、実行までに時間が掛かるなどスムーズさに欠ける面がありましたので28年度からは効率化を図り、接遇グループ、療養環境グループ、イベントグループ

の3つの活動グループを設け、各グループからの報告や提案を受けてから全体会議で協議するシステムにしました。

接遇グループは新・接遇マニュアルの検討と啓蒙の企画、接遇大賞の企画、電話対応マニュアルを作成しました。

療養環境グループは設備環境の見直しを中心に活動しました。活動成果は全病室の壁掛け時計の設置、杖ポンの増設、トイレの基本表入れの設置、4階ディールームに電子レンジの設置などでした。

イベントグループは6月に手稲ウィンドアンサンブル、10月には末広・北山中学校合同合唱団の院内ロビーコンサートを開催しました。この企画は毎回好評で、感激のあまり涙を流している患者さんも見受けられました。また、病院の忘年会で接遇大賞の表彰を行いました。

3つのグループの活動が密になることで時間が短縮され前年度より若干対応が速くなりました。

【今後の目標】

患者さんから「済生会はいいい病院だよ」と言われるような病院を目指します。そのためには、より良い接遇対応と、癒し・快適さを求めた療養環境の整備を行っていききたいと思います。小さな問題も無視せずに拾い上げみんなで検討しながら改善していききたいと思います。サービス向上には終わりはありません。



副委員長 一 條 周一

広報委員会

【メンバー】 21名 ※平成28年4月時点

委員長 野村 信平（経営企画室）
 副委員長 中山 祐子（看護部）
 事務局 清水 雅成（事務部）
 済生記者 秋元かおり（事務部）
 医療技術部 中村 圭介、高橋 賢規、釜石 明、
 齋藤 生夏、多田 梨保、中村 友洋
 看護部 太田 聖子、大沼貴都美、金田真智子、
 今井 友裕、吉田真知子、佐藤 美穂
 事務部 阿畠 亮、石橋 慶悟、葛西 淳子、
 坂井 智美、伝法 俊和

【活動内容】

広報委員会では当院の様々な広報活動について月1回の委員会を開催し、部門横断的に活動しています。今年度も、様々な広報活動に取り組んで参りました。主な活動は以下の通りです。

【平成28年度の取り組み】

	活動内容	備考
4月	・医療PRグループを新設	
5月	・院外広報紙さいせいおたる30号発行	
8月	・おたるキッズワーク職業体験開催 ・済生会健康セミナー開催(骨粗鬆症シリーズ第1回) 骨粗鬆症「寝たきりを防いで健康に暮らすために～高齢者の骨折予防」	18名参加 85名参加
9月	・健康フェスタin小樽開催【9月25日(日)】 ※特別講演「夢に向かって」(元サッカー日本代表 吉原宏太氏) 講演「スポーツのケガを予防するには」 ・院外広報紙さいせいおたる31号発行	900名超来場
10月	・済生会健康セミナー開催(骨粗鬆症シリーズ第2回) 骨粗鬆症「寝たきりを防いで健康に暮らすために～高齢者の骨折予防」	65名参加
11月	・済生会健康セミナー開催(骨粗鬆症シリーズ第3回) 骨粗鬆症「寝たきりを防いで健康に暮らすために～高齢者の骨折予防」	63名参加
12月	・院外広報紙さいせいおたる32号発行	
3月	・院外広報紙さいせいおたる33号発行	

今年度は当院でトピック的に取り上げたい専門医療等のPR活動を強化する目的から、委員会内の小グループ活動を3グループ体制から新たに「医療PRグループ(伝法グループリーダー)」を加えた4グループ体制への変更を年度始めに行いました。医療PRグループは具体的な活動内容については明確化せず、当該グループ及び委員会でPRしたい内容や広報手段を検討し、迅速に企画・実行を行うこととしました。その結果、「患者用サイネージの積極的活用」、「地域のNPO法人とコラボした職業体験会の開催(新聞社取材)」、「糖尿病チーム医療や乳がん検診のPR活動」等、活動開始後から次々と様々な企画を進めることができました。

また、他の3つの小グループ(広報紙グループ:中村薬剤師リーダー・セミナーグループ:多田リーダー・ホームページグループ:石橋リーダー)に関しても、昨年度に引き続き、各リーダーが精力的にグループをまとめながら、今まで以上に迅速かつ、質の高い成果

を上げるようになりました。その中では、地域住民向けの「済生会健康セミナー」は年間3回実施しましたが、今年度は特に整形外科のPRをクローズアップし3回すべてを「骨粗鬆症」をテーマとしてシリーズ化してセミナーを開催することにより、継続参加した参加者から好評を得ることができました。

【今後の目標】

平成29年度は、「より訴求力のある広報」を目標に、広告媒体の研究や他の業種とのコラボといった新たな企画を進めることにより、昨年度以上に患者さんから選ばれる病院を目指し、様々な広報活動を進めていきたいと思えます。

広報委員長 野村 信平

内分泌・糖尿病診療センター

【メンバー】

センター長：水越 常德

看護部：木藤 絢子、仙保 知子、早川恵美子

医療技術部：青木有希子、東 紗貴、木谷 梨絵、
権城 泉、城田 祐輔、高橋 賢規、
松倉 瑞希、松村亜貴子、三浦富美彦、
村川麻里子

▶糖尿病療養指導士

木藤 絢子、早川恵美子、青木有希子、東 紗貴、
木谷 梨絵、権城 泉、松村亜貴子、三浦富美彦、
村川麻里子

【活動内容】

当センターは医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師で構成しており、他職種で関わることによって様々な視点から糖尿病療養指導を行っています。

主に糖尿病透析予防指導、糖尿病教育入院、フットケア外来、CGM（持続グルコース測定）、インスリン・血糖測定指導を通して、患者さんの生活スタイルに合った療養指導ができるよう、チームで会議やカンファレンス等で意見交換・情報共有をしながら活動しています。

【実績】

糖尿病教育入院 介入件数37件

糖尿病透析予防指導 指導件数 83件

CGM装着・解析 介入件数 66件

フットケア 介入人数 6人

【平成28年度の取り組み】

▶センター会議開催

定例 12回

▶院内勉強会・活動

平成28年6月3日 4A病棟勉強会開催

演題名：『糖尿病教育入院について』

演 者：東 紗貴

▶院外勉強会・活動

平成28年6月12日

第15回ウォークラリー（ボランティア）

参加：水越 常德、早川恵美子、東 紗貴、
木谷 梨絵、権城 泉、松村亜貴子、
村川麻里子

平成28年9月13日

第1回後志臨床糖尿病フォーラム

演題名：『足部感覚障害に対する理学療法のかかわり』

演 者：三浦富美彦

平成28年10月16日

第21回北海道糖尿病看護研究会

演題名：『糖尿病透析予防指導3年間の現状と課題』

演 者：木藤 絢子

平成28年11月13日

糖尿病療養指導カードシステム講習会

参加：権城 泉、三浦富美彦

平成29年3月16日

第3回小樽療養指導研究会

演題名：済生会小樽病院におけるCGM実施状況

演 者：村川麻里子

▶学会活動

平成28年5月19日～5月21日

第59回日本糖尿病学会年次学術集会

参加：木谷 梨絵

平成28年10月30日

第5回くすりと糖尿病学会学術集会

演題名：当院における持続血糖モニタリング(CGM)
実施状況～特殊な3症例供覧～

演 者：村川麻里子

平成28年11月6日

第50回日本糖尿病学会北海道地方会

参加：青木有希子

【今後の目標】

患者さん向けセミナーや出前教室も企画しており、院外・院内の教育活動にも力を入れていきたいと思っています。

糖尿病透析予防指導・教育入院件数の増加を図り、糖尿病自己療養指導の質の向上を目指していきたいです。

薬剤室 青木有希子



緩和ケアチーム

【スタッフ】

	役職・職種	氏名	専門・認定資格
診療部門	内科部長	明石 浩史	がん治療認定医
看護部門	主幹	石渡 明子	緩和ケア認定看護師
	主任	佐野 舞	
	看護師	齋藤 亜妙	
	看護師	藤原 大地	
	看護師	澤田 涼子	
	看護師	本郷 詩織	
薬剤部門	課長	鈴木 景就	緩和薬物療法認定薬剤師
	薬剤師	村川麻里子	
栄養部門	管理栄養士	東 紗貴	
リハビリ部門	理学療法士	西田 衣里	
	作業療法士	齋藤 駿太	
事務部門	医事課 事務課長	阿島 亮	

【活動内容】

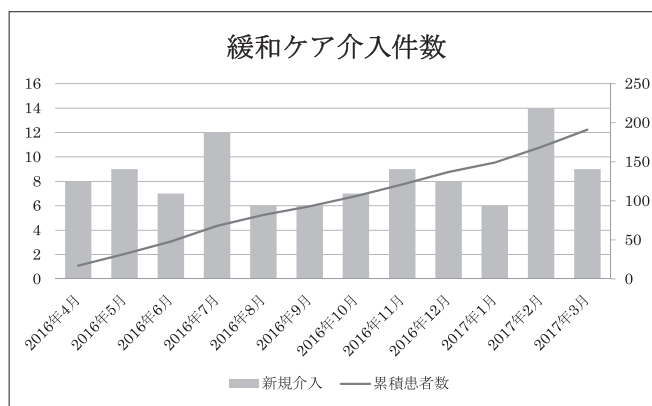
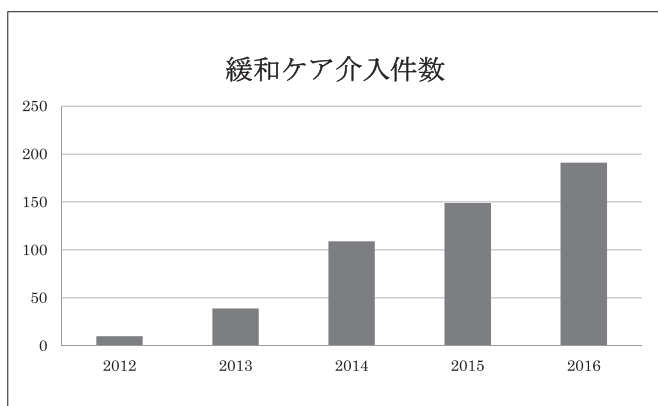
当院の緩和ケアチームは緩和ケア認定看護師1名を中心とし、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、作業療法士、理学療法士、医事課職員など多職種で構成されています。症状緩和のための方法論の学習・実践・普及をそれぞれの職種が行う事を目指しています。また患者・家族に対してQOL向上のためのあらゆるアプローチを行います。そのため、①緩和ケアチーム回

診、②カンファレンスの定期開催、②院内講演会の企画、④マニュアルの整備等を行います。また、在宅支援などについても積極的に実施しています。

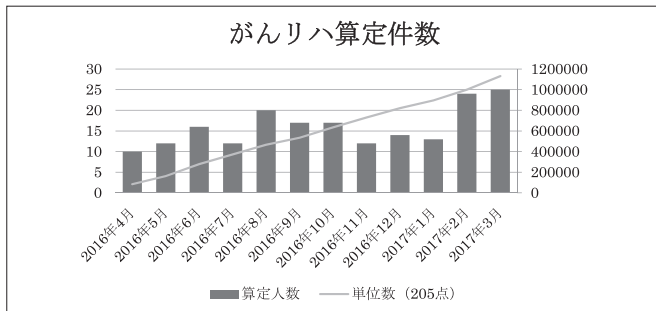
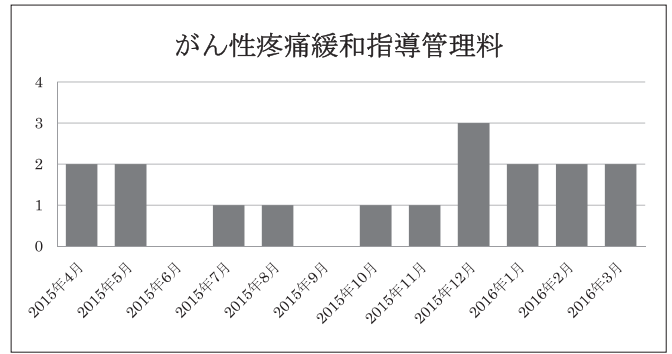
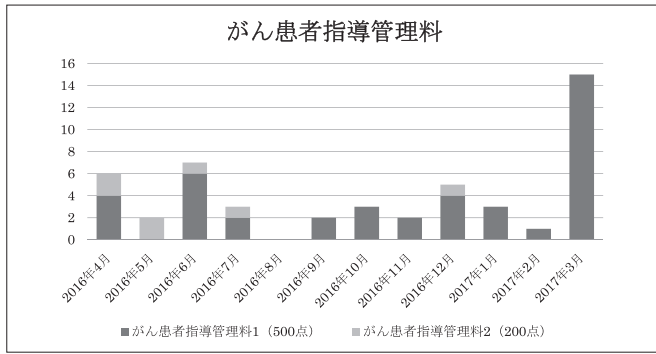
- ① 緩和ケア回診：毎週火曜日 16:00～
- ② 緩和ケアチームカンファレンス：毎週木曜日 13:30～
- ③ 緩和ケア部会開催：毎月第2金曜日 17:30～（全10回開催）

【実績】（患者数・手術件数などは、別項目にて記載します）

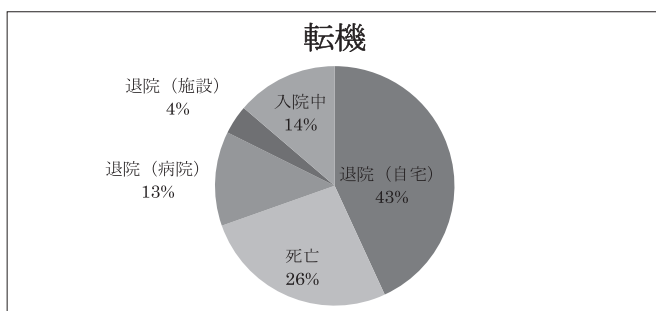
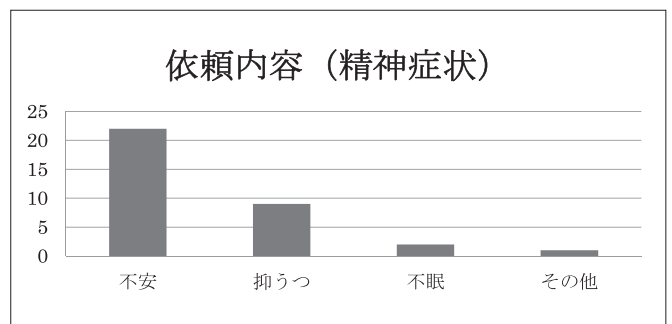
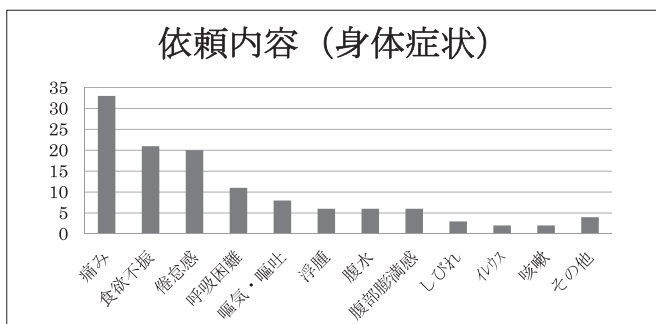
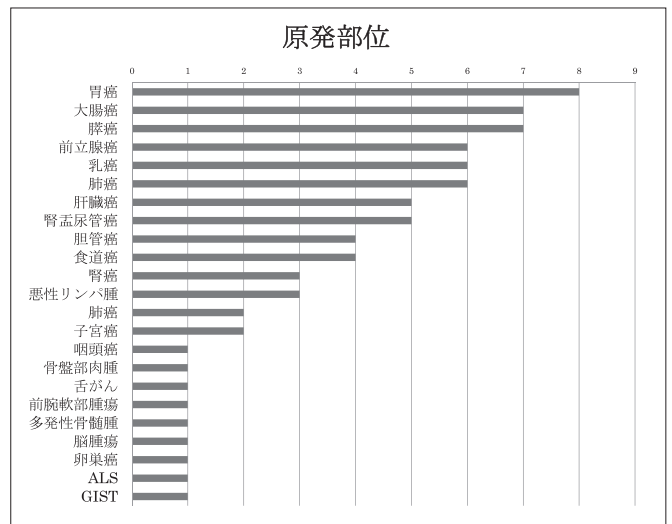
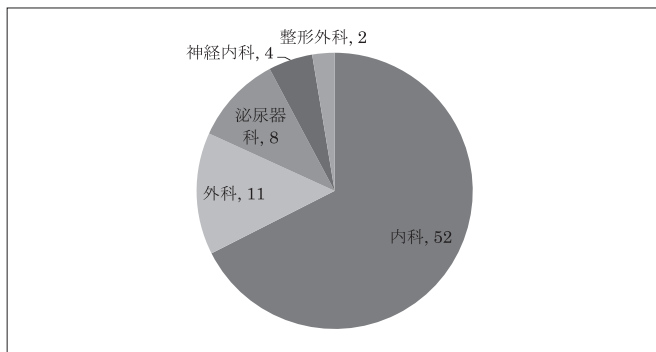
○介入実績



○管理料等実績



○緩和ケア介入事例



○講演会の企画・開催

第1回（5月20日）

演題：神経障害性疼痛に困っていませんか？
 講師：KKR札幌医療センター 瀧川千鶴子先生
 参加人数：102名（院外38名、院内64名）

第2回（10月21日）

演題：切除不能膵癌の化学療法
 講師：札幌医科大学 本谷雅代先生
 参加人数：90名（院外9名、院内81名）

第3回（11月18日）

演題：乳がんについて
 講師：札幌医科大学 島宏 彰先生
 座長：直江クリニック 直江 和彦先生
 参加人数：79名（院外21名、院内58名）

○研究発表

演題名	発表者	学会名	年月日	場所
タペントール使用後にせん妄症状をきたした3例	明石 浩史	第21回日本緩和医療学会学術大会	2016.6.17~18	京都
亜鉛華デンプンによる処置が浸出液コントロールに有効であった3症例	石渡 明子	第21回日本緩和医療学会学術大会	2016.6.17~18	京都
緩和ケアチーム介入による病棟看護師の意識変化と疼痛マネジメントに関する知識調査	藤原 大地	第21回日本緩和医療学会学術大会	2016.6.17~18	京都
済生会小樽病院におけるタペントールの使用経験	鈴木 景就	第10回日本緩和医療学会	2016.6.3~5	浜松
急激な腎機能の低下によりオキシコドン注射薬の用量調節が必要となった2例	柴田麻里子	第10回日本緩和医療学会	2016.6.3~5	浜松
化学療法開始前からの介入でADLが向上し自宅復帰が可能であった症例	西田 衣里	第67回北海道理学療法士学術大会	2016.11.5~6	函館
終末期がん患者に対する緩和ケアチームの関わり	米田健太郎	第69回済生会学会	2017.1.28~30	横浜
治療途中からのアドバンスケアプランニングにより在宅退院、透析中止の意思決定ができた一事例	石渡 明子	第31回日本がん看護学会学術集会	2017.2.4~5	高知

【平成28年度の取り組み】

- ・ 済生会小樽病院ELNEC-Jプログラム開催
 責任者：石渡 明子 受講者：29名
 平成28年7月9~10日
- ・ 出前健康教室の拡大
 望洋台小学校 道徳【いのちの大切さ】について
 講師：石渡 明子
 平成29年1月25日

【今後の目標】

- ・ 地域医療への貢献
 小樽地域は在宅療養の環境が不足しています。小樽、後志地域での質の高い緩和ケアを実践するにあたり、病院側、在宅療養をサポートする側双方に課題があると思います。そのため、自施設の課題をひとつずつクリアするとともに、地域の医療機関との連携を強化、がん患者さんが安心して在宅療養できる環境整備を行い、地域の緩和ケアの質向上に寄与したいと考えています。そのため的手段として、緩和ケアに関する地域の医療機関を交えた講演会の開催を実施していきます。

- ・ 緩和ケア介入患者数の維持
 介入依頼は年々増加しており平成28年度は180件を超えています。質の高い緩和ケアを提供するため、今後も介入依頼があった患者さんを通して実践・指導を行っていきます。
- ・ 研究活動の促進
 チームメンバー各々が自己研鑽を行い、多職種チーム医療における成果を関係学会等に積極的に発表していきたいと思えます。

薬剤室 課長 鈴木 景就

済生会屋根瓦研修

東京ディズニーリゾートでの全国済生会屋根瓦研修推進のためのワークショップに参加して

整形外科 藤本秀太郎

平成28年12月2日から3日にかけて、第7回全国済生会屋根瓦研修推進のためのワークショップに参加させていただきました。屋根瓦（やねがわら）研修とは、先輩は後輩に教え、教えられた後輩はさらにその後輩に教え、というように、屋根のかわらのように積み重なっていく教育法のことです。済生会では後輩への指導を通して、自らも成長し、日々の診療に役立てることを推進しています。この研修は、東京ディズニーリゾートで実際に新人教育に用いられているプログラムを体験することで、人を教えることのノウハウを学ぶことを目的に、北は北海道、南は九州から卒後2～4年目の研修医が総勢18名参加しました。

1日目はディズニーアンバサダーホテルにて新人教育に関する講義と、ディズニーシーにて実際の教育現場を見学させていただきました。講師はディズニーリゾートのスタッフの方でしたが、はきはきとした話し方はもちろん、間の取り方やスライドの見せ方など、

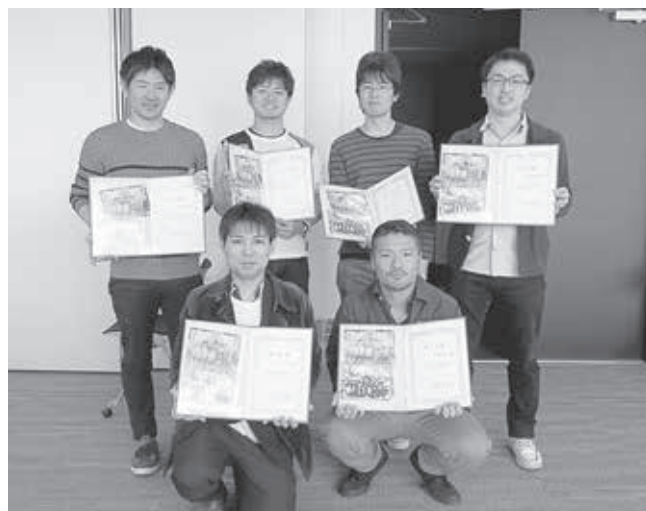
聞いている人の興味を引きつける配慮が随所にされていました。講義の中で、人に何かを教える際に、1. 手順を伝え、2. 手順を行う際にポイントとなることを伝え、3. それをする意味を伝えるという内容がありました。私自身も後輩や学生にものを伝えるとき、肝心なことを言い忘れたり、あるいは色々言い過ぎて相手に伝わっていないことがあると思い、早速実践しようと感じました。

2日目は前日に学んだことをもとに、人を育てるには何が必要かというテーマに関してグループワークを行いました。普段自分たちしていること（CVカテの挿入など）を、新人に教えるという想定で教え方について考えました。ここでは普段何気なくしていることを言葉にすることや、要点を絞ることの難しさを実感しました。

研修は2日間という短いものでしたが、内容の濃い、有意義な研修をさせていただきました。さらに全国から集まった同年代の研修医と意見を交わし、交流を持ったこともいい経験となりました。このような機会を与えてくださり、誠にありがとうございました。今回の経験を今後の診療、後進教育に活かしていきたいと思えます。



1日目 講義資料



修了証授与後 同年代の研修医と
(2列目1番右が筆者)

地域研修

当院は、初期臨床研修医の地域研修協力施設として受け入れしています。

所属病院	期 間	受入人数
山形済生病院	5月8日～31日	1名
	6月1日～29日	1名
	8月2日～26日	1名
	9月1日～30日	1名
大阪府済生会吹田病院	7月19日～29日	1名
	8月15日～26日	1名



認定看護管理者教育課程セカンドレベル教育課程

認定看護管理者教育課程セカンドレベル教育課程に参加して

看護部 3A病棟 浅田 孝章

平成28年7月1日～8月16日の期間で、認定看護管理者セカンドレベル教育課程を受講してきました。研修では、看護管理についての知識を深め、今後の課題が明確になりました。また、道内各地から研修に参加した、同じ志を持つ仲間と知り合い、素晴らしい人脈ができました。長期間、職場を離れ、自分の勉強のために時間を使わせていただける環境に感謝致します。

今回の研修で明らかになった、自部署のスタッフの動機づけの現状と課題や転倒・転落防止に向けた安全管理教育の課題を改善していきたいと思います。

スタッフへの動機づけは、管理職がスタッフの成長段階を見極めて、その段階に応じた支援をし、権限移譲をしていくことで、自立したスタッフを育成することができます。管理職が自立したスタッフを育てるリーダーシップを発揮し、スタッフが自律し主体的に

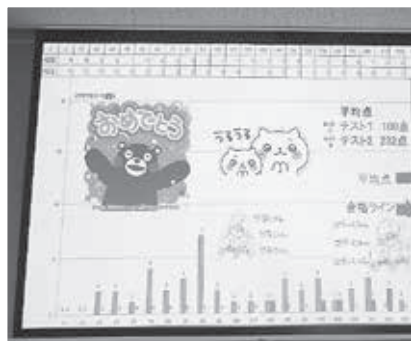
取り組めれば、やらされ感はなくなり、その行為からやりがいを持つことができると考えます。そうしていくことで、スタッフが看護業務に自主的に関わっていくことが出来ると考えます。転倒・転落防止に向けた安全管理教育については、研修で学んだ組織分析をしっかりと行い、次年度の戦略目標に反映させていきたいと思います。

組織を存続させるためには、環境の変化により顧客の組織に対する要望や期待は変化するため、組織はそれに応え顧客満足を獲得する努力をする必要があります。そして、この努力を怠ると組織は存続することができなくなります。また、組織を存続させ続けるためには、今の顧客だけでなく未来の組織の顧客のニーズに応える必要があります。未来に対する準備には時間と資金が必要なため、現在の組織で利益を出し、未来に投資する必要があります。そのためには、未来の顧客満足を獲得するための準備として、地域包括ケアシステムの構築と入院基本料7対1の算定要件である平均在院日数の安定化を図り、診療報酬に反映し財源の確保、黒字経営をしていくことが重要となります。

今回の研修で学んだ事を活かして、病院経営に貢献できるように研鑽していきたいと思います。



北海道看護協会



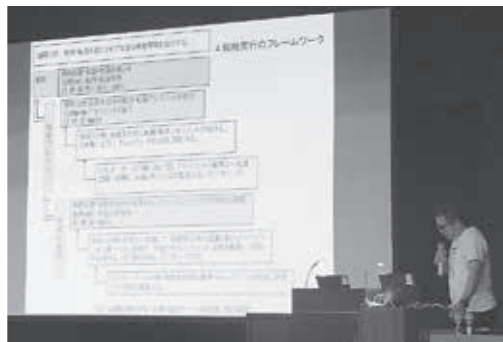
テスト結果



研修会場



グループ発表



個人発表

認定看護管理者セカンドレベル教育課程に参加して

看護部 3B病棟 伊藤 瑞代

平成28年10月28日～12月13日の期間、北海道看護協会セカンドレベル教育課程に参加させて頂きました。長期間にわたり坐学で講義を受ける事は、本当に久しぶり（ファーストレベルから6年経過!?）です。眠気に勝てるのか、又レポート提出や実践計画作成など、この錆びついた頭についていけるのかと不安だけでしたが… 楽しかったのです!!

新しい知識を学ぶ事は勿論、看護とは何ぞや? 管理とはどういう事ぞ?と普段仕事をしていてとことん考えなかった事を考える、受講者と意見交換することなど毎日が刺激的であり、得られたことが沢山ありました。

道内各地から40名程の看護管理者が集まっているのですから、多くの仲間を得た事も収穫の一つで、最終日はお別れするのが辛い程仲良くなった仲間もあり、もう少しこのまま看護協会に通いたいと感じる程でした。

そしてもう一つ、会場では翌日のお昼のお弁当の注文を受け付けていました。私は毎日違う種類のお弁当を注文して、全種類を制覇するという、研修とは全く関係ない目標も立てましたが、結果からすると、嫌いなものもあったため、実食したのは20種類程に留まってしまい、これは今でも心残りの一つです。（あくまでも、勉強する為に行っていましたよ!）

何はともあれ今回学んできた事を済生会小樽病院の現場で活かすべく、錆びた頭ではありますが頑張ろうと思っています! 難しい話は浅田課長に任せての御報告でした。



こんなお題のレポート…に苦しむ!

認知症支援ナース育成研修

認知症支援ナース育成研修に参加して

看護部 3B病棟 岸本 悦子

済生会本部にて第1回認知症支援ナース育成研修（平成28年7月28日～7月29日）に参加しました。認知症看護を理解し認知症看護の推進役となる認知症支援ナースを育成する目的で開催されました。済生会理事長炭谷茂氏による2025年問題と済生会の役割についての講話。当院副診療部長神経内科松谷学医師による認知症の原因疾患と病態・治療、認知症の行動・心理症状（BPSD）の対応とせん妄の予防と対策という内容の冗舌で聞いている方々を引き付けるユーモアあふれる講義や老人看護専門看護師や認知症看護認定看護師による看護に必要なアセスメントと援助技術、コミュニケーション方法、療養環境調整方法、認知症特有な倫理的課題と意思決定支援についての講義と事例を用いた演技力抜群でゆかいなロールプレイの演習を行い充実した2日間でした。

平成28年10月より副診療部長神経内科松谷医師や大橋看護部長、研修終了者の各病棟リンクナースを中心に認知症ケア委員会が発足され、認知症ケア加算2の取得に向けて認知症ケアに関する手順書の作成に取り組みました。その後平成29年1月より認知症ケア加算2を取得できることになりました。現在では、研修会グループ、レクレーショングループ、マニュアルグループに分かれて活動を行い月に1回委員会で報告や事例検討会を開催し活動の場を拡大しています。

今後は世界が初めて経験する超高齢化社会となり、2025年（平成37年）にはベビーブーム世代が全て後期高齢者（75歳以上）になり高齢者人口は3600万人以上（総人口に占める割合30.3%）認知症高齢者は約700万人（約5人に1人）が認知症高齢者と増大していきます。高齢者が入院する施設の役割は、高齢者では急性期の医療やケアの質がその後の患者の経過や患者の家族の人生を大きく変えてしまいます。そのため迅速なアセスメントによる初期治療→早期治療→機能低下予防・生活機能維持するために取り組んでいきたいと思っています。

アドバンス・マネジメント研修Ⅰ

アドバンス・マネジメント研修Ⅰに参加して

看護部 3A病棟 佐野 舞

アドバンス・マネジメント研修とは、次世代の看護管理者としての役割を担う中堅看護師が、自己の役割を明らかにし輝きながら元気に働いていけることを目指した研修です。研修場所は、東京の済生会本部で3日間に渡ってプログラムが組み立てられ、全国各地の済生会施設より約60名の受講者が集まり一緒に研修を受けました。

研修では、普段関わることができない済生会炭谷理事長や大学教授などの貴重な講義を受け、グループ分

けされたメンバーとグループワークを行いながら学びを深めていきました。初めは、緊張しながら意見を出し合っていました。同じ済生会人として職場の現状や境遇に共感する部分も多く、すぐに打ち解け各地方の方言で意見が飛び交い、和やかな雰囲気です研修を受けることができました。

3日間の研修は、現場から離れ自己の役割を考えると共に、仕事に対するモチベーションを上げる内容であり、この研修に参加できることが恵まれていると実感しました。

また、他の済生会の方との交流や研修以外の時間で東京観光もし、心のリフレッシュができて新たな気持ちで頑張っていこうと思いました。

事務職員交流制度

病院で働くソーシャルワーカーとは ～平成28年上期 事務職員交流制度に参加して～

地域医療支援課 ソーシャルワーカー 村田 高志

入職3か月目の新人ソーシャルワーカーでしたが、事務職員交流制度において平成28年9月6日、9月7日済生会吹田病院の研修に参加させていただきました。研修テーマは「病院で働くソーシャルワーカーとは」です。

吹田病院の地域医療支援部門は、前方連携「地域医療センター」、後方連携「福祉医療支援室」、病床調整「入退院在宅支援調整室」の三部署で構成され、役割分担が明確でスムーズな連携がとれていました。

その中でソーシャルワーカーは、後方連携「福祉医療支援室」に所属し、社会福祉士有資格者13名体制で、退院支援と無料低額診療事業を中心とした業務を担っておりました。退院支援においては、入職1年目のソーシャルワーカーは相談窓口を担当し、社会福祉の立場から幅広い生活相談を実施、2年目以降から担当患者

さんを持ち、面談などの経験を積んでいくという育成方法をとっており、経験豊富なベテランソーシャルワーカーは、患者さんやご家族との面談において、その人らしい生活を送れるように支援されていました。一方、無料低額診療事業においては、年金が少ない、失業した、借金がある、預貯金が殆ど無いなどの経済的な悩みを丁寧に聞き取ることが大切にされて、業務に取り組まれていました。

退院支援においても無料低額診療事業においてもソーシャルワーカーの姿勢として共通していることは、患者さんやご家族の話を丁寧に傾聴し支援していくということ。病院で働くソーシャルワーカーとは、患者さんやご家族の心の声を感じ取ることが重要だと、今回の研修で学ばさせていただきました。

最後に、患者さんやご家族の人生に関わる仕事を行っている病院のソーシャルワーカーは、その重さゆえに入職1年、2年で、その多くがバーンアウトし退職している現実もあります。プレッシャーは大きく、厳しい現場と向き合いながら、今日もソーシャルワーカーは、働いています。



論文発表

執筆者・共同執筆者	タイトル	掲載誌	巻・号・項	発行年月
和田 卓郎	テニス肘（上腕骨外側上顆炎）に対する治療方針	日本医事新報	No.4809:55-56	H28.6
和田 卓郎	母指CM関節症の保存的治療と手術的治療 (質疑応答：プロからプロへ)	日本医事新報	No.4820:57-58	H28
和田 卓郎・織田 崇	肘関節鏡手術	日医雑誌	145(10):2138-2139	H29.1
和田 卓郎・織田 崇・高嶋 和磨	Wide awake surgery手技の実際 (特集 上肢の麻酔 最近の進歩)	整・災外	60(2月号):171-175	H29.2
水越 常德	甲状腺、上皮小体、副腎の外科 甲状腺・副甲状腺の内科的治療 パセドウ病ヨード併用療法	北海道外科雑誌	61 24-28	H28
織田 崇・和田 卓郎・高嶋 和磨	高齢者の手根管症候群に対する母指対立再建の短期成績	日手会誌	33:97-99	H28
織田 崇・和田 卓郎	手関節のバイオメカニクス	関節外科	35:86-93	H28
織田 崇・和田 卓郎	上腕骨内側上顆炎-診断・治療における関節鏡の対応と限界	J MIOS	81:39-44	H28
福良 薫・久賀久美子・笹尾あゆみ・関口 史絵・大津山優葵・浅田 孝章・大橋とも子	看護師のアセスメント能力向上に向けた院内研修の取り組み ：アクションリサーチ法を用いた院内研修の有用性 (2016)	北海道科学大学研究紀要	41 47-54	Sep-16

著 書

著者	タイトル	著書名	編者	ページ	発行年	出版社
和田 卓郎	Dupuytren拘縮	今日の整形外科治療指針第7版	松田秀一	525-526	H28	医学書院
和田 卓郎	リウマチ手指変形	今日の整形外科治療指針第7版	松田秀一	526-527	H28	医学書院
和田 卓郎	傍骨性軟骨腫	今日の整形外科治療指針第7版	松田秀一	534	H28	医学書院
和田 卓郎	肘関節 手術治療	整形外科専攻ハンドブック	山下敏彦	134-138	H28	中外医学社
和田 卓郎	スポーツ障害 野球肘	整形外科研修ノート第2版	齋藤知行他	476-477	H28	診断と治療社
和田 卓郎	スポーツ障害 テニス肘	整形外科研修ノート第2版	齋藤知行他	477-478	H28	診断と治療社
織田 崇	TFCC損傷. 第2章運動器疾患.	PT・OTのための画像のみかた	山下 敏彦	135-137	H28	金原出版
織田 崇	橈骨遠位端骨折. 第2章運動器疾患	PT・OTのための画像のみかた	山下 敏彦	147-150	H28	金原出版
織田 崇	絞扼性神経障害. 3肘関節.	整形外科専攻ハンドブック	山下 敏彦	130-131	H28	中外医学社
織田 崇	保存的治療. 3肘関節	整形外科専攻ハンドブック	山下 敏彦	132-133	H28	中外医学社
織田 崇	解剖. 4手関節.	整形外科専攻ハンドブック	山下 敏彦	139-141	H28	中外医学社
織田 崇	診察法. 4手・手関節.	整形外科専攻ハンドブック	山下 敏彦	142-147	H28	中外医学社
織田 崇	三角線維軟骨複合体損傷. 4手・手関節.	整形外科専攻ハンドブック	山下 敏彦	148-149	H28	中外医学社
織田 崇	手関節. 手術治療 4手・手関節.	整形外科専攻ハンドブック	山下 敏彦	187-192	H28	中外医学社
三崎 一彦	クリニカル・クラークシップ	作業で結ぶマネジメント	澤田 辰徳	28-29	H28	医学書院
三崎 一彦	クリニカル・クラークシップを活用した卒後教育	作業で結ぶマネジメント	澤田 辰徳	128-129	H28	医学書院
三崎 一彦	作業を大切に作る職場を作る	作業で結ぶマネジメント	澤田 辰徳	132-133	H28	医学書院
多田 梨保	あんかけ薬膳焼きそばについて	薬膳市場データブック2016 国内薬膳市場に関する調査概況	藤村頭太郎	154	H28	株式会社美容経済新聞社

学会・研究発表

演題名	発表者	共同発表者	学会名	発表年月日	場所（市町村）
脊椎・腰痛センターにおける臨床心理士の役割	三名木泰彦	竹内 恵・髭内 紀幸・花田 健・辻永 由紀・早川 晃子	第45回日本脊椎脊髄学会	H28.4.14	千葉県千葉市
70歳以上の手根管症候群に対する一期的母指対立再建術の短期治療成績	織田 崇	和田 卓郎・高嶋 和磨・近藤 真章	第59回日本手外科学会	H28.4.21	広島県広島市
橈骨遠位端骨折受傷例の骨粗鬆症治療の現況	織田 崇	和田 卓郎・目良 紳介・三名木泰彦・近藤 真章	第59回日本手外科学会	H28.4.22	広島県広島市
肘関節鏡のコツとピットフォール	和田 卓郎	織田 崇	第59回日本手外科学会	H28.4.21	広島県広島市
Arthroscopy LAT Epicondylitis	和田 卓郎	—	第13回国際肩肘外科学会	H28.5.17	韓国（済州島）
外側・内側上顆炎に対する鏡視下手術	和田 卓郎	織田 崇・阿久津祐子・大木 豪介・山下 俊彦	第89回日本整形外科学会	H28.5.13	神奈川県横浜市
鏡視下テニス肘治療	和田 卓郎	織田 崇・佐々木浩一・大木 豪介・山下 俊彦	第89回日本整形外科学会	H28.5.13	神奈川県横浜市
脊椎・腰痛センターにおける臨床心理士の役割	三名木泰彦	髭内 紀幸・花田 健・辻永 由紀・早川 晃子	第89回日本整形外科学会	H28.5.14	神奈川県横浜市
無症候性SLAC wristにより手根管症候群し深指屈筋腱皮下断裂を発症した1例	上嶋 聡志	藤本秀太郎・織田 崇・目良 紳介・三名木泰彦・和田 卓郎・近藤 真章	第131回北海道整形災害外科学会	H28.6.4	北海道函館市
タベンタドール使用後にせん妄症状をきたした3例	明石 浩史	鈴木 景就・石渡 明子・木谷 友洋・柴田麻里子・藤原 大地・佐野 舞・佐藤由紀枝・長谷川 格	第21回日本緩和医療学会	H28.6.17	京都府京都市
Management of extraarticular malunion	和田 卓郎	—	FESSH2016 (欧州外科学会)	H28.6.22	スペイン サンタンデール
亜鉛華デンプンによる処置が浸出液コントロールに有効であった3症例	石渡 明子	明石 浩史・鈴木 景就・孫 誠一・田山 誠・島 宏彰・前田 豪樹・長谷川 格	第21回日本緩和医療学会	H28.6.17	京都府京都市
緩和ケアチーム介入による病棟看護師の意識変化と疼痛マネジメントに関する知識調査	藤原 大地	石渡 明子・鈴木 景就・佐藤由紀枝・明石 浩史	第21回日本緩和医療学会	H28.6.17	京都府京都市
当院におけるタベンタドールの使用経験	鈴木 景就	明石 浩史・石渡 明子・柴田麻里子・木谷 友洋・長谷川 格	第10回日本緩和医療薬学会	H28.6.4	静岡県浜松市
急激な腎機能の低下によりオキシコドン注射薬の用量調整が必要となった2例	柴田麻里子	鈴木 景就・明石 浩史・石渡 明子	第10回日本緩和医療薬学会	H28.6.4	静岡県浜松市
自己効力間の向上が疼痛コントロールに寄与した慢性痛患者の1例	辻永 由紀	三名木泰彦・髭内 紀幸・早川 晃子	第131回北海道整形災害外科学会	H28.6.4	北海道函館市
下肢義肢患者に免荷トレッドミルトレーラングを行った1例	花田 健	三名木泰彦・髭内 紀幸	第131回北海道整形災害外科学会	H28.6.4	北海道函館市
役割活動を通して活動的な生活習慣の構築を図った症例	高波 実佳	土橋 大基・三崎 一彦	第47回北海道作業療法学会	H28.6.5	北海道札幌市
地域住民の健康づくりと地域資源を融合させたオリジナル減塩メニューの取組みについて	権城 泉	多田 梨保・東 紗貴・松村亜貴子	第15回北海道病院学会	H28.7.16	北海道札幌市
小樽市における橈骨遠位端骨折治療	織田 崇	藤本秀太郎・上嶋 聡志・目良 紳介・三名木泰彦・和田 卓郎・近藤 真章	第29回日本整形外科学会学術集会	H28.7.18	北海道札幌市
なるほど男子思春期教室	堀田 浩貴	—	第49回北海道保健サークル研究大会	H28.8.4	北海道ニセコ町
当院における結石製腎盂炎症例の検討	堀田 浩貴	—	第3回SMU Urology Forum	H28.8.20	札幌市

演題名	発表者	共同発表者	学会名	発表年月日	場所（市町村）
当院透析症例の検討 －他院紹介入院症例を中心に－	堀田 浩貴	—	第82回小樽市医師会 会会員研究発表会	H29.9.9	小樽市
Truncal lateropulsionを主徴 とした延髄外側梗塞の1例	越智龍太郎	津田 玲子・林 貴士・ 松谷 学 俊 (札幌大)	第99回日本神経学 会北海道地方会	H28.9.10	札幌市
アスリートに発生した化膿性恥 骨結合炎に対する治療と理学療 法	藤本秀太郎	舘田 健児・大西 史師・ 加谷 光規 智・山下 敏彦 (以上 札幌大)	第65回東日本整形 災害外科学会	H28.9.22	神奈川県箱根町
膀胱穿孔を繰り返した膀胱癌患 者の1例	安達 秀樹	堀田 浩貴	第399回日本泌尿 器科学会北海道地 方会	H28.9.24	旭川市
Difficult Wound Coverage of the hand fingers Using Pedicled Flaps with Refined Strategies	和田 卓郎	—	第71回米国手外科 学会	H28.9.30	米国 オースチン
実習ノートのテキストマイニン グにより情意領域の変化を捉え る試み	三崎 一彦	高橋 靖明・白井美奈子	第50回日本作業療 法学会	H28.9.9	北海道札幌市
小樽市における高次脳機能障害 支援体制構築に必要な因子	白井美奈子	三崎 一彦	第50回日本作業療 法学会	H28.9.9	北海道札幌市
当院でのがんの作業療法に対す る取り組み	林 知代	山中 佑香・明石 浩史	第50回日本作業療 法学会	H28.9.9	北海道札幌市
当院における橈骨遠位端骨折術 後のMALの有用性	山中 佑香	小屋あすか・織田 崇	第50回日本作業療 法学会	H28.9.9	北海道札幌市
小・中学生野球選手における Functional Movement Screen の学年間比較	齊藤 生夏	織田 崇・池田 桃子・ 四十坊麻由 浅香 翔梧・戸田 創・ 野村 勇輝 (札幌大) 他札幌大医師	第42回日本整形外 科スポーツ医学会 学術集会	H28.9.16	北海道札幌市
橈骨遠位端骨折受傷の骨粗鬆治 療の現況	織田 崇	和田 卓郎・近藤 真章 石垣 大介・石井 政次・ 濱崎 允 (以上3名山形 済生病院)	第18回日本骨粗鬆 学会	H28.10.6	宮城県仙台市
膀胱穿孔を繰り返した膀胱癌患 者の1例	安達 秀樹	堀田 浩貴	第81回日本泌尿器 科学会 東部総会	H28.10.8	青森県青森市
50秒および90秒注入による門 脈相造影CTにおける造影効果 の比較検討	内藤 格	—	平成28年度 一般 社団法人北海道放射 線技師会(小樽後志) 秋季会員研究発表会 (連番388回)	H28.10.15	小樽市
Dual coil撮像におけるcoil配置 とSNRの関係	小林 洸貴	—	平成28年度 一般 社団法人北海道放射 線技師会(小樽後志) 秋季会員研究発表会 (連番388回)	H28.10.15	小樽市
糖尿病透析予防指導3年目の現 状と課題	木藤 絢子	—	第21回北海道糖尿 病看護研究会	H28.10.16	札幌市
肩峰-上腕骨頭間距離に着目し 経過観察した腱板修復術後の1 例	下山 桃子	髭内 紀幸・野村 勇輝・ 戸田 創・織田 崇・ 廣瀬 聡明	第13回肩の運動機 能研究会	H28.10.22	広島県広島市
59/3132日でドクターショッピ ングを止められるか－492kmの 距離を越えて－	髭内 紀幸	花田 健	第2回国際統合リ ハビリテーション 学術大会	H28.10.29	東京都台東区
済生会小樽病院における持続血 糖モニタリング (CGM) の実 施状況～特殊な3症例供覧	柴田麻里子	水越 常德・青木有希子・ 木谷 梨絵・上野 誠子・ 鈴木 景就・ 小野 徹・早川恵美子	第5回くすりと糖 尿病学会学術集会	H28.10.30	兵庫県神戸市
生前診断に苦慮した甲状腺未分 化癌の一部検例～未分化転化の 検討について	水越 常德	田中 道寛・明石 浩史・ 宮地 敏樹・舛谷 治郎・ 高田美喜生 笠井 潔 (小樽市立病院)	第59回日本甲状腺 学会	H28.11.4	東京都港区

演題名	発表者	共同発表者	学会名	発表年月日	場所(市町村)
重篤な肝障害を来した神経性食思不振症の1例	水越 常德	田中 道寛・明石 浩史・宮地 敏樹・舩谷 治郎	第16回日本内分泌学会北海道地方会	H28.11.6	札幌市
2型呼吸不全患者に対するネーサルハイフロー療法とリハビリテーションの関係	富樫 優樹	米田健太郎・髭内 朝美・高田美喜生	第67回北海道理学療法士学会	H28.11.6	北海道函館市
化学療法開始前からの介入で、ADLが向上し自宅復帰が可能であった症例	西田 衣里	米田健太郎・髭内 紀幸・石渡 明子・明石 浩史	第67回北海道理学療法士学会	H28.11.6	北海道函館市
腎機能低下患者に対するリネゾリドの副作用発現頻度の調査と投与量の考察	一野 勇太	小野 徹・鈴木 景就・笠井 一憲・芦名 正生・青木有希子・木谷 梨絵・柴田麻里子・寺嶋 望・中村 圭介・又村 健太・松倉 瑞希・上野 誠子	第10回日本腎臓病薬物療法学会	H28.11.19	神奈川県横浜市
3000日を越える慢性腰痛症例に対する、集学的入院治療の効果(ポスターセッション)	髭内 紀幸	花田 健・本間 未咲・早川 晃子・三名木泰彦	第9回日本運動器疼痛学会	H28.11.26	東京都千代田区
当院における脊椎・腰痛外来の現状と課題(ポスターセッション)	花田 健	髭内 紀幸・早川 晃子・柴田麻里子・辻永 由紀・四十坊麻由・二口 央菜・三名木泰彦	第9回日本運動器疼痛学会	H28.11.27	東京都千代田区
前頭葉症状、パーキンソニズム、癩性、脳幹ミオクロースと進展した60歳代男性	越智龍太郎	山田 稔・池田 和奈・外山祐一郎・津田 玲子・林 貴士・松谷 学	札幌医科大学神経内科症例発表会	H28.12.17	札幌市
橈骨遠位端骨折を受傷した閉経後女性は移動能力が低下している	織田 崇	和田 卓郎・近藤 真章・髭内 紀幸・石垣 政次・濱崎 允・岩田 好子(山形済生病院)	第132回北海道整形災害外科学会	H29.1.28	札幌市
橈骨遠位端骨折背屈変形治療後に発症した小指深指屈筋腱断裂の1例	織田 崇	和田 卓郎・藤本秀太郎・上畠 聡志・目良 紳介・三名木泰彦・近藤 真章・山中 佑香	第132回北海道整形災害外科学会	H29.1.29	札幌市
多職種介入による橈骨遠位端骨折受傷後の骨粗鬆症診療への影響	上畠 聡志	織田 崇・和田 卓郎	第132回北海道整形災害外科学会	H29.1.28	札幌市
大腿骨近位部骨折後の移動能力低下に関与する因子の検討	藤本秀太郎	織田 崇・上畠 聡志・目良 紳介・三名木泰彦・和田 卓郎・近藤 真章・髭内 紀幸・吉田みのり	第132回北海道整形災害外科学会	H28.1.29	札幌市
裂離骨片を伴った小児反復性肘関節脱臼の1例	藤本秀太郎	織田 崇・和田 卓郎	第132回北海道整形災害外科学会	H29.1.29	札幌市
人工膝関節置換術後のCPM中におけるアイシングの有用性	真田 智広	桑鶴 律子・岸本 悦子・白岩美紗子・仙保 知子	第69回済生会学会	H29.1.29	神奈川県横浜市
人工関節置換術患者の鎮痛薬使用状況と急性腎障害のリスク因子の検討	松倉 瑞希	上野 誠子・鈴木 景就・小野 徹・笠井 一憲・柴田麻里子・一野 勇太・青木有希子・中村 圭介・芦名 正生・木谷 梨絵・寺嶋 望・又村 健太・目良 紳介	第69回済生会学会	H29.1.29	神奈川県横浜市
当院における抗がん剤曝露対策への取り組み	又村 健太	上野 誠子・鈴木 景就・小野 徹・芦名 正生・柴田麻里子・一野 勇太・木谷 梨絵・青木有希子・笠井 一憲・寺嶋 望・松倉 瑞希・中村 圭介	第69回済生会学会	H29.1.29	神奈川県横浜市
終末期肺がん患者に対する緩和ケアチームの関わり	米田健太郎	富樫 優樹・西田 衣里・村井海夢・石渡 明子・明石 浩史	第69回済生会学会	H29.1.29	神奈川県横浜市
当院入院時新嚙下スクリーニング検査の有用性	加賀 潤輝	須藤 榮・竹内 渚・吉田 ゆり・石川 瑛梨	第69回済生会学会	H29.1.29	神奈川県横浜市

演題名	発表者	共同発表者	学会名	発表年月日	場所（市町村）
認知症の病型による嚥下機能の特徴～当院の嚥下造影検査から	須藤 榮	松谷 学・竹内 渚・ 加賀 潤輝・石川 瑛梨・ 吉田 ゆり・長谷川 格	第69回済生会学会	H29.1.29	神奈川県横浜市
医療と介護の連携強化を目指して～地域コミュニティエリアの設置～	阿島 亮	野村 信平・五十嵐浩司	第69回済生会学会	H29.1.29	神奈川県横浜市
裂離骨片を伴った小児反復性肘関節脱臼の1例	藤本秀太郎	織田 崇・和田 卓郎	第29回日本肘関節学会	H29.2.4	東京都港区
自然排出した膀胱異物の一例	堀田 浩貴	安達 秀樹	第27回日本性機能学会東部総会	H29.2.18	東京都千代田区
進行胃癌に合併したびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する化学療法を優先し良好な治療経過を得た高齢者症例	明石 浩史	水越 常德・宮地 敏樹・ 舩谷 治郎・田中 道寛・ 織田 崇・長谷川 格・ 孫 誠一・田山 誠	第279回日本内科学会北海道地方会	H29.2.18	札幌市
治療途中からのアドバンスケアプランニングにより在宅退院、透析中止の意思決定ができた一事例	石渡 明子	明石 浩史・安達 秀樹・ 堀田 浩貴	第31回日本がん看護協会学術集会	H29.2.4	高知県高知市
当院のカンファレンスにおける改善の効果	黒田 博利	三浦富美彦・林 知代・ 白井美奈子・三崎 一彦・ 小松多津子・白杵 美花・ 藤田真由美・吉田みのり・ 津田 玲子	回復期リハ病棟協会第29回研究大会	H29.2.11	広島県広島市
上腕骨近位部骨折に橈骨神経麻痺を合併した全盲の事例	野村 詩織	—	現職者共通研修会	H29.2.18	北海道札幌市
認知症の病型による嚥下機能の特徴～当院の嚥下造影検査から	須藤 榮	松谷 学・多田 梨保・ 長谷川 格	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	H29.2.24	岡山県岡山市
済生会小樽病院でのタベンタドールの使用経験	鈴木 景就	明石 浩史・石渡 明子・ 村川麻里子	第6回がん薬物療法研究検討会	H29.2.25	札幌市
「てんかん」の記述について（4）	松谷 学	林 貴士・津田 玲子・ 越智龍太郎	第100回日本神経学会北海道地方会	H29.3.4	北海道札幌市
前頭葉症状、パーキンソニズム、癡性、小脳失調、脳幹ミオクローヌスと進展した60歳代男性	越智龍太郎	山田 稔・池田 和奈・ 外山祐一郎・津田 玲子・ 林 貴士・松谷 学	第100回日本神経学会北海道地方会	H29.3.4	北海道札幌市

講 義

	講師	講義テーマ	講義名	講義先	年月日	場所
診療部	明石 浩史	バイオインフォマティクス	応用医療情報科学	札幌医科大学 医学部医学科4年	H28.4.5	札幌市
		情報倫理とリスク	応用医療情報科学	札幌医科大学 医学部医学科4年	H28.4.12	札幌市
		医療情報の標準化	応用医療情報科学	札幌医科大学 医学部医学科4年	H28.4.19	札幌市
	松谷 学	急変時・緊急時の対応～BLSは習った、で いつ使う？	院内看護部教育主催研修	済生会小樽病院 (看護部)	H28.4～	小樽市
		医療倫理について	平成28年度済生会小樽病院 新人教育研修プログラム	済生会小樽病院	H28.4.4	小樽市
		全身疾患に伴う神経病態	臨床教授 札幌医科大学医学部講義	札幌医科大学医学部 学生神経内科学分野	H28.7.14	札幌市
		急変時・緊急時の対応～BLSは習った、で次につなげるには？	院内看護部教育主催研修	済生会小樽病院 (看護部)	H28.8.17	小樽市
		・総合医療「和漢薬をどう現代の医療に役立てるかー神経疾患領域の補完代替療法」	臨床教授 札幌医科大学医学部講義	札幌医科大学 医学部（4年目学生）	H28.10.26	札幌市
		神経疾患の病態と看護	看護学授業	小樽看護専門学校	H28.11.5・9	小樽市
	水越 常德	内分泌	看護学授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	H28.4～	小樽市
	堀田 浩貴	腎・泌尿器	看護学授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	H28.4～	小樽市
	安達 秀樹	人体のしくみとはたらき 腎泌尿器・男性生殖器	看護学授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	H28.5～	小樽市
		疾病論 腎・泌尿器	看護学授業	小樽看護専門学校	H28.7～	小樽市
	薬剤室	鈴木 景就	薬剤室の活動について	看護部新人研修	新人看護師	H28.4.6
経管栄養・簡易懸濁法			看護部教育研修会	新人看護師	H28.5.25	小樽市
笠井 一憲		・水分・電解質輸液と電解質補正剤 ・静脈栄養剤 ・経腸栄養剤 ・栄養管理と薬 ・試験に出る!!輸液の知識	NST実地修練	NST実施修練受講生	H28.10.25～	小樽市
臨床検査室	辻田 早苗	臨床検査室のお仕事と採血管の話	看護部新人研修	済生会小樽病院看護部	H28.4.7	小樽市
		脱水と電解質	NST実地修練	NST実施修練受講生	H28.10.19	小樽市
放射線室	松尾 覚志	X線撮影とCT検査 核医学	成人看護授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	H28.10.5～	小樽市
栄養管理室	多田 梨保	病院における管理栄養士の役割	実習オリエンテーション	小樽医師会 看護高等専修学校	H28.5.10	小樽市
		医療の世界行ってみたらホントはこんな世界だった!？～管理栄養士の仕事について～	インターンシップ	小樽潮陵高校	H28.8.3	小樽市
		・NSTとは～より良い栄養療法を目指して～ ・脂質代謝、ビタミン、栄養アセスメント、必要エネルギーの算出 ・たんぱく質代謝、糖質代謝、微量元素、経腸栄養剤	NST実地修練	NST実施修練受講生	H28.10.18	小樽市
		病院における管理栄養士の役割	実習オリエンテーション	北海道科学大学 小樽看護専門学校 藤女子大学	H29.1.31 H29.2.20 H29.3.16・27	小樽市 小樽市 小樽市
	東 紗貴	当院の栄養管理について	看護部新人研修	新人看護師	H28.4.6	小樽市
	権城 泉	栄養食事療法	看護学校授業	小樽共育の森学園	H28.4.6～5.18	小樽市

講演

	演者	演題	講演会名	主催者	年月日	場所	
診療部	水越 常德	糖尿病について	小樽市医師会 市民健康教室	小樽市医師会	H28.6.9	小樽市	
	明石 浩史	消化器症状について	がん診療に携わる医師に 対する緩和ケア研修会	小樽市立病院	H28.12.16	小樽市	
	松谷 学	・せん妄について ・認知症の病態と診断 ・BPSDについて	認知症支援ナース育成研 修	済生会本部	H28.7.4・28 H28.10.17 H28.11.17	東京都 港区	
		認知症と私たち	北海道柔道整復師会 小樽ブロック秋の学術講 演会	北海道柔道整復師 会	H28.11.12	小樽市	
		認知症支援ナース育成をふりかえって	認知症支援ナース育成研 修	済生会本部	H29.2.3	東京都 港区	
		認知症かな、と思ったら	小樽掖済会病院 認知症講演会	小樽掖済会病院	H29.3.23	小樽市	
	林 貴士	認知症の病態	平成28年度NSTセミナー	N S T委員会	H28.6.24	小樽市	
		認知症加算Ⅱに関して	院内認知症研修会（基礎 編）	済生会小樽病院	H28.11.22	小樽市	
	津田 玲子	認知症について	小樽市医師会 市民健康教室	小樽市医師会	H28.4.28	小樽市	
		意識障害の臨床について	小樽市救急医療懇談会	小樽市	H28.10.25	小樽市	
	織田 崇	橈骨遠位端骨折からみた骨粗鬆症	第3回北海道手外科 ハンドセラピー研究会	北海道手外科 ハンドセラピー研究会	H28.7.9	札幌市	
		・骨粗鬆症はなぜ治療するのか ・骨が折れる人・折れない人 ・骨が折れないためにできること	済生会健康セミナー	済生会小樽病院	H28.8.24 10.19 11.18	小樽市	
		骨粗鬆症への早期介入の取り組み -DXAと橈骨骨折からの介入	小樽骨粗鬆症地域連携セ ミナー	小樽市医師会	H28.9.6	小樽市	
		スポーツによる手のケガ-知っておき たい大切なケガ	済生会健康フェスタ in 小樽	済生会小樽病院	H28.9.25	小樽市	
		橈骨遠位端骨折後の2次骨折予防 -はじめの一歩	社内研修会	旭化成ファーマ 久光製薬	H29.2.22 H29.3.3	札幌市 札幌市	
	安達 秀樹	透析患者とがん治療～当院での治療～	中外製薬株式会社社内講 演会	中外製薬株式会社	H28.8.5	小樽市	
		ピートル処方患者の経過報告	キッセイ薬品工業株式会社 アドバイザーミーティ ング	キッセイ薬品工業 株式会社	H28.10.19	札幌市	
		ザルティア処方例の報告	日本新薬株式会社 社外講師招聘勉強会	日本新薬株式会社	H29.2.24	札幌市	
	薬剤室	上野 誠子	薬との上手なつきあい方	小樽市民健康教室	小樽市医師会	H28.6.9	小樽市
		鈴木 景就	第10回日本緩和医療薬学会	医療技術部 伝達講習	医療技術部教育委 員会	H28.11.8	小樽市
病院薬剤師の現場での業務について			社内学術講演会	日本製薬株式会社	H29.1.23	小樽市	
笠井 一憲		薬の基礎知識	出前健康教室	済生会小樽病院	H28.10.19	小樽市	
		NSTにおける薬剤師の役割	第105回小樽Metabolic Club	N S T委員会	H28.7.12	小樽市	
青木有希子		いまさら聞けない!!輸液の話	第111回小樽Metabolic Club	N S T委員会	H29.3.14	小樽市	
		冬に多い病気と対策	おたるなでしこ友の会 会員講演会	なでしこ友の会	H29.1.21	小樽市	
村川麻里子		コツコツ続ける薬物治療	第15回済生会健康セミ ナー	小樽市民	H28.11.18	小樽市	
栄養管理室	多田 梨保	やっぱりNSTって大事！より良い栄 養療法を目指して	第174回集談会	済生会小樽病院	H28.4.18	小樽市	

栄養管理室	多田 梨保	NSTとは～総論～	第105回小樽Metabolic club	済生会小樽病院 NST	H28.7.12	小樽市	
		栄養指導件数増加のための当院の取り組みについて	小樽栄養士会学習会	小樽栄養士会	H28.7.26	小樽市	
		今だからこそ、求められる接遇	医療技術部研修会	済生会小樽病院医療技術部教育委員会	H29.2.7	小樽市	
		当院の「減塩」に対する栄養教育の取り組み～地域の栄養改善を目指して～	平成28年度特定給食施設・給食施設の栄養担当者研修会	小樽市保健所	H29.3.9	小樽市	
	東 紗貴	管理栄養士とNST	第105回小樽Metabolic club	済生会小樽病院 NST	H28.7.12	小樽市	
		高齢者の為の食事と栄養	高齢者のための栄養	道新文化センター	H28.10.19	小樽市	
	権城 泉	「腸活のすすめ」～あなたの腸はこんなにかわれる～	第103回小樽Metabolic club	済生会小樽病院 NST	H28.4.12	小樽市	
		減塩のすすめ	勉強会	糖尿病患者会 おたるなでしこ友の会	H28.5.28	小樽市	
		脱水予防	出前健康教室	グループホーム夢あかり	H28.6.29	小樽市	
		高齢者の為の食事	出前健康教室	入船六三町会	H28.8.17	小樽市	
		高齢者のための栄養と食事～食欲不振や誤嚥対策～	高齢者のための栄養	道新文化センター	H28.11.16	小樽市	
		第20回日本病態栄養年次学術集会学会	伝達講習	済生会小樽病院医療技術部教育委員会	H29.3.28	小樽市	
	松村亜貴子	骨粗鬆症のための健康教室～丈夫な骨は毎日の食事から～	健康セミナー	済生会小樽病院	H28.8.24	小樽市	
		高齢者のための「食事と栄養」脱水予防について	高齢者のための栄養	道新文化センター	H28.12.21	小樽市	
	リハビリテーション室	三崎 一彦	北海道作業療法のこれまでとこれから	倭会作業療法研究会第1回セミナー	倭会作業療法研究会	H28.7.30	伊達市
			成人学習理論に基づく診療参加型臨床実習	小樽臨床作業療法研究会ワークショップ	小樽臨床作業療法研究会	H28.11.23	小樽市
			作業を基盤とした実践 診療参加型臨床実習	第27回医療法人ケイ・アイ研修会	医療法人ケイ・アイ	H29.1.21	北見市
			成人学習理論に基づく診療参加型臨床実習	小樽臨床作業療法研究会第2回ワークショップ	小樽臨床作業療法研究会	H29.2.11	函館市

座 長

	座長	学会・講演名	座長を行った演題	主催者	年月日	場所
診療部	和田 卓郎	第59回日本手外科学会	Travelling Fellow報告	日本手外科学会	H28.4.19	広島市
		第89回日本整形外科学会	シンポジウム10 母指CM関節症治療の最前線	日本整形外科学会	H28.5.13	横浜市
		第42回日本整形外科スポーツ医学 会	肘 (OCD)	日本整形外科ス ポーツ医学会	H28.9.17	札幌市
		第71回米国手外科学会	Elbow/Forearm Reconstruction	米国手外科学会	H28.9.29	米国 オースチン
		第43回日本マイクロサージャリー 学会	骨移植2	日本マイクロサ ージャリー学会	H28.11.16	広島市
		第31回日本手外科研究会	TFCC他	日本手外科研究会	H29.2.11	札幌市
	水越 常德	第16回内分泌学会北海道地方会	一般演題 内分泌	日本内分泌学会	H28.11.6	札幌市
	明石 浩史	第119回日本消化器病学会北海道支 部例会	一般演題 大腸4	日本消化器病学会	H28.9.4	札幌市
	松谷 学	第2回さっぽろCNSクロストーク	認知症特にBPSDに対す る治療戦略	札幌医科大学 神経内科学講座 神経精神学講座	H28.5.19	札幌市
		第9回臨床医のためのてんかんセミ ナー	特別講演「非痙攣性てん かん重積状態 (NCSE) の話題と実臨床」	臨床医のための てんかんセミナー	H28.12.1	札幌市
第9回臨床医のためのてんかんセミ ナー		症例提示「NCSEを合併 した症例」	臨床医のための てんかんセミナー	H28.12.1	札幌市	
織田 崇	第31回東日本手外科研究会	橈骨遠位端骨折-合併症 と合併損傷	東日本手外科研究 会	H29.2.11	札幌市	
薬剤室	鈴木 景就	小樽薬剤師会生涯教育研修会	緩和医療に関わる薬剤師 さんへ	小樽薬剤師会	H29.1.24	小樽市
放射線室	舟見 基	平成28年度 一般社団法人北海道 放射線技師会 (小樽後志) 秋季会員 研究発表会 (連番388回)	会員研究発表2	北海道放射線技師 会	H28.10.15	小樽市
リハビリテーション室	三崎 一彦	第50回日本作業療法学会	一般演題 運動器	日本作業療法学会	H28.9.9	札幌市
	山中 佑香		ポスター発表 運動器			
	白井美奈子		ポスター発表			
事務部	浦見 悦子	第69回済生会学会	ポスター発表 人事 (人材確保・人材育 成・職員確保)	済生会学会	H29.1.29	横浜市

認定資格

	名前	認定学会名	認定資格
診療部	近藤 真章	日本整形外科学会	専門医・認定脊椎脊髄病医・認定スポーツ医・リウマチ医
		日本体育協会	公認スポーツドクター
		日本医師会	認定産業医
	和田 卓郎	日本整形外科学会	専門医
		日本手外科学会	専門医
		日本体育協会	スポーツドクター
	水越 常德	日本内科学会	認定医・指導医
		日本内分泌学会	指導医・専門医
		日本甲状腺学会	専門医
		日本消化器病学会	専門医
		日本環境感染学会	I C D
		日本人間ドック学会	認定医
	明石 浩史	日本内科学会	認定医
		日本消化器病学会	専門医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本消化器内視鏡学会	専門医
	松谷 学	日本神経学会	専門医、指導医
		日本内科学会	認定内科医・教育関連施設指導医・総合内科専門医
	林 貴士	日本神経学会	指導医・専門医
		日本内科学会	認定内科医・総合内科専門医・教育関連施設指導医
		日本認知症学会	認知症サポート医
	津田 玲子	日本神経学会	専門医
		日本内科学会	認定内科医・JMECC指導アシスタント・教育関連施設指導医
	越智龍太郎	日本神経学会	専門医
		日本内科学会	認定内科医・JMECC修了
	長谷川 格	日本外科学会	指導医・専門医・認定医
		日本消化器病学会	指導医・専門医
		日本消化器外科学会	認定医・消化器がん外科治療認定医
		日本内視鏡外科学会	技術認定医
		日本静脈経腸栄養学会	認定医
	孫 誠一	日本外科学会	認定医・専門医・指導医
		日本消化器病学会	専門医
		日本消化器外科学会	専門医・消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構		がん治療認定医・暫定教育医	
日本乳がん検診精度管理中央機構		検診マンモグラフィ読影認定医	
織田 崇	日本整形外科学会	脊椎脊髄病医・整形外科専門医	
	日本手外科学会	手外科専門医	
	日本骨粗鬆学会	認定医	
堀田 浩貴	日本泌尿器科学会	専門医・指導医	
	日本性機能学会	専門医	
	I C D制度協議会	インフェクションコントロールドクター	
	日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	
	日本医師会	産業医	
	日本化学療法学会	抗菌化学療法認定医	
安達 秀樹	日本泌尿器科学会	専門医・指導医	
	日本性機能学会	専門医	

看護部	大橋とも子	日本消化器内視鏡技師会	内視鏡技師
		北海道病院協会・全日本病院協会	医療安全管理者
	金澤ひかり	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	伊藤 瑞代	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	兒玉真夕美	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	石渡 明子	日本緩和医療学会	ELNEC-J指導者
		日本看護協会	緩和ケア認定看護師
		北海道看護協会	災害支援ナース
	瀬川 信子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	猪股 光	厚生労働省	特定科学物質作業主任者
小田佐智子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師	
菊地麻衣子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師	
薬剤室	上野 誠子	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		都道府県知事	介護支援専門員
	鈴木 景就	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師
		日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
	小野 徹	日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師
		日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師
	笠井 一憲	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		都道府県知事	介護支援専門員
		日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		日本食品安全協会	健康食品管理士
	村川麻里子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師
	青木有希子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本くすりと糖尿病学会	糖尿病薬物療法准認定薬剤師
	中村 圭介	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
木谷 梨絵	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	
臨床検査室	坂上 延雄	臨床化学会	認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技士
		日本臨床衛生検査技師会	総合監理検査技師制度認定管理検査技師・認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師
		日本病院会	診療情報管理士
	辻田 早苗	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本超音波医学会	超音波検査士(循環器)
	逢坂裕美子	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
放射線室	松尾 覚志	医療情報学会	医療情報技師
		科学技術庁	第一種放射線取扱主任者
		日本X線専門技師認定機構	X線C T 認定技師
	舟見 基	日本X線専門技師認定機構	X線C T 認定技師
		日本放射線技師会	放射線管理士・放射線機器管理士
	久保田裕美	日本乳がん検診制度管理中央機構	検診マンモグラフィー撮影認定技師
高橋 志織	日本X線専門技師認定機構	X線C T 認定技師	
	日本乳がん検診制度管理中央機構	検診マンモグラフィー撮影認定技師	

リハビリテーション室	髭内 紀幸	日本理学療法士協会	運動器認定理学療法士
		3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
		日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
		国際統合リハビリテーション協会	I L P T プラクティショナー
	三崎 一彦	日本作業療法士協会	認定作業療法士
		テクノエイド協会	福祉用具プランナー
須藤 榮	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士	
白井美奈子	日本テクノエイド協会	福祉用具プランナー	
髭内 朝美	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士	
栄養管理室	多田 梨保	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本病態栄養学会	病態栄養認定管理栄養士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
		日本栄養経営実践協会	日本栄養経営士
	東 紗貴	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
	権城 泉	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
	松村亜貴子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
	臨床工学室	笹山 貴司	北海道病院協会
日本生体医工学会			第2種ME技術実力検定
横道 宏幸		3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
吉田 昌也		3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士

V 職員福利厚生会

■ 総 括

当会は職員の福利厚生の増進と職員相互の親睦を図ることを目的に平成15年4月に設立されました。主に親睦会等の行事運営が中心となりますが、クラブ活動の運営補助や職員の医療費の補助も行っています。平成28年度は以下の行事、クラブ活動を実施致しました。

【平成28年度実行事】

- 6月19日（日） 小樽運河ロードレース
参加人数：10名
- 6月25日（土） 新人歓迎会
参加人数：113名
- 7月30日（土） 小樽潮祭りねりこみ
参加人数：170名

- 8月20日（土） 済生会ソフトボール大会
雨天中止
- 11月 5日（木） ボーリング大会
参加人数：35名
- 12月15日（木） 忘年会
参加人数：291名

【クラブ活動】

- 野球部
- 写真部
- フットサル部
- 駅伝（リレーマラソン）部

福利厚生会常務理事 五十嵐浩司



部 活 動

野 球 部

【メンバー（平成28年4月1日現在）】

診療放射線技師 1名
臨床工学技士 1名
薬剤師 1名
理学療法士 7名
言語聴覚士 1名
合計 11名

【活動概要】

平成22年より職員福利厚生会クラブとして設立。毎年4月から9月までの大会期間および練習にて活動。主な大会として春季読売旗争奪朝野球大会、夏季朝野球大会、秋季読売杯争奪朝野球大会に出場。

【活動実績】

平成24年 Cクラス
春季読売旗争奪朝野球大会 優 勝
平成25年 Bクラス昇格
夏季野球大会（A B混合） 優 勝
平成26年 春季読売旗争奪朝野球大会 準優勝
秋季読売杯争奪朝野球大会 準優勝
平成27年 Aクラス昇格
秋季読売杯争奪朝野球大会 3位

【一 言】

今年度は、Aクラスに残留そして優勝を目指し、練習を重ねていきます。

リハビリテーション室 加賀 潤輝



フットサル部

【メンバー】

医療技術部 リハビリテーション室 18名
看護部 2名
計20名（男15名 女5名）

【活動報告】

- ・小樽市内小学校体育館にて活動（不定期）
- ・札幌市内フットサル施設大会参加（イーワンカップ）

【フットサル部よりひとこと】

初心者、経験者が混ざって楽しく活動しています。部内メンバーでの練習、試合はもちろん院外の大会への参加、他病院との試合などいろいろな活動を行っています。興味のある方、やってみたい方の連絡お待ちしております。

リハビリテーション室 阿部健太郎



写真部

【メンバー（平成28年度）】

6名（看護部1名、地域医療支援課2名、リハビリテーション科1名、臨床検査課1名）

【活動概要】

平成24年度に新規設立しました。各病棟廊下の写真展示、潮まつりや忘年会などの病院行事撮影、季節毎の写真撮影会、写真コンテストへの参加など活動しております。

【活動報告】

- ・写真撮影
病院行事の撮影（小樽潮まつり、済生会健康フェスタ、忘年会、なでしこキッズ雪明りなど）
屋外写真撮影会
- ・コンテスト応募
小樽市写真展（市展）入選
北海道写真展（道展）入選
シノテストフォトコンテスト入選
オーズ百合園フォトコンテスト入賞

【ひとこと】

患者さんやご家族のみなさんが作品を見て四季を感じたり息抜きをしていただけるような写真掲示をしていきたいと考えています。

看護部 田中 聖美



駅伝部

【平成28年度部員】

医療技術部 薬剤室 2名
リハビリテーション室 14名
計16名（男11名、女5名）

【活動内容】

平成26年度より新規設立しております。
主に北海道内で開催される駅伝・リレーマラソン大会へ参加しています。

【活動報告】

平成28年度
9月17日 ほのかグループPRESEENTS
第4回AIR'-G42.195kmリレーマラソンinモエレ沼公園参加

【活動実績】

完走しました！順位は気にせず楽しむことをモットーにしております！

【アピールポイント】

結果よりもみんなでワイワイ楽しむことを重視しています。

完走後にビールを楽しむことが入部条件です！しかし！

来年度から休部することになりました。。

また復活することがあれば、みんなで楽しみましょう！

ではまた、会う日まで！

リハビリテーション室 三浦富美彦



院内保育所「なでしこキッズクラブ」

職員の福利厚生の一環とし、子育て支援の充実を図っています。内装並びに備品等も子どもたちの安全面を配慮した施設になっています。一時保育も柔軟に対応でき、安心して働きやすい環境づくりに努めています。

【スタッフ】

所長 近藤 真章 (病院長)

保育士 病院職員 1名

株式会社プライムツーワン職員 6名

【運営の概要】

設置年月日 昭和48年12月1日

運営方法 委託

保育所面積 222.64㎡

定員 40名

保育対象年齢 0歳～小学校就学前

保育料 10,800円/月

休園日 日曜日、祝日、年末年始
(12/31～1/5)

【年間行事実績】

4月		10月	ハロウィン
5月	子どもの日おたのしみ会	11月	
6月	親子遠足	12月	クリスマス発表会
7月		1月	お正月
8月	夏まつり	2月	豆まき、雪まつり見学
9月	動物園遠足 運動会 お月見(おだんご作り)	3月	ひなまつり お別れ・進級おめでとう会

※毎月 お誕生会、避難訓練、身体測定を実施

※年3回 歯科健診を実施

【今後の目標】

保育目標でもあります「いっぱい遊んですくすく育て～心もからだもたくましく育ちあう子ども」を心がけ、子どもたちがけががなく元気に笑顔で過ごせるように心がけていきます。

子供たちとともに

保育士 富田 恭子

年々子供が増え、なでしこキッズクラブは元気な声であふれています。そんな中、今年も一年無事過ごすことができました。

夏祭りでは、かわいい甚平・浴衣を着て、くじ引き・ヨーヨー釣り・お化け屋敷などを楽しみ、運動会は今年も体育館で行い、お父さん、お母さん方と共に楽しむことができました。こうして、年間行事も保護者、関係者の方々のご協力いただき終えることができありがとうございました。来年もよろしくお祈りします。



子供の成長

医療クラーク課 小路 璃沙

私が働き始めた時、息子はまだ9ヶ月でした。人見知りか少しずつ出てきた頃だったので慣れるまで時間がかかるかと思っていましたが、初日から泣くこともなく毎日元気に通っています。体調不良や長期の休みで託児所に行かない日が続くと、家の中で先生の名前を呼ぶこともあり、毎日楽しく過ごしているのだと嬉しく感じています。

連絡帳には毎日の様子が書かれており、見るのが帰宅後の楽しみになっています。また、夏祭りや運動会等の行事では家では見ることでできない姿に元気ももらおうと同時に、成長に毎回感動しています。

今までは年上のお兄さん・お姉さんに甘え一緒に遊んでもらっていたのが、最近月齢の近いお友達も増え、帰宅後にお友達の名前を必死に伝えてくれるようになりました。その分、思い通りにはいかずおもちゃの取り合いや泣く事も増えたようですが、そんなやり取りの中から色々な事を学び成長してほしいと思っています。



夏祭りに大好きなお友達と☆

仕事と育児のバランス

薬剤室 青木有希子

9月に子どもが1歳を迎え、保育所に預け始めました。しっかり1年間休暇を頂き、準備万端で迎えるはずでしたが、卒乳もできず離乳食も思うように進まず、保育所の先生に「これは食べられますか？あれは食べたことありますか？」と聞かれ、食べられないもの、食べさせたことがないものがいっぱいあり、なんだか子育てうまくいってないのかも…とショックを受けたのを覚えています。いざ仕事が始まってしまうと、そんな事も忘れてしまうくらい日々忙しく、子どもも保育園の環境・食事にもすぐに慣れ、毎日ノートに昼ごはんは完食しましたと書いてあり、ほっとする今日この頃です。自分自身に目を向けてみると、取りたい資格や、やりたい仕事は子どもができる前と同じようであり、前のようにはできない事に葛藤し、悩みながら過ごしています。ただ先輩ママに、仕事の代わりはいるけど、ママは一人しかいないんだからねと言われたことがありました。職場は理解があり、とてもいい環境で働かせていただいているので、その言葉を肝に銘じて、仕事と育児のバランスを取りながら頑張っていきたいと思います。



散歩

売店・食堂

●売店 ヤマザキYショップ

病院棟 1階

営業時間

月～金：8：00～19：00

土日祝：8：00～15：00

食料品、日用雑貨、医療用品、その他季節限定商品など幅広い品揃えです。

売店で一番人気はボリューム満点の「豆いっぱい大福」です。白とよもぎの2種類を販売しており患者さんやご家族、職員にも大人気です。全国のYショップ売上でも最高47位となりました。

平成28年度販売実績	
豆いっぱい大福(白)	6,851個
豆いっぱい大福(よもぎ)	6,458個
合計	13,309個(1日平均36.5個)



●職員食堂

管理棟2階

営業時間 月～金曜日 11：00～14：00

全42席

日替わりランチから麺類、カレーなど各種取り揃えております。季節イベント時には、ひな祭りメニューやクリスマスメニュー、バイキングなどのスペシャルランチ企画も盛りだくさんです。



あとがき

我が国の急速な人口減少と少子高齢化は、待ったなしの状況になっています。「全国の地方自治体の存続が難しくなる」と発表した日本創生会議の人口将来推計は、地方自治体をはじめ、政治・行政・経済・教育関係者に衝撃を与えました。それ以来、各界では「新たなまちづくり」や「地域包括ケアシステムの構築」という言葉が飛び交っています。

私たちの住むまちが持続的に発展していくためには、建物や道路の整備といったハード面と、住民の主体的な活動によるソフト面の両課題の視点に立った施策が必要となります。しかし、課題は山積です。

ハード面では、日本の都市構造に課題があります。戦後の人口や世帯数が一貫して増加するのに伴い、宅地の郊外化が進展し、市街地は、人口密度を低下させながら拡大してきました。その結果、拡散した都市構造のまま人口減少の局面を迎えることになってしまっています。一方、ソフト面では、少子高齢化を主因とする社会保障関連費の増加、高齢者の一人暮らしや高齢夫婦のみの世帯の増加、認知症高齢者の増加、介護労働者の不足など、高齢者を取り巻く様々な課題が顕在化しています。

当院が立地する小樽市は、全国平均を上回る少子高齢化の進展が著しく、日本の都市構造上の課題を持つに加えて、中山間地域や豪雪地帯であることが上述の課題をより複雑化させています。

地域住民が住み慣れたこの小樽で、健康で、また安心して暮らすためには、行政・医療・商業・文化等の諸機能の立地集約化を進めるとともに、地域包括ケアシステムを構築し、子供から高齢者までが暮らしやすい都市環境への転換が必要となります。

済生会小樽病院では、「地域住民の健康と安心のまちづくり」をビジョンに掲げ、新たなまちづくりに適した小樽市築港地区で事業を進展させ、地域の社会的課題解決に取り組んでまいります。

平成28年度事業を総括するにあたり、皆さまから頂きました多大なるご支援とご協力に、厚く御礼申し上げます。

院長補佐兼事務部長 櫛引 久丸

編集後記

年々発行時期を早めることができ、今年は9月中の発行を目指していましたがついに師走となってしまいました。オリンピックもワールドカップもなく、ファイターズがクライマックスシリーズにすら出場しなかった今年は早期発刊の絶好の機会だったのですが…。

「職員が読みたい年報」をコンセプトに掲げて発刊をはじめ、この年報が第3巻となります。定番の年間行事や診療実績、部署報告のほかに、編集委員が会議を重ねて様々な内容を盛り込みました。特に済生会小樽病院で働く「人」をできるだけ生き生きと伝えたいとの思いで、写真、寄稿、個人業績などをできるだけ多く掲載してきました。当院の職員はもちろん、この年報を手にして頂いた関係者の皆様に、一人ひとりが不安や葛藤をかかえながらも、同僚、上司そして家族に支えられて仕事に取り組むことができている様子をお伝えすることができたなら編集担当者として冥利に尽きます。

今年も多くの方々に原稿執筆を依頼し、快くお引き受け頂きました。この場をお借りして深謝申し上げます。今年号も編集委員のエースである秋元かおりさんの活躍によりなんとか発刊にこぎつけました。また、異動で多忙に輪をかけた秋元さんをサポートし、原稿収集と校正にご尽力下さった医局秘書の吉田理恵さんに感謝申し上げます。

織田 崇

編集委員長 織田 崇

編集委員 松江知加子、野村 信平、今野 晶子、中山 祐子、中村 圭介、中村 友洋
清水 雅成、秋元かおり、石橋 慶悟、吉田 理恵

済生会小樽病院年報 2016年度(平成28年度)

発行 社会福祉法人^{済生会}済生会支部北海道済生会小樽病院
〒047-0008 北海道小樽市築港10-1
TEL (0134)25-4321 FAX (0134)25-2888
ホームページ <http://www.saiseikai-otaru.jp/>

印刷 (株)北診印刷